

史料目録 第95集

近現代文書目録
(その1)

鈴木莊六文書
手島兵次郎文書
山口重次文書
赤井春海文書
熊田保文書



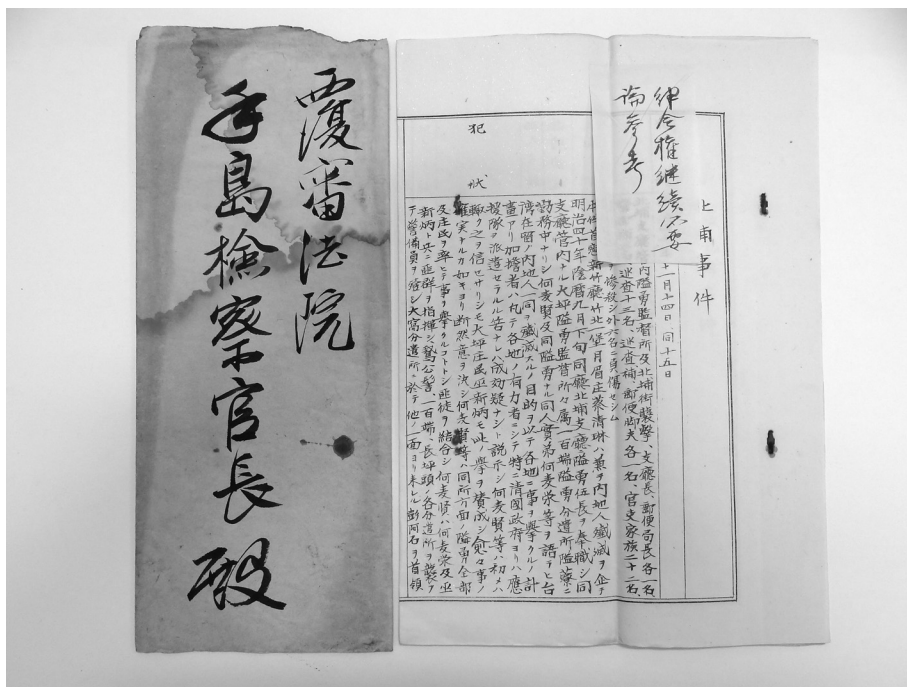
鈴木莊六文書 「自叙 莊六一代記」 (No.11)



鈴木莊六文書 「写真 (日露戦争当時)」 (No.275-8/ No.275-9)



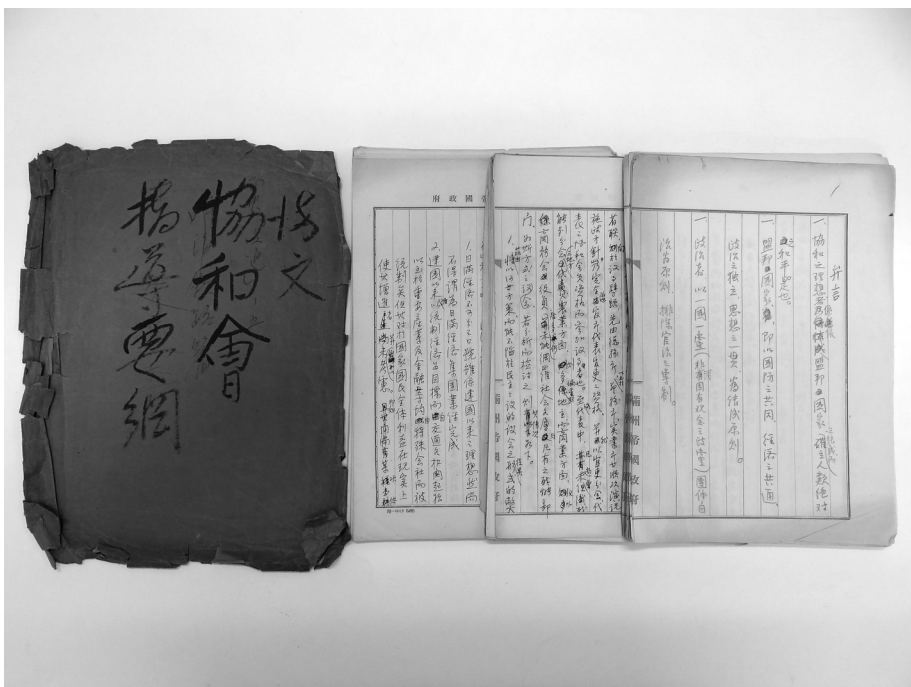
手島兵次郎文書 「法典調査会関係書類」(No.450-2)



手島兵次郎文書 「北埔事件他に関する書類」(No.467)



山口重次文書 「統治部」(No.49) 文書中の「交通通信ニ関スル条約案」(No.32)・
「東北交通委員会日本人職員に関する件」(No.36)



山口重次文書 「滿文 協和會指導要綱」(No.3)・協和會指導要綱原稿 (No.2)



赤井春海文書 「自大正十一年九月一日至全十二年四月十日日記」(No.2)・
「大正十二年四月ヨリ十二月マデ日記」(No.3)・
「橇に乗りて鴨緑江を下るの記」(No.4)・
「豆満江沿岸及間島視察余録」(No.5)



熊田保文書 「昭和二十年執務録」(No.2)・「撤退業務詳報」(No.22)・
「死亡俘虜遺骨引渡状況表」(No.3)

凡 例

1 本目録は、『史料目録』第95集として「近現代文書目録(一)」を収めた。本目録の対象は、「鈴木莊六文書」・「手島兵次郎文書」・「山口重次文書」・「赤井春海文書」・「熊田保文書」の5つの文書群から構成される。

2 目録の編成にあたっては文書群の階層構造に留意し、ISAD(G)(国際標準:アーカイブズ記述の一般原則)の考え方を参考にした。ただし、個人文書の場合、組織体文書と異なり、原秩序が崩壊、またはそもそも当初から体系的整理がなされていないケースが多く、それぞれの文書群の現状を踏まえた上での階層構造分析とシリーズ編成が必要になる。基本としては原蔵者の経歴に応じたシリーズレベル(サブ・シリーズレベルも含む)を設定したが、文書群の構造によっては経歴に形態別を加えた混合型、または形態別のみのシリーズ編成を行っている。なお、シリーズ(またはサブ・シリーズ)以下は文書の形態に応じてファイルまたはアイテムレベルを設定した。

3 文書の集合的記述は、フォンドとシリーズのレベルで解題を記した。

4 文書1点ごとの記述は、①表題・作成・宛先(表題、内容摘記、注記、作成または作成→宛先)、②年代(作成年月日、年代幅、西暦年)、③数量・形態・刻字、④整理番号、の順に記載した。

表題は、冊子型文書も書付型文書も原表題もしくは柱書を取り、それが無い場合には〔 〕で表題を付与した。また、原表題や柱書だけでは不十分で内容摘記が必要な場合、および注記事項は、その後に〔 〕で内容および注記事項を摘記した。さらに、複数の文書が一括されている文書の場合、表題に一括文書名を表記し、一点ごとの細目表題を以下に列記した。作成に関しては、表題欄に記載したが、作成者不明な場合で罫紙・用紙の種類から作成者が類推できるものは、「陸軍罫紙」などと補記した。また、破損等で判読不能な箇所は□で補った。

作成年月日に関しては、和暦と西暦を表記し、推定したものは〔 〕を付した。また、年代幅がある場合は、起点から終点までを表記した。

数量・形態・刻字は、綴・冊・枚で表記した。また、合綴または袋などで一括されているものは何種と表記した。その他、刻字は鉛筆を含めペン書きのものは「ペン」、墨書のものは「墨書」、タイプ打ちのものは「タイプ」、謄写版印刷のものは「謄写版」、活版印刷のものは「活版」、蒟蒻印刷のものは「蒟蒻版」、複写印刷のものは「複製」と表記した。

5 本目録が対象とした文書は、廃棄から当館受入後の整理までの過程で原秩序が失われ、整理された際の順序によって史料番号が付与されたため、目録上で史料が整理番号順に並んでいない。そのため番号による検索には不便をきたすので、史料の引用に際しては番号のほか掲載頁もできるならば併記することをお願いしたい。

6 本目録は研究部加藤聖文が担当した。鈴木莊六文書に関しては、2004年度に川島淳(駒澤大学大学院生)が作成した仮データを基に、手塚雄太(國學院大学大学院生)がデータ作成の補助にあたった。手島兵次郎文書に関しては、手塚雄太・近藤秀行(東京大学大学院生)・安原徹也(東京大学大学院生)・橋本陽(学習院大学大学院生)・雫石忠宏(学習院大学大学院生)が、山口重次文書および熊田保文書に関しては、手塚・橋本・雫石が、赤井春海文書に関しては加藤圭木(一橋大学大学院生)がデータ作成の補助にあたった。

総目次

口絵

凡例

総目次

近現代文書目録（その1）

鈴木莊六文書目録

目録本文細目次	3
解題	7
目録本文	13

手島兵次郎文書目録

目録本文細目次	51
解題	53
目録本文	57

山口重次文書目録

目録本文細目次	93
解題	95
目録本文	99

赤井春海文書目録

目録本文細目次	119
解題	121
目録本文	123

熊田保文書目録

目録本文細目次	131
解題	133
目録本文	135

鈴木莊六文書目錄

鈴木莊六文書目錄 本文細目次

Series No1: 公的活動（軍）	13
Sub-Series No.1: 教導団生徒	13
Sub-Series No.2: 士官学校生徒	13
文書	13
写真	14
Sub-Series No.3: 陸軍大学校生徒	14
文書	14
写真	14
徽章	15
Sub-Series No.4: 参謀本部員	15
Sub-Series No.5: 陸軍大学校教官（第1期）	15
Sub-Series No.6: 第2軍参謀	15
文書	15
地図	16
写真	17
Sub-Series No.7: 陸軍大学校教官（第2期）	18
Sub-Series No.8: 参謀本部作戦課長	19
文書	19
写真	19
Sub-Series No.9: 陸軍大学校幹事	19
Sub-Series No.10: 騎兵第3旅団長	20
Sub-Series No.11: 騎兵実施学校長	20
Sub-Series No.12: 第5師団長	20
文書	20
写真	22
Sub-Series No.13: 第4師団長	22
Sub-Series No.14: 台湾軍司令官	22
文書	22
写真	22

Sub-Series No.15: 朝鮮軍司令官	22
文書	22
写真	23
Sub-Series No.16: 参謀総長	23
文書	23
写真	23
Sub-Series No.17: 帝国在郷軍人会長	23
文書	23
写真	24
勲章	24
Series No2: 公的活動（その他）	25
Sub-Series No.1: 大日本武徳会長	25
文書	25
写真	25
Sub-Series No.2: 各種公的団体	26
全般	26
新潟県関係	27
Series No3: 個人	28
Sub-Series No.1: 文書	28
Sub-Series No.2: 書簡	29
Sub-Series No.3: 写真	29
軍関係	29
個人・家族	31
Sub-Series No.4: 位記・勲章	33
Sub-Series No.5: 書画	35
Sub-Series No.6: 服飾・物品	37
Series No4: 家族	38
Sub-Series No.1: 鈴木竹子	38
文書	38
書簡	38
書画	42

Sub-Series No.2: 鈴木重雄	44
文書	44
書簡	44
服飾	47

鈴木荘六文書目録 解題

(3.1.1) 資料記号：2003F

(3.1.2) 資料名称：鈴木荘六文書：The Paper's of SUZUKI, Soroku

(3.1.3) 年 代：1883（明治16）年－1943（昭和18）年

(3.1.5) 物的状態：818点（5.00m）

(3.2.4) 来 歴：鈴木荘六文書は鈴木死後、戦時中に内藤久寛（長男重雄の妻比呂子の父）の邸内（新潟県柏崎）に疎開されていた。なお、一部文書は知人が保管。戦後は坂本貞枝氏（重雄長女）の婚家（坂本家：新宿区内藤町）にて保管されていた後、2001年に当館加藤聖文が調査を行い、2003年度に鈴木重徳氏（重雄長男）より寄贈を受けた。

(3.2.2) 履 歴：鈴木荘六は慶応元年（1865）2月に商人鈴木高治の三男として新潟県三条に生まれた。明治14年（1881）4月に新潟県師範学校中等科入学、16年（1883）3月に卒業。18年（1885）12月に教導団入団。20年（1887年）9月に教導団を卒業後、砲兵二等軍曹となる。同年12月に士官候補生・騎兵第1大隊に入隊。21年（1888）11月に陸軍士官学校の第1期生として入学。23年（1890）7月に陸軍士官学校騎兵科を卒業。明治24年（1891）3月に騎兵少尉・騎兵第4大隊付となる。26年（1893）11月に騎兵中尉となり陸軍大学校入学。27年8月に騎兵第4大隊副官、翌28年（1895）4月から12月まで日清戦争に従軍。その間、11月に騎兵大尉・騎兵第4大隊中隊長。31年（1898）12月に陸軍大学校を次席で卒業、騎兵第11聯隊中隊長。32年（1899）12月に参謀本部出仕、33年（1900）3月に参謀本部員。33年7月から12月まで北清事変に従軍。同年12月に陸軍大学校教官。34（1901）年11月に騎兵少佐。37（1904）年3月に第2軍参謀、37年4月から39年1月まで日露戦争に従軍。その間、38年（1905）3月に騎兵中佐、同年9月に第2軍参謀副長。39年（1906）3月に陸軍大学校教官、41年（1908）1月に参謀本部員兼任、翌月に参謀本部員兼軍令部参謀。41年12月から43年12月まで参謀本部作战課長。その間、42年（1909）2月から11月まで欧州出張、同年4月に騎兵大佐。43年（1910）12月に陸軍大学校幹事。大正3年（1914）8月に陸軍少将・騎兵第3旅団長。5年（1916）5月に騎兵実施学校長。7年（1918）7月に陸軍中将。8年（1919）3月に広島第5師団長となり、同年8月から9年（1920）9月までシベリア出兵に従軍。大正10年（1921）6月に大阪第4師団長。12年（1923）8月に台湾軍司令官。13年（1924）8月に陸軍大将・朝鮮軍司令官。15年3月から昭和5年2月まで参謀総長。参謀総長時代の昭和3年（1928）6月に張作霖爆殺事件が起きる。5年（1930）2月に後備役編入。6年（1931）7月

から12年9月まで大日本武徳会会長。また、同年8月から12年（1937）2月まで帝国在郷軍人会会長。在郷軍人会会長時代には在郷軍人会の拡大を図り、天皇機関説問題にも積極的に関与する。また、7年（1932）7月から15年（1940）2月まで枢密顧問官。その間、12年（1937）4月に退役。15年2月東京にて死去。

(3.3.1) 構造と内容:鈴木荘六文書は、鈴木荘六の陸軍時代および在郷軍人会時代が中心である。内容は（一）日記（作戦課長時代・旅団長時代・シベリア出兵時・欧州出張時代）と回顧録（荘六一代記）および陸軍および在郷軍人会時代の関連書類（業務文書・訓示・地図・写真・辞令など）、（二）書簡（妻竹子・息子重雄関係が多い）、（三）その他（掛軸・書画・軍装類など）から構成される。軍人時代の文書が中心であるが、なかでも日露戦争期の文書・地図・写真が多い。なお、文書群には妻竹子および長男重雄（陸軍中佐）関係の文書（書簡など）が混入している。

本目録では、4つのSeries（No.1: 公的活動（軍）・No.2: 公的活動（その他）・No.3: 個人・No.4: 家族）を設定し、その下に必要に応じてSub-Seriesを設定した。まず、本文書群の中核を占めるSeries No.1「公的活動（軍）」については、17のSub-Seriesを設定した。これらは鈴木軍歴に対応するものであり、列記すると以下の通りとなる。教導団入団前の小学校訓導時代および教導団の文書から構成される「No.1: 教導団生徒」、陸軍士官学校時代の文書から構成される「No.2: 士官学校生徒」、陸軍大学校時代および日清戦争従軍中の騎兵第4大隊時代、復員後の騎兵第11聯隊時代の文書から構成される「No.3: 陸軍大学校生徒」、北清事変従軍関係を含む参謀本部員時代の文書から構成される「No.4: 参謀本部員」、陸軍大学校兵学教官時代の文書から構成される「No.5: 陸軍大学校教官（第1期）」、日露戦争に第2軍参謀（後に参謀副長）として従軍した際の文書から構成される「No.6: 第2軍参謀」、再度の陸軍大学校教官時代の文書から構成される「No.7: 陸軍大学校教官（第2期）」、参謀本部参謀および作戦課長時代（欧州出張関係を含む）の文書から構成される「No.8: 参謀本部作戦課長」、陸軍大学校幹事時代の文書から構成される「No.9: 陸軍大学校幹事」、騎兵第3旅団長時代の文書で構成される「No.10: 騎兵第3旅団長」、騎兵実施学校校長時代の文書で構成される「No.11: 騎兵実施学校校長」、広島第5師団長時代（シベリア出兵関係を含む広島第5師団長時代の文書から構成される「No.12: 第5師団長」）、大阪第4師団長時代の文書から構成される「No.13: 第4師団長」、台湾軍司令官時代の文書から構成される「No.14: 台湾軍司令官」、朝鮮軍司令官時代の文書から構成される「No.15: 朝鮮軍司令官」、参謀総長時代の文書で構成される「No.16: 参謀総長」、退役後の帝国在郷軍人会会長時代の文書から構成される「No.17: 帝国在郷軍人会会長」である。

次に、Series No.2「公的活動（その他）」については、大日本武徳会会長時代の文書から構成される「No.1: 大日本武徳会長」と県人会などの各種団体関係の文書から構成される「No.2: 各種公的団体」のSub-Seriesを設定した。

さらに、Series No.3「個人」に関しては、「No.1: 文書」・「No.2: 書簡」・「No.3: 写真」・「No.4: 位記・勲章」・「No.5: 書画」・「No.6: 服飾・物品」の6つのSub-Seriesを設定した。

最後に、Series「No.4: 家族」については、妻竹子の個人文書から構成される「No.1: 鈴木竹子」と長男重雄の個人文書から構成される「No.2: 鈴木重雄」の2つのSub-Seriesを設定した。以下、4つのSeriesおよびSub-Seriesについて解説を加える。

Series No.1 「公的活動（軍）」は、鈴木莊六の生涯にわたる活動の大半を占め、本文書群の中核であるが、多くは任命などに関わる辞令書・官記類である。鈴木莊六文書は、業務関係の文書が少なく、ある特定の Series にしか業務文書が残存していないという特徴を持っている。業務文書が存在せずほぼ辞令類（この他数点の写真など）で占められている Sub-Series は、「No.1: 教導団生徒」・「No.2: 士官学校生徒」・「No.3: 陸軍大学校生徒」・「No.4: 参謀本部長」・「No.5: 陸軍大学校教官（第1期）」・「No.7: 陸軍大学校教官（第2期）」・「No.9: 陸軍大学校幹事」・「No.11: 騎兵実施学校長」・「No.15: 朝鮮軍司令官」の9つである。これら以外の Sub-Series では、業務文書が含まれているが、「No.14: 台湾軍司令官」の業務文書は1点のみである。また、写真や徽章類がある場合は、Sub-Series の下に Sub-Sub-Series として「写真」・「徽章」などを設定したが、便宜的なものであって、資料群構造を反映させたものではない。

Sub-Series のなかでもっとも多く業務文書を含む 「No.6: 第2軍参謀」は、死傷表などの統計資料の他、戦闘関係の地図と戦地写真から構成される。これらは第2軍作戦主任参謀としての業務に基づいて鈴木個人の手許に蓄積されたものであり、また、のちに陸軍大学校において行われた日露戦争の講義に活用されたものと思われる。なお、この Series の下に、3つの Sub-Sub-Series（「文書」・「地図」・「写真」）を設定した。これらは形態別となっているが、上述したように便宜的なものであって、Sub-Series 内部の構造を反映させたものではない。鈴木莊六文書は、受入時点において原秩序が失われていたことと、調査時点でそれぞれ形態別に区分されていたため、これらの事情を考慮した結果、このような編成を行った。なお、Sub-Series 「No.6: 第2軍参謀」に含まれる資料の内、地図「日露戦役記念地図（奥第二軍鈴木莊六作戦主任参謀使用）」（No.347-2）は戦後の一時期、長男重雄氏から反町栄一氏の手許に移されていたものである。この地図以外にも反町氏所蔵となっていたものが数点あるが、その理由は明らかではない。また、地図「〔日露戦争関係地図一括〕」（No.254-6）は「鈴木総長」との書き込みがあり、鈴木が参謀総長時代に使用していた形跡がうかがえる。参謀総長時代にこの地図を入手したものが第2軍参謀時代からすでに手許にあったものであるか明らかではないが、日露戦争当時の第2軍の行動に関わるものであるため、第2軍参謀時代の Sub-Series に編入した。

この他の Sub-Series では、「No.8: 参謀本部作戦課長」・「No.10: 騎兵第3旅団長」・「No.12: 第5師団長」には日記が含まれている。鈴木の内叙伝には、部分的に日記参照との記述があり、その記述箇所と現存する日記がカバーする時期が一致することから、鈴木は毎年継続的に日記を書いていたのではなく、ある役職に就任または活動を行った際、特別に日記を書いていたと推測される。また、これら3つの Sub-Series は辞令類と日記、および写真から構成されているが、「No.12: 第5師団長」は勲記等の証書と訓示類が含まれる。このうち「第五師団長第四師団長時代之訓示類」（No.256）は訓示を一括したものであり、後の第4師団長時代のものも含まれるが、第5師団関係が半数以上を占めるため、こちらの Sub-Series に含めた。

上記以外の Sub-Series である 「No.13: 第4師団長」・「No.16: 参謀総長」・「No.17: 帝国在郷軍人会長」についてであるが、まず「No.13: 第4師団長」は量的に少ないが、前述したように「No.12: 第5師団長」の中に第4師団長関係の訓示が含まれている。その一方、「随時検閲の口演事項〔5D〕・教育者の覚悟に就て〔4D 初度巡視時ノ口演〕・愛〔人格尊重・個性尊重・自学主義・発達観・内在主義〕」（No.207-1）は第5師団長時代のものと思われる文書が1点混在している。こちらは他の2点の文書に関連するものであると推測されるため、「No.13: 第4師団長」に含めた。また、「No.16: 参謀総長」も文書量は少ないが、「支那人離別の書翰」

(No.254-1) は前述した地図と同様、戦後の一時期、反町氏の手許に保管されていたものである。この他、「No.17: 帝国在郷軍人会長」は比較的文書量が多く、3つのSub-Sub-Series（「文書」・「写真」・「勲章」）を設定したが、これらも便宜的なものである。なお、このうち写真「満洲ニ於ケル写真 昭和七年奉天大会」（No.243）は袋で一括されていたものであるが、「写真〔感興にて〕」（No.243-4）は他の写真と時期が異なり混入したものと推測される。

Series No.2「公的活動（その他）」は、軍務以外の公的活動に関わって作成・蓄積された資料群であるが、辞令書・推薦状・感謝状などが多い。そのなかでも多数を占める大日本武徳会は単独でSub-Series「No.1: 大日本武徳会長」とし、その他は「No.2: 各種公的団体」として一括した。

Series No.3「個人」は、鈴木木の私的活動のなかで作成・蓄積された資料群であり、Sub-Seriesとして「No.1: 文書」・「No.2: 書簡」・「No.3: 写真」・「No.4: 位記・勲章」・「No.5: 書画」・「No.6: 服飾・物品」の6つを設定した。まず、Sub-Series「No.1: 文書」は鈴木木自らが執筆した「自叙 莊六一代記」（No.11）と「言志録」（No.254-2, No.254-3）が含まれる。特に「自叙 莊六一代記」は木箱に収められ、他の資料から別置されて保管されていたものである。また、活字化されたもの（No.1）もある。なお、鈴木木の没後、『陸軍大将鈴木莊六伝』（No.352）が刊行されているが、戦時中であったため伏せ字が多く、自叙伝と読み比べると内容が改竄されている箇所があり注意が必要である。本来は、自叙伝を活字化して刊行する計画であったが、時局柄、より編集を加えた伝記に切り替わったのではないかと推測される。いずれにせよ、公刊されている伝記と自叙伝は相互に検討しつつ活用する必要があるだろう。

つぎにSub-Series「No.2: 書簡」は少数であり、鈴木木宛の書簡が少ないのに比例して後述するように鈴木木莊六が妻竹子らに宛てた書簡が多いことが本資料群の特徴である。

また、Sub-Series「No.3: 写真」についてであるが、鈴木木莊六文書の特徴の一つである写真の多さを反映して多岐にわたっている。ただ、大きく分けると軍務関係と家族関係に分けられ、2つのSub-Sub-Series（「軍関係」・「個人・家族」）を設定した。なお、軍務のなかで作成されたことが明瞭なものは、Series「I . 公的活動（軍）」のなかのいずれかのSub-Seriesに含めたが、軍務関係であることは明らかでも撮影時期や背景が不明確なもの、または時期が多岐にわたっているか、家族写真などが混在しているものなどはSub-Sub-Series「軍関係」に含めた。また、「個人・家族」の写真には妻竹子および長男重雄に関係するものも含まれる。

さらに、Sub-Series「No.4: 位記・勲章」は明らかに軍務・公的活動に含まれるものを除いたものを対象としている。また、勲章などのモノ資料もここに含まれる。なお、勲章類を除いたモノ資料については、Sub-Series「No.6: 服飾・物品」とした。

この他、Sub-Series「No.5: 書画」は漢詩・水墨画・油絵など鈴木木自らが作成したものと鈴木木宛に送られたものから構成される。後述する鈴木木竹子所蔵のものと合わせて書画が大量に残されているが、混在していたまま保管されていたため、鈴木木莊六および妻竹子が作成したもの以外の書画は本来、莊六所蔵か竹子所蔵か明らかではない。ここでは竹子作成のもの以外は全てSub-Series「No.5: 書画」に含めた。

Series No.4「家族」は、妻竹子および長男重雄が所持していたと思われるものであり、混入文書といえるものである。ただし、荘六が所持していたものと竹子および重雄が所持していたものとの明確な区分けは困難であり、特に書簡・写真・書画などは鈴木荘六文書のなかに一体化しているため、竹子・重雄関係の資料は、別の Fonds、または Sub-Fonds とはせず、Sub-Series 「No.1: 鈴木竹子」・「No.2: 鈴木重雄」として立てた。

Sub-Series 「No.1: 鈴木竹子」は、3つの Sub-Sub-Series (「文書」・「書簡」・「書画」) から構成されるが、「文書」は主に竹子が結婚前の教師時代の辞令類が中心である。また、「書簡」は荘六からのものが大半である。なお、書簡の配列は荘六を1番目、家族・親類関係を2番目、第3者を3番目とし、それぞれ五十音順とした。この他、「書画」は前述したように、荘六か竹子か所持者が不明なものが多いため竹子作成（またはそれと思われる）のものに限定してある。

Sub-Series 「No.2: 鈴木重雄」は、3つの Sub-Sub-Series (「文書」・「書簡」・「服飾」) から構成されるが、このなかには妻比呂子のもも含まれる。特に「書簡」は大半が身内からのものであるが、比呂子宛のものも多く含まれている。これらは内容的に重雄に関係するものもあるので、独立した Series とはせず、この Series に含めた。

(3.4.5) **形態と状態**: 文書類以外に写真・軸物・絵画（油絵）・軍装品・勲章・表札といったモノ資料が含まれる。文書の保存状態はそれほど悪くはないが、戦後、何度か移転を行っているあいだに原秩序はほとんど失われた。寄贈段階では、プラスチック製衣装ケースに保管され、辞令類や書簡などはある程度まとめられた状態であった。また、調査当初は、自叙伝の活字版のみ存在し、その原本である「荘六一代記」は未発見であったが、その後、他の文書群と異なり、専用の木箱に収められて別の場所に保管されていたことが判明した。また、文書の一部（日露戦争関係の地図・張学良ら中国側要人からの手紙・言志録など）は戦後の一時期、知人の反町栄一氏に預けられていた。

(3.4.6) **検索手段**: 『史料目録 第95集』

(3.5.4) **関連資料の所在**: 当館所蔵「赤井春海文書」は、鈴木が朝鮮軍司令官時代の参謀長であった赤井春海の個人文書であり、赤井宛の鈴木書簡が含まれる。この他、鈴木のご郷である新潟県三条市の三条市歴史民俗産業資料館には、鈴木の手書・写真類が若干所蔵されている。

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

Series No1: 公的活動(軍)

Sub-Series No.1: 教導団生徒

〔高等小学校教員免許状〕新潟県→鈴木莊六	明治17年3月8日(1884)	1枚・墨書	163
辞令〔任新潟県三条校3等訓導〕新潟県大書記官木梨精一郎→鈴木莊六	明治17年7月26日(1884)	1枚・墨書	162
〔三条小学校3等訓導服務免除願・明治18年12月5日付新潟県令篠崎五郎聞届書〕鈴木莊六→新潟県令篠崎五郎	明治18年11月16日(1885)	1綴・墨書	161
辞令書〔陸軍教導団砲兵科生徒申付〕陸軍教導団→鈴木莊六	明治18年12月2日(1885)	1枚・墨書	160
辞令書〔陸軍教導団砲兵大隊1等生徒申付〕陸軍教導団砲兵大隊→鈴木莊六	明治20年3月5日(1889)	1枚・墨書	159
賞状〔7珊知米野砲競点射撃第2優等之証〕陸軍教導団大隊長陸軍砲兵少佐柴野義広→鈴木莊六	明治20年5月26日(1889)	1枚・墨書	158
辞令書〔砲兵科卒業証書〕陸軍教導団陸軍歩兵大佐阿武素行・陸軍教導団砲兵大隊長陸軍砲兵少佐柴野義広→鈴木莊六	明治20年9月16日(1889)	1枚・墨書	157
辞令書〔仙台鎮台附申付〕陸軍省→鈴木莊六	明治20年9月16日(1889)	1枚・墨書	155
官記〔任陸軍砲兵2等軍曹〕陸軍教導団→鈴木莊六	明治20年9月16日(1889)	1枚・墨書	156
辞令書〔砲兵第2聯隊附申付〕仙台鎮台→鈴木莊六	明治20年10月19日(1889)	1枚・墨書	154
辞令書〔第2大隊第1中隊附申付〕砲兵第2聯隊→鈴木莊六	明治20年10月20日(1889)	1枚・墨書	153
辞令書〔士官候補生を命じ騎兵第1大隊入隊申付〕監軍部→鈴木莊六	明治20年11月15日(1889)	1枚・墨書	152
辞令書〔免陸軍砲兵2等軍曹〕仙台鎮台→鈴木莊六	明治20年11月17日(1889)	1枚・墨書	151
官記〔任陸軍騎兵2等軍曹〕騎兵第一大隊→鈴木莊六	明治21年9月3日(1888)	1枚・墨書	150

Sub-Series No.2: 士官学校生徒

文書

辞令書〔士官学校入学申付〕将校学校監→鈴木莊六	明治21年10月13日(1888)	1枚・墨書	149
官記〔任陸軍騎兵1等軍曹〕監軍部→鈴木莊六	明治21年12月18日(1888)	1枚・墨書	148
官記〔任陸軍騎兵少尉〕陸軍大臣大山巖→鈴木莊六	明治24年3月26日(1891)	1枚・墨書	147
辞令書〔補騎兵第4大隊第1中隊附〕陸軍省→鈴木莊六	明治24年3月26日(1891)	1枚・墨書	146
辞令書〔士官学校生徒隊中隊附心得被仰付〕陸軍省→鈴木莊六	明治26年2月18日(1893)	1枚・墨書	144
認可状〔明治24年11月25日より明治25年3月31日における物品出納に関して〕会計検査院長渡辺昇→鈴木莊六	明治26年9月29日(1893)	1枚・墨書	143

写真

騎兵第一大隊士官候補生時代写真		4部	217
-----------------	--	----	-----

Sub-Series No.3: 陸軍大学校生徒

文書

辞令書〔補士官学校生徒隊中隊附〕 陸軍省→鈴木莊六	明治26年11月1日(1893)	1枚・墨書	141
官記〔任陸軍騎兵中尉〕 内閣総理大臣伊藤博文→鈴木莊六	明治26年11月1日(1893)	1枚・墨書	142
辞令書〔補騎兵第4大隊〕 陸軍省→鈴木莊六	明治26年12月15日(1893)	1枚・墨書	140
辞令書〔修学の為め歩兵第3聯隊附を命ず〕 参謀本部→鈴木莊六	明治27年6月8日(1894)	1枚・墨書	138
辞令書〔補騎兵第4大隊副官〕 陸軍省→鈴木莊六	明治27年8月18日(1894)	1枚・墨書	137
辞令書〔賜1等給〕 陸軍省→鈴木莊六	明治27年12月8日(1894)	1枚・墨書	136
辞令書〔補騎兵第4大隊中隊長〕 軍事内局→鈴木莊六	明治28年11月22日(1895)	1枚・墨書	134
官記〔任陸軍騎兵大尉〕 内閣総理大臣伊藤博文→鈴木莊六	明治28年11月22日(1895)	1枚・墨書	135
辞令書〔補騎兵第4大隊附〕 陸軍省→鈴木莊六	明治29年2月18日(1896)	1枚・墨書	133
勲記〔明治二十七八年戦役の功に依る勲六等・単光旭日章他〕 賞勲局総裁大給恒→鈴木莊六	明治29年3月30日(1896)	1枚・墨書	132
辞令書〔修学の為め歩兵第1聯隊附を命ず〕 参謀本部→鈴木莊六	明治29年6月3日(1896)	1枚・墨書	130
辞令書〔補軍馬補充部本部部員〕 陸軍省→鈴木莊六	明治30年10月25日(1897)	1枚・墨書	128
辞令書〔修学の為め近衛野戦砲兵聯隊附を命ず〕 参謀本部→鈴木莊六	明治30年6月11日(1897)	1枚・墨書	129
辞令書〔賜1等給〕 陸軍省→鈴木莊六	明治30年11月5日(1897)	1枚・墨書	127
辞令書〔明治31年度総軍動員計画に伴い留守第1師団参謀に配属する旨の内達(補達第58号)〕 軍馬補充部本部長大蔵平三→鈴木莊六	明治31年3月28日(1898)	1綴・墨書	126
辞令書〔補騎兵第5聯隊附〕 陸軍省→鈴木莊六	明治31年4月18日(1898)	1枚・墨書	125
辞令書〔修学の為め工兵第1大隊附を命ず〕 参謀本部→鈴木莊六	明治31年6月11日(1898)	1枚・墨書	124
辞令書〔補騎兵第11聯隊中隊長〕 陸軍省→鈴木莊六	明治31年10月10日(1898)	1枚・墨書	123

写真

写真〔鈴木莊六他集合写真〕	日清戦争従軍時カ	1枚	304
写真〔鈴木莊六他集合写真〕	日清戦争従軍時カ	1枚	305

徽章

陸軍大学校卒業徽章		1個・箱	350-4
-----------	--	------	-------

Sub-Series No.4: 参謀本部員

辞令書〔参謀本部出仕兼騎兵実施学校教官被仰付〕 陸軍省→鈴木荘六	明治32年12月6日(1899)	1枚・墨書	122
辞令書〔補参謀本部員〕 陸軍省→鈴木荘六	明治33年3月12日(1900)	1枚・墨書	121
辞令書〔太活運輸通信支部員被仰付〕 陸軍省→鈴木荘六	明治33年7月23日(1900)	1枚・墨書	120
辞令書〔太活運輸通信支部員被免〕 陸軍省→鈴木荘六	明治33年11月9日(1900)	1枚・墨書	119
勲記〔明治33年清国事変に於ける戦功に依る勲五等 雙光旭日章他〕 賞勲局總裁大給恒→鈴木荘六	明治34年10月26日(1901)	1枚・墨書	114

Sub-Series No.5: 陸軍大学校教官(第1期)

辞令書〔補陸軍大学校兵学教官〕 陸軍省→鈴木荘六	明治33年12月25日(1900)	1枚・墨書	118
辞令書〔参謀本部御用掛兼勤を命ず〕 陸軍省→鈴木荘六	明治33年12月25日(1900)	1枚・墨書	117
辞令書〔明治34年陸軍大学校学生候補者試験委員を命ず〕 参謀本部→鈴木荘六	明治34年4月2日(1901)	1枚・墨書	116
官記〔任陸軍騎兵少佐〕 内閣總理大臣桂太郎→鈴木荘六	明治34年11月3日(1901)	1枚・墨書	113
辞令書〔免参謀本部御用掛兼勤〕 陸軍省→鈴木荘六	明治34年12月27日(1901)	1枚・墨書	111
辞令書〔明治35年陸軍大学校学生候補者試験委員を命ず〕 参謀本部→鈴木荘六	明治34年12月24日(1901)	1枚・墨書	112
辞令書〔明治37年陸軍大学校学生候補者試験委員を命ず〕 参謀本部→鈴木荘六	明治36年12月16日(1903)	1枚・墨書	110
大日本帝国外国勲章佩用免許証〔プロシア皇帝より鈴木荘六に贈与した王冠第三等勲章を受領佩用を允許〕 賞勲局總裁大給恒・賞勲局書記官横田香苗・賞勲局書記官藤井善言→鈴木荘六	明治37年3月5日(1904)	1枚・墨書	78

Sub-Series No.6: 第2軍参謀

文書

官記〔任陸軍騎兵中佐〕 内閣總理大臣桂太郎→鈴木荘六	明治38年3月1日(1905)	1枚・墨書	109
辞令書〔第2軍参謀副長被仰付〕 陸軍省→鈴木荘六	明治38年9月27日(1905)	1枚・墨書	107
明治三十七八年戦役第二軍死傷表 第二軍司令部罫紙	明治38年12月20日調(1905)	1枚・墨書	103
明治三十七八年戦役第二軍死傷将官連名簿〔陸軍中將小川又次・陸軍少將秋山好古・陸軍少將小泉正保・陸軍少將渡辺勝重の負傷地について〕 第二軍司令部罫紙		1枚・墨書	104

鈴木莊六文書目録 / 公的活動(軍) / 第2軍参謀

明治三十七八年戦役第二軍工兵部事業ノ梗概〔第2軍上陸兵の設備・南山の陥落・遼陽戦・沙河会戦・奉天会戦等〕 第二軍工兵部長陸軍少将中村愛三	明治38年12月(1905)	1綴・謄写版	105
祭文〔第2軍司令官陸軍大将奥保鞏による日露戦争中における陸軍歩兵大佐関谷銘次郎以下戦死病没者諸士の霊を祭る文〕 第二軍司令官陸軍大将奥保鞏	明治38年9月24日(1905)	1枚・活版	184
詔勅〔日露戦争宣戦布告〕 東京国光社	明治39年1月13日(1906)	1冊・活版	265
日本帝国明治三十七八年従軍記章之証 賞勲局総裁大給恒・賞勲局書記官横田香苗・賞勲局書記官藤井善言→鈴木莊六	明治39年4月1日(1906)	1枚・墨書	75
勲記〔明治三十七八年戦役の功に依る功3級金鷄勲章・勲三等旭日中綬章〕 賞勲局総裁大給恒→鈴木莊六	明治39年4月1日(1906)	1枚・墨書	101
戦史叢書第十二号 日露戦争に於ける第二軍北進運動開始の事情と得利寺の戦闘 財団法人偕行社	昭和6年7月30日(1931)	1冊・付図・活版	271

地図

日露戦役記念地図(奥第二軍鈴木莊六作戰主任参謀使用)		1枚・墨書	347-2
地図〔鉄嶺-奉天-長春周辺〕 満洲軍総司令部・第二軍参謀部	明治38年4月8日、16日、19日、6月20日(1905)	1枚・活版	347-2-1
地図〔甘泉堡・海城周辺〕 陸軍測量部カ		1枚・活版	347-2-2
地図〔熊岳城周辺〕 陸軍測量部	明治29年製版(1896)	1枚・活版	347-2-3
地図〔奉天東北部第2補足図〕 陸軍測量部	明治37年10月製版、明治37年11月17日(1904)	1枚・活版	347-2-4
地図〔遼陽-奉天間補足図〕		1枚・活版	347-2-5
地図〔黒溝台・尚在門付近補足図〕 第八師団参謀部		1枚・活版	347-2-6
地図〔第8師団陣地占領略図〕		1枚・活版	347-2-7
地図〔瓦房店周辺〕 陸軍測量部カ	明治29年製版(1896)	1枚・活版	347-2-8
地図〔遼揚周辺〕 陸軍測量部カ		1枚・活版	347-2-9
地図〔牛莊-海城周辺〕 陸軍測量部	明治37年製版(1904)	1枚・活版	347-2-10
〔日露戦争関係地図一括〕		13種	254-6
奉天付近 露版八万四千分ノ一 参之一 第一軍参謀部	明治37年11月製(1904)	1枚・活版	254-6-1
第四師団配備及敵之位置略図	明治38年2月3日調(1905)	1枚・蒟蒻版	254-6-2
第二軍各団隊輸出入一覽表 第二軍参謀部	明治38年10月調(1905)	1枚・活版	254-6-3
〔奉天付近日露両軍位置〕 満洲軍総司令部	明治38年2月5日調(1905)	1枚・活版	254-6-4
〔明治38年3月奉天会戦当時における日露両軍位置〕	明治38年3月頃(1905)	1枚・蒟蒻版	254-6-5
地図〔遼陽第14号〕	明治37年9月以前(1904)	1枚・活版	254-6-6
軍事機密 復州第1号永甯城〔日露両軍位置〕	明治37年(1904)	1枚・活版	254-6-7

御紋附木杯〔中身欠〕		1枚・墨書	254-6-8
第二軍前面並ニ渾河右岸に於ケル敵兵配兵判断略図(二月十日迄ノ情况) 第二軍参謀部	明治38年1月11日(1905)	1枚・蒟蒻版	254-6-9
奉天附近ニ於ケル露軍防禦編成略図 第二軍参謀部	明治38年2月25日(1905)	1枚・蒟蒻版	254-6-10
地図〔第14号騰鰲堡〕		1枚・活版	254-6-11
地図〔奉天沙河間〕	明治37年11月製版(1904)	1枚・活版	254-6-12
地図〔遼陽第13号〕		1枚・活版	254-6-13

写真

〔戦地写真一括〕		1袋(13枚)	275-1-0
写真〔トーチカ前の梨本宮他6名〕	日露戦争期	1枚	275-1-1
写真〔木によりかかる鈴木莊六〕	日露戦争期	1枚	275-1-2
写真〔鈴木莊六他3名〕	日露戦争期	1枚	275-1-3
写真〔工場・線路風景〕	日露戦争期	1枚	275-1-4
写真〔ピリヤードをする将校2名〕	日露戦争期	1枚	275-1-5
写真〔参謀4名〕	日露戦争期	1枚	275-1-6
写真〔大砲を引く人々〕	日露戦争期	1枚	275-1-7
写真〔大山元帥昌図西南方砲兵第13聯隊陣地巡視〕	明治38年9月25日(1905)	1枚	275-1-8
写真〔古城堡宿营地〕	明治38年6月以降(1905)	1枚	275-1-9
写真〔第2軍招魂祭仮装手踊〕	明治38年9月24日(1905)	1枚	275-1-10
写真〔第2軍参謀送別宴〕	日露戦争期	1枚	275-1-11
写真〔馬上の参謀〕	日露戦争期	1枚	275-1-12
写真〔第2軍招魂祭仮装手踊〕	明治38年9月24日(1905)	1枚	257-1-13
写真台紙〔写真欠〕		1枚	275-2
写真〔①鈴木莊六他2名・②参謀4名・③第2軍招魂祭仮装手踊・④支那人ノ葬式・⑤9月6日偵察の途中〕	日露戦争期	5枚	275-3
写真〔①7月23日山県元帥昌図府東南方第5師団堡壘胸牆上から地形見分・②明治38年11月8日古城堡にて参謀3名・③明治38年7月7日奉天にて鈴木中佐他6名・④奉天北陵内門〕	日露戦争期	4枚	275-4
写真〔①奉天西門の偉人廟・②梨本宮殿下および奥大將他6名・③明治38年11月9日満洲唐相公台第2軍宴会ノ余興・④明治38年9月24日第2軍招魂祭3枚・⑤古城堡居室裏別杯の様子・⑥広島にて鈴木莊六〕	日露戦争期	8枚	275-5
写真〔①旗を振る名古屋市の生徒・②慶雲堡軍司令部前・③兵列・④7月中旬居室にて昼休み・⑤明治38年9月24日第2軍招魂祭2枚・⑥明治38年9月24日第2軍招魂祭大山元帥参拝・⑦明治38年9月25日大山元帥昌図西北端陣地巡視・⑧鈴木莊六〕	日露戦争期	9枚	275-6

鈴木莊六文書目録 / 公的活動(軍) / 第2軍参謀

写真〔①将兵集合写真・②明治38年11月3日満洲古城堡にて第1師団参謀および副官・③奉天西門外第3軍参謀部構内にて鈴木莊六・④奉天にて鈴木莊六〕	日露戦争期	4枚	275-7
写真〔①第2軍招魂祭場・②明治38年9月25日大山元帥陣地視察・③将校4名・④不明・⑤第2軍招魂祭カ・⑥不明・⑦将校・⑧騎乗する白人女性と子供〕	日露戦争期	8枚	275-8
写真〔①明治38年9月24日第2軍招魂祭にて奥軍司令官・②明治38年9月25日大山元帥昌図西北方砲兵第13聯隊陣地巡視・③明治38年5月13日慶雲堡居室にて・④参謀3名記念写真〕	日露戦争期	4枚	275-9
写真〔①第2軍集合写真・②明治38年11月3日古城堡にて第2軍参謀部第1課・③奉天軍司令部構内にて鈴木莊六他3名・④8月15日古城堡にて参謀送別会・⑤11月8日撮影沙河会戦後十里川軍司令官・⑥明治38年11月15日古城堡にて鈴木莊六〕	日露戦争期	6枚	275-10
写真〔奥保鞆・鈴木莊六他集合写真〕		1枚	312
写真〔奥保鞆・鈴木莊六他集合写真〕		1枚	313
写真〔大山巖・鈴木莊六他集合写真〕		1枚	314

Sub-Series No.7: 陸軍大学校教官 (第2期)

辞令書〔明治39年陸軍大学校学生候補者試験委員を命ず〕 参謀本部→鈴木莊六	明治39年2月1日(1906)	1枚・墨書	102
辞令書〔明治三十七八年戦役第1勲績審査委員被仰付〕 陸軍省→鈴木莊六	明治39年2月5日(1906)	1枚・墨書	100
辞令書〔第2第7及第8師管特命検閲使属員被仰付〕 陸軍省→鈴木莊六	明治39年7月7日(1906)	1枚・墨書	99
辞令書〔明治40年陸軍大学校学生候補者試験委員を命ず〕 参謀本部→鈴木莊六	明治39年12月15日(1906)	1枚・墨書	98
辞令書〔米国へ被差遣〕 内閣→鈴木莊六	明治40年3月29日(1907)	1枚・墨書	97
辞令書〔米国差遣被免〕 内閣→鈴木莊六	明治40年4月9日(1907)	1枚・墨書	96
辞令書〔明治41年陸軍大学校学生候補者試験委員を命ず〕 参謀本部→鈴木莊六	明治40年12月12日(1907)	1枚・墨書	95
辞令書〔補参謀本部部員兼陸軍大学校兵学教官〕 陸軍省→鈴木莊六	明治41年1月25日(1908)	1枚・墨書	94
辞令書〔補海軍軍令部参謀兼参謀本部部員・陸軍大学校兵学教官〕 海軍省→鈴木莊六	明治41年2月1日(1908)	1枚・墨書	93
辞令書〔免明治41年陸軍大学校学生候補者試験委員〕 参謀本部→鈴木莊六	明治41年3月19日(1908)	1枚・墨書	91
辞令書〔満洲及浦塩斯徳へ被差遣〕 陸軍省→鈴木莊六	明治41年6月6日(1908)	1枚・墨書	90
訓令〔韓・滿・浦塩斯徳における旅行偵察目的に関する参謀本部参訓第10号〕 参謀総長奥保鞆→鈴木莊六	明治41年6月9日(1908)	1綴・墨書	89

Sub-Series No.8: 参謀本部作戦課長

文書

辞令書〔補参謀本部課長〕 陸軍省→鈴木莊六	明治41年12月19日(1908)	1枚・墨書	87
辞令書〔欧州へ被差遣〕 内閣→鈴木莊六	明治42年2月22日(1909)	1枚・墨書	86
訓令〔欧州軍隊学校・工場等を巡視し、軍制教育及び戦術に関する進歩状況の調査報告に関する参謀本部参訓第6号〕 参謀総長奥保鞏→鈴木莊六	明治42年2月26日(1909)	1枚・墨書	84
官記〔任陸軍騎兵大佐〕 内閣総理大臣桂太郎→鈴木莊六	明治42年4月1日(1909)	1枚・墨書	85
辞令書〔騎兵操典改正案審査委員を命ず〕 陸軍省→鈴木莊六	明治43年4月18日(1910)	1枚・墨書	83
辞令書〔韓国へ被差遣〕 陸軍省→鈴木莊六	明治43年6月4日(1910)	1枚・墨書	82
巡欧日記(第一) 鈴木莊六	明治42年2月22日-6月20日(1909)	1冊・ペン	10-1
巡欧日記(第二) 鈴木莊六	明治42年6月21日-9月18日(1909)	1冊・ペン	10-2
巡欧日記(三) 鈴木莊六	明治42年9月19日-11月17日(1909)	1冊・ペン	10-3
巡欧中ニ於ケル備考(一) 鈴木莊六		1冊・ペン	5-1
巡欧中ニ於ケル備考(二) 鈴木莊六	明治40年12月4日-(1907-)	1冊・ペン	5-2
北関旅行記 参謀本部課長ノ時〔丁間資料:韓国北部の情勢などに関する覚書〕 鈴木莊六	明治43年6月14日-7月5日(1910)	1冊・2枚・ペン	3

写真

写真〔本郷房太郎・鈴木莊六他欧州派遣時〕	明治42年(1909)	1枚	286
写真〔欧州派遣時の外国人将校との集合写真〕	明治42年(1909)	1枚	287
写真〔欧州派遣時の本郷房太郎・鈴木莊六他3名〕	明治42年(1909)	1枚	288
写真〔欧州派遣時の本郷房太郎・鈴木莊六他4名〕	明治42年(1909)	1枚	289
写真〔外国人将校を交えた集合写真〕	明治42年(1909)	1枚	291
写真〔ペテルスブルクにて欧州派遣時の本郷房太郎・鈴木莊六他3名〕	明治42年11月5日(1909)	1枚	292
写真〔ウィーンにおいて鈴木莊六他3名〕	明治42年10月20日(1909)	1枚	220
写真〔ベルリン滞在時の鈴木莊六他1名〕		2枚	214・215

Sub-Series No.9: 陸軍大学校幹事

辞令書〔補陸軍大学校兵学教官兼同校幹事〕 陸軍省→鈴木莊六	明治43年12月20日(1910)	1枚・墨書	81
辞令書〔免兼海軍軍令部参謀〕 海軍省→鈴木莊六	明治43年12月21日(1910)	1枚・墨書	80

鈴木莊六文書目録 / 公的活動(軍) / 陸軍大学校幹事

辞令書〔明治44年陸軍大学校学生候補者試験委員を命ず〕 参謀本部→鈴木莊六	明治43年12月26日(1910)	1枚・墨書	79
辞令書〔大正3年陸軍大学校学生候補者試験委員を命ず〕 参謀本部→鈴木莊六	大正2年12月20日(1913)	1枚・墨書	76

Sub-Series No.10: 騎兵第3旅団長

辞令書〔補騎兵第3旅団長〕 内閣→鈴木莊六	大正3年8月8日(1914)	1枚・墨書	72
官記〔任陸軍少将〕 内閣総理大臣大隈重信→鈴木莊六	大正3年8月8日(1914)	1枚・墨書	73
日誌(Ⅰ) 旅団長時代 鈴木莊六	大正3年8月24日-4年7月31日(1914-15)	1冊・ペン	4-1
日誌(Ⅱ) 旅団長時代 鈴木莊六	大正4年8月1日-5年5月8日(1915-16)	1冊・ペン	4-2

Sub-Series No.11: 騎兵実施学校長

辞令書〔補陸軍騎兵実施学校長〕 内閣→鈴木莊六	大正5年5月2日(1916)	1枚・墨書	67
辞令書〔補騎兵監〕 内閣→鈴木莊六	大正6年8月6日(1917)	1枚・墨書	66
辞令書〔臨時軍馬検査官首座被仰付〕 陸軍省→鈴木莊六	大正6年12月12日(1917)	1枚・墨書	65
官記〔任陸軍中将〕 内閣総理大臣寺内正毅→鈴木莊六	大正7年7月24日(1918)	1枚・墨書	64
辞令書〔教育制度調査委員被仰付〕 陸軍省→鈴木莊六	大正8年2月8日(1919)	1枚・墨書	62
辞令書〔教育制度調査委員被免〕 陸軍省→鈴木莊六	大正8年3月18日(1919)	1枚・墨書	61
辞令書〔騎兵監免職〕 内閣→鈴木莊六	大正8年3月18日(1919)	1枚・墨書	60

Sub-Series No.12: 第5師団長

文書

辞令書〔補第5師団長〕 内閣総理大臣原敬→鈴木莊六	大正8年3月18日(1919)	1枚・墨書	59
辞令書〔免第5師団長〕 内閣総理大臣原敬→鈴木莊六	大正10年6月15日(1921)	1枚・墨書	54
西比利亞日記(Ⅰ) 第五師団長 鈴木莊六	大正8年8月13日-9年2月5日(1919-20)	1冊・ペン	9-1
西比利亞日記(Ⅱ) 鈴木莊六	大正9年2月6日-7月14日(1920)	1冊・ペン	9-2
西比利亞日記(Ⅲ) 〔丁問資料7種:第五師団死亡者調査表及び第五師団指揮部隊ヲ含ム)自出征当初至九年八月十三日消耗品及補填馬数調査表・第五師団経費・自大正八年八月二七日至同九年八月一三日 第五師団臨時陸軍軍法会議処刑人員表・覚書・浦軍謀第311号 露国周囲ノ緩衝国環要図・大正9年8月14日付鈴木莊六宛并染大佐他葉書〕 鈴木莊六	大正9年7月15日-8月7日(1920)	1冊・7種・ペン	9-3
第五師団長第四師団長時代之訓示類		16種	256

初度巡視ノ際ニ於ケル師団長訓話要旨 鈴木莊六	大正10年7月10日(1921)	1綴・墨書	256-1
大正十一年隨時檢閲隨員ニ与フル指示 第四師団長鈴木莊六	大正11年5月11日(1922)	1綴・ペン	256-2
団隊長会同ノ際ニ於ケル師団長訓示・大正十二年隨時檢閲隨行官ニ与フル指示・団隊長会同席上師団長口演要旨・団隊長会同席上師団長口演要旨・大正十二年五月団隊長会同席上師団長訓示・大正十一年教育準備狀況視察ニ関スル主要ナル注意事項・索引〔訓示索引〕・簡閲点呼執行官ニ与フル訓示・団隊長会同ノ際ニ於ケル師団長ノ訓示布衍要旨・軍隊内務書改正ニ関シ師団長訓示・青島守備交代派遣ニ際シ師団長ノ与ヘタル訓示・青島守備交代帰還ノ際ニ於ケル訓示・支那駐屯兵帰還ニ際シ将卒ニ与フル訓示・青島守備隊帰隊ノ時将卒ニ与フル訓示・独立守備隊交代員ニ与フル訓示・軍備整理ニ関シ団隊長会同席上師団長訓示・大阪軍樂隊解隊ニ際シ与フル訓示・独立守備隊交代員ニ与フル訓示 第四師団長鈴木莊六	大正10年7月19日-12年5月15日(1921-23)	1綴(18種)・墨書・ペン	256-3-1
訓示案要旨〔軍紀風規等〕		1綴・ペン	256-4
訓示〔軍紀風紀及内務・訓示若講評等ノ徹底・思想問題・軍備制限徴兵撤廢・朝鮮出兵・将校以下ノ服務・教育・在郷軍人ノ指導・動員計画等〕 第五師団長鈴木莊六	大正8年5月16日(1919)	1綴・ペン	256-5
訓示〔新教育年度初頭に際して〕 第五師団長鈴木莊六	大正9年12月28日(1920)	2枚・墨書	256-6
訓示〔平時勤務〕 第五師団長鈴木莊六	大正9年9月25日(1920)	1部・墨書	256-7
団隊長会議席上ニ於ケル師団長訓示 第五師団長鈴木莊六	大正10年5月12日(1921)	1部・謄写版	256-8
外征訓示〔シベリア出兵〕 第五師団長鈴木莊六	大正8年9月7日-大正9年5月5日(1919-20)	1部・ペン	256-9
訓示〔部隊經理〕 第五師団長鈴木莊六	大正11年5月9日(1922)	1部・墨書	256-10-1
大正八年四月第五師団經理司令部会議席上師団長訓示	大正8年4月26日(1919)	1部・ペン	256-10-2
訓示〔第一派遣隊・第二留守隊・残留部隊に対して〕 第五師団長鈴木莊六	大正8年7月16日(1919)	1部・ペン	256-11
西比利亜先遣団隊ニ与フル訓示 第五師団長鈴木莊六	大正8年6月30日(1919)	1部・ペン	256-12-1
後貝加爾洲撤退後ニ関スル訓示 第五師団長鈴木莊六	大正9年7月12日(1920)	1部・ペン	256-12-2
大正八年六月兵器委員会同席上ニ於ケル師団表ノ訓示 第五師団長鈴木莊六	大正8年6月26日(1919)	1部・ペン	256-12-3
訓示〔シベリア出兵〕 第五師団長鈴木莊六	大正8年8月11日(1919)	1部・ペン	256-12-4
ВАШЕ ПРЕВОСХОДИТЕЛЬНОСТВО	1919年11月	1枚・タイプ	175
証書〔陸軍中将鈴木莊六へ「チエク・スローバック」十字勲章授与。チェコ語の原紙合綴〕 在シベリア「チエコスロバキア」軍司令官少将チエチエク→鈴木莊六	1920年4月16日	1綴・タイプ・謄写版	185
勲記〔大正四年乃至九年戦役の功に依る功二級金鷄勲章並勲一等旭日大綬章〕 賞勲局総裁児玉秀雄→鈴木莊六	大正9年11月1日(1920)	1枚・墨書	168

鈴木莊六文書目録 / 公的活動(軍) / 第5師団長

大正三年乃至九年戦役従軍記章之証 賞勳局総裁児玉秀雄・賞勳局書記官横田郷助・同書記官赤峰哲夫→鈴木莊六	大正9年11月1日(1920)	1枚・墨書	167
戦捷記章之証・記章を賜りたる者届出心得 賞勳局総裁児玉秀雄・賞勳局書記官横田郷助・同書記官赤峰哲夫→鈴木莊六	大正9年11月1日(1920)	2枚・墨書・活版	166
目録〔記念品1個贈呈〕 第五師団将校同相官 高等文官一同→鈴木莊六	大正10年6月25日(1921)	1枚・墨書	182
戦史叢書第十号 西伯利に於ける第五師団 財団法人偕行社	昭和5年2月20日(1930)	1冊・付図・活版	270

写真

写真〔第5師団赴任途中の山陽鉄道客車内〕	大正8年4月1日(1919)	1枚	213
写真〔連合国武官会議室〕	大正9年2月(1920)	1枚	244
写真〔ジュネーブ国際会議場にて常設軍事委員会参列者〕	大正9年12月1日(1920)	1枚	315-2

Sub-Series No.13: 第4師団長

辞令書〔補第4師団長〕 内閣総理大臣原敬→鈴木莊六	大正10年6月15日(1921)	1枚・墨書	55
随時検閲の口演事項〔5D〕・教育者の覚悟に就て〔4D 初度巡視時ノ口演〕・愛〔人格尊重・個性尊重・自学主義・発達観・内在主義〕〔鈴木莊六〕		1枚・ペン	207-1
鈴木閣下御在任間ノ師団歴史 鈴木莊六	〔大正12年〕(1923)	14枚・謄写版	6

Sub-Series No.14: 台湾軍司令官

文書

辞令書〔補台湾軍司令官〕 内閣総理大臣加藤友三郎→鈴木莊六	大正12年8月6日(1923)	1枚・墨書	50
自大正12年8月至大正13年8月 台湾軍司令部歴史写 台湾軍司令部田中久一→鈴木莊六	大正13年5月11日(1924)	1綴・謄写版	7

写真

写真帳〔台湾軍司令官時代・鴨緑江架橋工事他〕	大正12-13年中心(1923-24)	1冊	226
写真〔台湾軍司令官時代の鈴木莊六カ〕 市田写真館	大正12-13年頃(1923-24)	1枚	316-13

Sub-Series No.15: 朝鮮軍司令官

文書

辞令書〔補朝鮮軍司令官〕 内閣総理大臣加藤高明→鈴木莊六	大正13年8月20日(1924)	1枚・墨書	49
官記〔任陸軍大将〕 内閣総理大臣加藤高明→鈴木莊六	大正13年8月20日(1924)	1枚・墨書	48

写真

写真〔龍山偕行社にて鈴木莊六他8名〕	大正14年1月1日(1925)	1枚	290
写真〔鈴木莊六他陸軍将校〕	大正15年1月1日(1926)	1枚	316-8
写真〔初遠乗会野砲兵聯隊内出発時之光景〕 岩田写真館	大正15年1月5日(1926)	1枚	316-9
写真〔龍山にて鈴木莊六他集合写真〕		1枚	293

Sub-Series No.16: 参謀総長

文書

辞令書〔補参謀総長〕 内閣総理大臣若槻礼次郎→鈴木莊六	大正15年3月2日(1926)	1枚・墨書	47
支那要人離別の書翰		3種	254-1
書簡〔未だお会いできず遺憾、本庄中将帰国に際し書面を閣下へ。訳文のみ〕 張学良→鈴木莊六		1枚・墨書	254-1-2
書簡〔未だお会いできず遺憾、本庄中将帰国に際し書面を閣下へ。張学良と同じ内容。中文・訳文。〕 楊宇霆→鈴木莊六		1綴・墨書	254-1-3
書簡〔貴国興隆繁栄、遊歴を試みたい。松室氏帰国の際、書面にて挨拶。中文・訳文〕 馮玉祥→鈴木莊六	1929年8月8日(1929)	1綴・墨書	254-1-4

写真

写真〔特別大演習時の奥保鞏宿舍前にて奥保鞏・鈴木莊六・金谷範三〕	大正15年11月(1926)	1枚	294
写真〔竜泉寺高地にて陸軍特別大演習時の集合写真〕	昭和2年11月18日(1927)	1枚	227-6
昭和3年盛岡附近特別大演習記念写真〔陸軍大演習中の花巻野立所における昭和天皇・鈴木莊六他写真・北上川前進中の南軍地上部隊航空写真・写真説明書、包紙〔神宮奉頌唱歌〕〕 陸軍省つはもの編集部	昭和3年(1928)	3枚・同内容3部	173
写真〔陸軍大臣官邸前集合写真〕	昭和4年11月(1929)	1枚	227-5

Sub-Series No.17: 帝国在郷軍人会長

文書

推薦状〔帝国在郷軍人会三条町分会特別会員〕 帝国在郷軍人会三条町分会→鈴木莊六	大正9年10月31日(1920)	1枚・墨書	56
囑託状〔帝国在郷軍人会新発田支部顧問〕 帝国在郷軍人会総裁 戴仁親王→鈴木莊六	昭和3年7月1日(1928)	1枚・墨書	44
囑託状〔帝国在郷軍人会長〕 帝国在郷軍人会総裁 戴仁親王→鈴木莊六	昭和6年8月6日(1931)	1枚・墨書	41
解囑状〔帝国在郷軍人会長〕 帝国在郷軍人会総裁 戴仁親王→鈴木莊六	昭和12年2月23日(1937)	1枚・墨書	24

鈴木莊六文書目録 / 公的活動(軍) / 帝国在郷軍人会長

嘱託状〔在郷軍人会会老〕 帝国在郷軍人会総裁 戴仁親王→鈴木莊六	昭和12年3月1日(1937)	1枚・墨書	23
〔蒲郡問題(昭和9年12月)・和田副会長と松岡全権との会談要旨(昭和7年10月20日)に関する依頼の件について回答〕 佐藤部員〔帝国在郷軍人会〕→鈴木大将	2月6日	1部・ペン	258
関評議員ノ問題 〔佐藤部員〕		1枚・ペン	259
〔林銑十郎宛鈴木莊六「後備役服役継続之件願」・「後備役服役継続ニ関スル事由書」、および第2師団長秦真次宛林銑十郎「服役継続ノ件指令」〕 鈴木莊六→林銑十郎	昭和10年1月14日(1935)	1綴・墨書	263
大井陸軍大将、千坂海軍中將、鈴木在郷軍人会会長会見要旨筆記	昭和10年4月9日(1935)	13枚・謄写版	8
訓話集(大阪・福岡・弘前・宇都宮における在郷軍人会講演会)	昭和11年1月(1936)	1綴・謄写版	260
海軍々縮会議協定不成立と我が国民の覚悟〔口演原稿〕 〔鈴木莊六〕	〔昭和11年〕(1936)	1枚・墨書	272
会長辞任之件 鈴木莊六→帝国在郷軍人会	昭和11年4月(1936)	1枚・墨書	262
The Washington Elm Gavel VETERANS OF FOREIGN WARS OF THE UNITED STATES	1936年4月(1936)	1冊	172

写真

満洲ニ於ケル写真 昭和七年奉天大会	昭和7年(1932)	5種	243
写真〔奉天忠霊塔前集合写真〕	昭和7年6月5日(1932)	1枚	243-1
写真〔関東軍司令部玄関前集合写真〕	昭和7年6月4日(1932)	1枚	243-2
写真〔帝国在郷軍人会全国大会後野宴場〕	昭和7年6月5日(1932)	1枚	243-3
写真〔奉天神社を参拝する鈴木莊六一行〕	昭和7年6月4日(1932)	1枚	243-5
写真〔咸興にて〕	大正10年5月春(1921)	1枚	243-4
写真〔在郷軍人会館屋上にて昭和天皇・鈴木莊六・鈴木貫太郎他〕	昭和9年6月29日(1934)	1枚・額	354

勲章

帝国在郷軍人会有功章 帝国在郷軍人会		1個・箱	350-2-2
帝国在郷軍人会分会長同副会長徽章 帝国在郷軍人会		1個・箱	350-2-3
帝国在郷軍人会分会長同副会長徽章 帝国在郷軍人会		1個・箱	350-2-4
帝国在郷軍人会会員徽章 帝国在郷軍人会	昭和11年9月25日(1936)	1個・箱	350-2-5
帝国在郷軍人会会長・副会長・本会各団隊長・本会団体副長之徽章 帝国在郷軍人会		1個・箱	350-2-6

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

Series No2: 公的活動（その他）

Sub-Series No.1: 大日本武徳会長

文書

囑託状〔大日本武徳会長〕 大日本武徳会総裁 守正王→鈴木莊六	昭和6年7月5日(1931)	1枚・墨書	42
囑託状〔大日本武徳会長重任〕 大日本武徳会総裁 守正王→鈴木莊六	昭和7年12月21日(1932)	1枚・墨書	38
囑託状〔大日本武徳会長〕 大日本武徳会総裁 守正王→鈴木莊六	昭和10年12月21日(1935)	1枚・墨書	31
囑託状〔大日本武徳会商議員〕 大日本武徳会総裁 守正王→鈴木莊六	昭和11年4月20日(1936)	1枚・墨書・活版	28
〔昭和九年青年大演武会における松田源治文部大臣の座席に関する事実調査報告〕 大日本武徳会	昭和10年3月(1935)	1枚・印刷	266
会員諸氏ニ告ク〔松田文相の座席に関する事実調査の会員向け報告〕 大日本武徳会本部	昭和10年3月(1935)	1枚・タイプ	267
書簡〔武徳会会長在職時歴史長所参考書類別便にて送付〕 大日本武徳会本部→鈴木莊六	昭和14年2月22日(1939)	1枚・墨書	269
書簡〔武徳会会長在職時の事業調書同封および問い合わせに対する回答〕 細川長平〔財団法人大日本武徳会本部専務理事〕→鈴木莊六	昭和14年2月22日(1939)	4枚・墨書	268
〔大日本武徳会の有功会員に列し一等有功章を贈与〕 大日本武徳会総裁 守正王 大日本武徳会長 奈良武次→鈴木莊六	昭和11年3月28日(1936)	1枚・墨書	29-1
〔大日本武徳会有功会員会員証〕 大日本武徳会→鈴木莊六	昭和11年3月(1936)	1枚・墨書・活版	29-2
大日本武徳会案内 財団法人大日本武徳会本部	昭和13年5月(1938)	1枚・活版	261-1
弓道要則 大日本武徳会		1部・活版	261-2
武道家表彰例並同施行規則 大日本武徳会本部		1枚・活版	261-3
薙刀術教員養成所規程 大日本武徳会本部		1枚・活版	261-4
財団法人大日本武徳会規則 財団法人大日本武徳会本部	昭和11年12月(1936)	1部・活版	261-5

写真

写真〔武徳殿前の鈴木莊六胸像を囲んで〕	〔昭和10年〕(1935)	1枚	227-1
写真〔武徳殿における弓術演武観戦中の守正王・鈴木莊六他〕	〔昭和10年〕(1935)	1枚	227-2
写真〔壇上の守正王〕	〔昭和10年〕(1935)	1枚	227-3
写真〔壇上の守正王〕	〔昭和10年〕(1935)	1枚	227-4

Sub-Series No.2: 各種公的団体

全般

辞令書〔補議定官〕 内閣→鈴木荘六	昭和2年9月3日(1927)	1枚・墨書	45
官記〔任枢密顧問官〕 内閣総理大臣斎藤實→鈴木荘六	昭和7年7月28日(1932)	1枚・墨書	39
辞令書〔除服出仕被仰付〕 内閣→鈴木荘六	昭和14年7月25日(1939)	1枚・墨書	15
委嘱状〔体育運動審議会委員〕 文部省→鈴木荘六	昭和7年1月18日(1932)	1枚・墨書	40
推薦書〔岩手県教育会評議員会名誉会員〕 岩手県教育 会長大津麟平→鈴木荘六	大正5年2月12日(1916)	1枚・墨書	68
推薦状〔楠公誕生地保勝会顧問〕 楠公誕生地保勝会→ 鈴木荘六	大正10年7月5日(1921)	1枚・墨書	53
推薦状〔報効会支部大阪軍人援護会顧問〕 報効会支部 大阪軍人援護会長 池上四郎→鈴木荘六	大正10年11月26日(1921)	1枚・墨書	52
委嘱状〔帝国軍人後援会顧問〕 帝国軍人後援会総裁 戴 仁親王→鈴木荘六	昭和4年5月2日(1929)	1枚・墨書	43
推戴状〔剣聖会会長名誉顧問〕 剣聖会会長柳生俊久→鈴木 荘六	昭和8年8月3日(1933)	1枚・墨書	35
委嘱書〔国幣小社物部神社奉賛会顧問〕 国幣小社物部 神社奉賛会総裁 荒木貞夫→鈴木荘六	昭和9年1月25日(1934)	1枚・墨書	34
辞令書〔体育運動審議会委員仰付〕 内閣→鈴木荘六	昭和7年12月24日(1932)	1枚・墨書	36-1
〔体育運動審議会委員辞令送付書〕 文部大臣官房体育 課長山川建→鈴木荘六	昭和8年1月6日(1933)	1枚・タイプ	36-2
辞令書〔体育運動審議会委員を免ず〕 内閣→鈴木荘六	昭和11年9月10日(1936)	1枚・墨書	27-1
〔辞令送付書〕 文部大臣官房体育課長岩原拓→鈴木荘六	昭和11年9月14日(1936)	1枚・タイプ	27-2
委嘱状〔菊池氏勤王顕彰会顧問〕 菊池氏勤王顕彰会総 裁 清浦奎吾→鈴木荘六	昭和11年11月10日(1936)	1枚・墨書	26
委嘱状〔官幣大社鹿島神宮奉賛会名誉顧問〕 鹿島神宮 奉賛会総裁 近衛文麿→鈴木荘六	昭和12年1月15日(1937)	1枚・墨書	25
推薦状〔東北振興大博覧会名誉顧問〕 東北振興大博覧 会会長 仙台市長 渋谷徳三郎→鈴木荘六	昭和12年3月23日(1937)	1枚・墨書	21
推薦状〔財団法人大日本忠霊顕彰会顧問〕 財団法人大 日本忠霊顕彰会会長 菱刈隆→鈴木荘六	昭和14年7月7日(1939)	1枚・墨書	16
推薦状〔三山伏町家庭防火団顧問〕 三山伏町家庭防火 団長 渡辺民平→鈴木荘六	昭和12年7月12日(1937)	1枚・墨書	2
推薦状〔財団法人東郷会顧問〕 財団法人東郷会会長 有 馬良橋→鈴木荘六	昭和13年12月22日(1938)	1枚・墨書	17
〔護国共済会維持会員之証〕 護国共済会会長 徳川家達 →鈴木荘六	昭和7年10月27日(1932)	1枚・墨書	37
会員証〔東郷元帥記念会〕 東郷元帥記念会→鈴木荘六	昭和10年7月23日(1935)	1枚・墨書	30
感謝状〔明治38年宮城・福島・岩手三県の凶作時にお ける貧民救恤の寄附に対して〕 宮城県知事亀井英三 郎・福島県知事平岡定太郎・岩手県知事笠井信一→鈴木荘六	明治41年2月1日(1908)	1枚・墨書	92

感謝状〔恩賜財団済生会〕 恩賜財団済生会会長桂太郎→鈴木莊六	大正2年8月10日(1913)	1枚・墨書	77
感謝状〔借行社戦史研究部専任幹事として尽力に付〕 東京借行社編纂部→鈴木莊六	大正3年9月21日(1914)	1枚・墨書	71
感謝状〔戦史研究懸賞論文審査に付〕 東京借行社編纂部→鈴木莊六	大正3年12月19日(1914)	1枚・墨書	70
感謝状 財団法人借行社義済会理事長 中村雄次郎→鈴木莊六	大正9年3月8日(1920)	1枚・墨書	58
大正9年3月記念写真帳 済美学校	大正9年3月(1920)	1冊	229

新潟県関係

新潟県人会本領〔会規・入会申込〕 新潟県人会	大正4年11月(1915)	1枚・活版	264
推薦状〔新潟県人会特別会員〕 新潟県人会会長大倉喜八郎→鈴木莊六	大正4年12月25日(1915)	1枚・墨書	69
委嘱状〔新潟県人会牛込支部顧問〕 新潟県人会会長大倉喜七郎→鈴木莊六	昭和9年4月7日(1934)	1枚・墨書	33
委嘱状〔大日本傷痍軍人会新潟県支部顧問〕 大日本傷痍軍人会会長 林仙之→鈴木莊六	昭和12年5月10日(1937)	1枚・墨書	20
委嘱状〔大日本傷痍軍人会新潟県支部相談役〕 大日本傷痍軍人会会長 林仙之→鈴木莊六	昭和13年12月14日(1938)	1枚・墨書	18
委嘱状〔恩賜財団軍人援護会新潟県支部顧問〕 恩賜財団軍人援護会総裁 鳩彦王→鈴木莊六	昭和13年12月1日(1938)	1枚・墨書	19
委嘱状〔新潟開港70年記念日本海大博覧会名誉顧問〕 新潟開港七十年記念日本海大博覧会会長 新潟市長 小柳牧衛→鈴木莊六	昭和12年3月15日(1937)	1枚・墨書	22

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
Series No3: 個人			
Sub-Series No.1: 文書			
自叙 莊六一代記 元・亨・利・貞〔丁間資料:昭和18年2月11日付故鈴木莊六大将伝記編纂委員会副委員長陸軍中將小泉六一名の自叙伝製本表装経緯を記した文書〕 鈴木莊六		4冊・1枚・ペン	11
自叙 莊六一代記〔莊六一代記の活字版〕 鈴木莊六	昭和12年-(1937-)	1冊・活版	1
〔言志録 台湾・朝鮮軍司令官時代に作製した七言絶句〕 鈴木莊六	大正12-13年頃(1923-24)	1冊・墨書・ペン	254-2
言志録 二〔朝鮮軍司令官時代の各地視察・昭和3年の東北大演習に際して作製した漢詩〕 鈴木莊六	大正13年-昭和3年(1924-28)	1冊・墨書・ペン	254-3
〔漢詩19編〕 鈴木莊六	大正14年1月-(1925-)	1綴・墨書	254-5
兵籍写〔丁間資料:兵籍写追加分〕		1綴・1枚・謄写版	12-1
陸大に就て〔明治39年-昭和11年陸軍大演習一覽〕 鈴木莊六		3枚・ペン	257
結婚願〔陸軍省受領肆第1135号〕 鈴木莊六→陸軍大臣 大山巖代理陸軍次官児玉源太郎	明治27年10月7日(1894)	1枚・墨書	208
祭文〔後藤春蔵先生没後21年法要〕 鈴木莊六	大正11年4月16日(1922)	1枚・墨書	274-41
銘之義〔「為龍為光」の説明〕 陸軍大学校罫紙		1枚・墨書	183
『婦女新聞』第146号〔日本女子大学校長麻生正蔵「反省二十一条」に鈴木莊六のメモ書き〕	大正13年4月27日(1924)	1枚・活版	274-37
スクラップブック〔建川美次関係新聞雑誌切り抜き・建川美次講演録〔英国討つべし〕〕	昭和11年11月23日-昭和18年6月24日(1936-43)	1冊	315-1
新聞切抜〔森岡正元の記事〕	〔大正12年8月〕(1923)	1枚・活版	274-24
陸軍省所管大札参列員勅・奏任官総代者宿所表中訂正		1枚・タイプ	178
DINNER〔鳩彦・稔彦・鈴木莊六等のサインあり〕 OSAKA SHOSEN KAISHA	1914年6月2日(1914)	1枚・活版・ペン	179
〔鈴木莊六銅像の銘文〕 古川郁撰文、押見保治謹書	昭和10年6月(1935)	1枚・墨書	255-2
領収証〔勲六等還納領収書〕 賞勲局物品会計主務属近藤政美→鈴木莊六	明治34年12月2日(1901)	1枚・タイプ・墨書	186
年中定額払〔年間支出に関する覚書〕		1枚・ペン	274-40
〔宿泊者名簿〕		1枚・ペン・墨書	273-70
汽車発着時刻表附運賃表〔明治30年11月改正飯田町・八王子及び川越間、青梅線、赤羽線の時刻表・運賃表〕 甲武鉄道株式会社	明治30年11月改正(1897)	1枚・活版	189
荷札〔菓子〕 石黒忠恵→鈴木莊六	4月25日	1枚・墨書	274-33

書籍『わしが国さ』 伊藤金次郎	大正15年7月23日(1926)	1冊・活版	353
書籍『陸軍大将鈴木莊六伝』 萩原俊三	昭和18年2月11日(1943)	1冊・活版	352

Sub-Series No.2: 書簡

書簡〔参謀旅行地出張の件、一部欠〕 大島健一→鈴木莊六	4月15日	1枚・墨書	274-1
書簡〔寄書〕 大迫尚道・上原平太郎→鈴木莊六	明治42年□月23日(1909)	1枚・ペン	274-2
書簡〔近況報告、新聞報道の件〕 後藤春蔵〔新潟県南蒲原郡三条尋常高等小学校〕→鈴木莊六	明治33年10月4日(1900)	1枚・墨書	273-59
書簡〔帰朝祝辞〕 新蔵→鈴木大佐	〔明治42年〕12月5日(1909)	1通・墨書	255-1
陣中楽〔第二軍作戦参謀鈴木莊六宛鈴木竹子書簡綴〕 鈴木タケ→鈴木莊六	明治37年6月1日-38年6月9日(1904-05)	1綴・墨書	347-1
書簡〔金谷よりの書留転送〕 鈴木光→鈴木莊六	昭和6年12月24日(1931)	1枚・ペン	273-11
書簡〔贈物礼状〕 森岡正元→鈴木莊六	大正14年7月4日(1925)	1枚・ペン	274-28
未使用葉書		1枚	273-48

Sub-Series No.3: 写真

軍関係

写真帳〔日露戦争および欧州派遣時代〕	明治37年-44年(1904-11)	1冊	230
写真帳 大正時代〔第5師団長および朝鮮軍司令官時代〕	大正8-15年(1919-26)	1冊	234
写真帳 軍事関係〔軍事視察および家族写真〕		1冊	233
昭和13年8月正大阪赴任の時 於東京駅ホーム〔鈴木莊六他写真4枚〕	昭和13年8月(1938)	4枚・ペン	212
写真〔軍服着用の鈴木莊六他2名〕		1枚	216
大阪時代の写真〔明治26年1月大阪において鈴木莊六肖像写真・年代不明鈴木莊六肖像写真5部・明治37年春日露戦役出征時の家族写真・昭和7年6月4日奉天神社祠前の鈴木莊六一行・明治42年10月13日撮影オーストリア皇帝拜謁の本郷房太郎および鈴木莊六他6名・明治17年鈴木莊六他8名集合写真〕		10枚	218
写真〔鈴木莊六他1名記念写真〕		1枚	219
写真〔偕行社において教導団同期会〕	昭和3年5月21日(1928)	1枚	225
〔北海道大演習時札幌今井氏邸玄関前写真〕	昭和11年10月(1936)	2枚・包紙	236
写真〔列車内にて〕		1枚	237
写真〔弘前公会堂にて〕	昭和11年1月16日(1936)	1枚	238
写真〔弘前偕行社にて〕	昭和11年1月16日(1936)	1枚	239
写真〔野外觀戦中の鈴木莊六〕	30日	1枚	240

鈴木莊六文書目録 / 個人 / 写真

写真〔鈴木莊六・陸軍軍人6名集合写真〕		1枚	241
写真〔鈴木莊六・陸軍軍人集合写真〕		1枚	242
写真〔鈴木莊六他7名集合写真〕		1枚	245
写真〔列車内にて〕		1枚	246
写真〔鈴木莊六と米軍将校〕		1枚	277
写真〔騎兵学校にてグロスター公殿下一行・秩父宮他 日本軍将校〕		1枚	278
写真〔米国大使館にてグルー在日本米国大使・老兵会 一行〕	昭和11年5月(1936)	1枚	279-1
名刺〔グルー駐日米国大使〕		1枚・活版	279-2
写真〔鈴木莊六他集合写真〕		1枚	280
写真〔野津道貫元帥・秋山好古少将・渡辺中将・鈴木中 佐他集合写真〕		1枚	281
写真〔正装姿の集合写真〕	日露戦後カ	1枚	282
写真〔初台にてポーランド一等勲章拝受式〕	3月8日	1枚	283
写真〔初台にてポーランド一等勲章拝受式〕	3月8日	1枚	285
写真〔バーネット中佐・鈴木大将・白川大将他集合写 真〕		1枚	284
写真〔九州地方特別大演習にて大迫大将・鈴木少将 他〕	大正5年11月(1916)	1枚	295
写真〔鈴木莊六他集合写真〕		1枚	296
写真〔鈴木莊六他集合写真〕		1枚	297
写真〔鈴木莊六他集合写真〕		1枚	298
写真〔田中義一・鈴木莊六・外国人将校〕		1枚	299
写真〔鈴木莊六他集合写真〕		1枚	300
写真〔鈴木莊六他集合写真〕		1枚	302
写真〔鈴木莊六他集合写真〕		1枚	303
写真〔鈴木莊六他集合写真〕		1枚	306
写真〔鈴木莊六他集合写真〕		1枚	307
写真〔鈴木莊六他集合写真〕		1枚	308
写真〔鈴木莊六他集合写真〕		1枚	309
写真〔鈴木莊六他集合写真〕		1枚	310
写真〔鈴木莊六他集合写真〕		1枚	311
写真〔軍服を着た男性〕 杉浦写真館		1枚	315-3
写真〔日露戦争座談会〕 財団法人借行社編集部→鈴木莊 六	昭和10年5月4日(1935)	1枚・封筒	316-2

写真〔偕行社にて朝香宮鳩彦王他恤兵会総会参加者 集合写真〕	昭和10年3月(1935)	1枚	316-4
写真〔鈴木莊六・阿部信行他3名〕		1枚	316-6
昭和十年一月十八日於陸軍大臣官邸陸海軍大將 新 宮館	昭和10年1月18日(1935)	2枚・墨書	316-7
写真〔甲板にて裕仁皇太子・鈴木莊六他1名〕		1枚・封筒	316-10
写真〔鈴木莊六〕		1枚	316-11
写真〔馬上の鈴木莊六〕		1枚・額	356

個人・家族

写真帳〔昭和5年頃までの鈴木莊六〕		1冊	318
写真帳〔三条在住時〕		1冊	235
写真帳〔鈴木莊六市葬記録写真〕	昭和15年6月(1940)	1冊	317
写真〔明治16年2月新潟学校中等師等学科卒業記念〕	明治16年2月・昭和4年 複製(1883・1929)	1枚	211
写真〔長岡市小林小太郎宅にて鈴木莊六〕	大正15年6月14日(1926)	1枚	316-12
写真〔武道専門学校玄関前にて〕	〔昭和9年〕1月13日(1934)	1枚	247
写真〔鈴木莊六〕 遠藤操写	昭和9年8月3日(1934)	1枚	223
大旦那様石地の学校にて〔鈴木莊六他5名写真〕	昭和10年8月14日(1935)	1枚	209
写真〔①六花会之館地鎮祭にて鈴木莊六他10名・②鈴木 竹子他3名・③鈴木莊六と清浦奎吾・④赤坂にお いて県人会京橋支部幹事〕	昭和10年12月・12年3月 5日(1935・37)	4枚	210
写真〔三条にて水不入会〕	〔昭和12年〕12月27日(1937)	1枚	253
写真〔新潟海軍人事部開庁式〕	昭和14年4月11日(1939)	1枚	228
写真〔大阪にて昭和倶楽部支部員〕 中村正一	昭和14年9月9日(1939)	1枚	231
写真〔大阪にて昭和倶楽部支部員〕 中村正一	昭和14年9月9日(1939)	1枚	232
〔鈴木莊六・竹子葬儀写真一括〕	昭和15年2月(1940)	2種(4枚)	316-5
〔鈴木莊六・竹子写真一括〕		38種	221
写真〔和装の女性〕		1枚	221-1
写真〔自邸応接間にて鈴木莊六他3名〕		1枚	221-2
写真〔墓前の鈴木莊六・竹子〕		1枚	221-3
写真〔墓前の鈴木莊六・竹子〕		1枚	221-4
写真〔鈴木莊六・竹子他3名〕		1枚	221-5
写真〔潮干狩り〕		1枚	221-6
写真〔鈴木竹子を囲んで他6名〕		1枚	221-7
写真〔生け花をする鈴木竹子〕		1枚	221-8

写真〔軍人4名〕		1枚	221-9
写真〔邸宅前の女性4名と犬〕		1枚	221-10
写真〔鈴木竹子他2名〕		1枚	221-11
写真〔鈴木竹子を囲んで他6名〕		1枚	221-12
写真〔鈴木莊六・竹子他4名〕		1枚	221-13
写真〔鈴木莊六・竹子〕		1枚	221-14
写真〔女性2名〕		1枚	221-15
写真〔女性〕		1枚	221-16
写真〔鈴木竹子他7名〕		1枚	221-17
写真〔墓前の鈴木莊六・竹子〕		1枚	221-18
写真〔2名と犬〕		1枚	221-19
写真〔鈴木莊六・竹子他5名〕		1枚	221-20
写真〔鈴木竹子他6名〕		1枚	221-21
写真〔鈴木竹子他2名〕		1枚	221-22
写真〔本と子供〕		1枚	221-23
写真〔池の前の鈴木竹子他6名〕		1枚	221-24
写真〔鈴木竹子他2名〕		1枚	221-25
写真〔橋上の鈴木竹子〕		1枚	221-26
写真〔花を見る鈴木竹子〕		1枚	221-27
写真〔女性4名〕		1枚	221-28
写真〔盆栽を見る鈴木竹子〕		1枚	221-29
絵葉書〔江原道蘭谷牧場について〕 鈴木重雄→鈴木 莊六		1枚・ペン	221-30
写真〔久留米武揚館における鈴木莊六〕	昭和10年4月13日(1935)	1枚	221-31
写真〔和装の女性〕		1枚	221-32
写真〔北海道支笏湖船上の鈴木莊六他〕	昭和11年10月2日(1936)	1枚	221-33
写真〔鈴木竹子〕		1枚	221-34
写真〔北海道しこつ湖船上の鈴木莊六他〕	昭和11年10月2日(1936)	1枚	221-35
写真〔自邸の鈴木莊六〕		1枚	221-36
写真〔鈴木莊六と鬢姿の男性〕		1枚	221-37
写真〔鈴木竹子と子供〕		1枚	221-38
〔鈴木莊六写真一括〕		6枚	276-0
写真〔鈴木莊六他1名〕		1枚	276-1

写真〔居間での鈴木莊六他7名〕	1枚	276-2
写真〔玄関前での鈴木莊六他10名〕	1枚	276-3
写真〔洋装の鈴木莊六他2名〕	1枚	276-4
写真〔軍服の鈴木莊六〕	1枚	276-5
写真〔軍服の鈴木莊六他1名〕	1枚	276-6
写真〔清浦奎吾と鈴木莊六〕	1枚	222
写真〔清浦奎吾と鈴木莊六〕	1枚	224
写真〔鈴木莊六〕	1枚	251
写真〔鈴木莊六〕	1枚	252
写真〔鈴木莊六〕	1枚	316-14
写真〔鈴木莊六肖像〕	1枚・封筒	316-15
写真〔馬上の鈴木莊六〕	1枚	316-16
写真〔鈴木竹子〕	1枚	316-17
写真〔鈴木莊六〕	1枚	316-18
写真〔鈴木莊六・竹子〕	1枚	316-19
写真〔鈴木莊六自宅〕	1枚	320
写真〔和装の鈴木莊六〕	1枚	274-23
写真〔鈴木竹子他集合写真〕	1枚	301
写真〔大野小学校宛鈴木莊六筆の扁額「克忠克孝」〕	1枚	227-7
写真〔実盛寺にて住職を囲んで〕	1枚	227-8
写真〔陸軍大将鈴木莊六閣下像〕	1枚	248
写真〔陸軍大将鈴木莊六閣下像〕	1枚	249
写真〔陸軍大将鈴木莊六閣下像〕	1枚	250
写真〔三条鈴木莊六邸宅前にて鈴木莊六他集合写真〕 水野写真館	1枚	316-1
写真〔三条にて鈴木莊六他親族集合写真〕	1枚	316-3
写真〔鈴木家・鈴木莊六墓前の人々〕	1枚	319

Sub-Series No.4: 位記・勲章

位記〔叙正八位〕	宮内大臣土方久元→鈴木莊六	明治25年2月3日(1892)	1枚・墨書	145
位記〔叙従七位〕	宮内大臣土方久元→鈴木莊六	明治26年12月16日(1893)	1枚・墨書	139
位記〔叙正七位〕	宮内大臣土方久元→鈴木莊六	明治29年5月15日(1896)	1枚・墨書	131
位記〔叙従六位〕	宮内大臣田中光顕→鈴木莊六	明治34年8月31日(1901)	1枚・墨書	115

鈴木莊六文書目録 / 個人 / 位記・勳章

位記〔叙正六位〕 宮内大臣田中光顕→鈴木莊六	明治38年4月7日(1905)	1枚・墨書	108
位記〔叙従五位〕 宮内大臣田中光顕→鈴木莊六	明治42年6月11日(1909)	1枚・墨書	88
位記〔叙正五位〕 宮内大臣波多野敬直→鈴木莊六	大正3年7月10日(1914)	1枚・墨書	74
位記〔叙従四位〕 宮内大臣波多野敬直→鈴木莊六	大正7年8月30日(1918)	1枚・墨書	63
位記〔叙正四位〕 宮内大臣中村雄次郎→鈴木莊六	大正9年9月10日(1920)	1枚・墨書	57
位記〔叙従三位〕 宮内大臣牧野伸顕→鈴木莊六	大正12年11月30日(1923)	1枚・墨書	51
位記〔叙正三位〕 宮内大臣一木喜徳郎→鈴木莊六	大正15年12月15日(1926)	1枚・墨書	46
位記〔叙従二位〕 宮内大臣湯浅倉平→鈴木莊六	昭和9年6月1日(1934)	1枚・墨書	32
位記〔叙正二位〕 宮内大臣松平恒雄→鈴木莊六	昭和15年2月20日(1940)	1枚・墨書	14
位記〔特旨を以て位一級追陞〕 宮内省→鈴木莊六	昭和15年2月21日(1940)	1枚・墨書	13
勳記〔勳四等瑞宝章〕 賞勳局→鈴木莊六	明治38年11月30日(1905)	1枚・墨書	106
勳二等瑞宝章		1個・箱	350-7
大礼記念章之証 賞勳局総裁正親町実正・賞勳局書記官藤井善言→鈴木莊六	大正4年11月10日(1915)	1枚・墨書	165
第一回国勢調査記念章之証 賞勳局総裁児玉秀雄・賞勳局書記官横田郷助・同書記官郡山智→鈴木莊六	大正10年7月1日(1921)	1枚・墨書	174
建国功労章証書 國務総理大臣鄭孝胥・國務院総務庁恩賞処長皆川豊治→鈴木莊六	康德1年3月1日(1934)	1枚・墨書	164
大日本帝国外国記章佩用免許証〔満洲国建国功労章の受領・佩用允許〕 賞勳局総裁下條康麿・賞勳局書記官伊手衡→鈴木莊六	昭和9年3月1日(1934)	1枚・墨書	170
昭和六年乃至九年事変従軍記章之証 賞勳局総裁下條康麿・賞勳局書記官伊手衡→鈴木莊六	昭和9年4月29日(1934)	1枚・墨書	169
辞令書〔昭和六年乃至九年事変に於ける功に依る賜金杯一組〕 賞勳局総裁下條康麿→鈴木莊六	昭和9年4月29日(1934)	1枚・墨書	171
勳章〔①明治27・8年従軍勳章・②明治33年従軍勳章・③明治37・8年従軍勳章・④明治43年8月29日韓国併合記念章・⑤大正4年11月大礼記念章・⑥大正3年乃至9年従軍勳章・⑦自大正3年至大正9年文明擁護大戦同盟及連合軍・⑧大正9年10月1日国勢調査記念章・⑨不明・⑩昭和3年11月大礼記念章・⑪1916年-1918年・⑫大同1年大満洲国建国功労章・⑬北支乃至中支事変従軍勳章 13種を1つに連結〕		1組13個	350-1-1
勳章〔①勳四等瑞宝章・②勳六等単光旭日章・③北支乃至南支事変従軍勳章・④昭和15年紀元2600年祝典記念章・⑤大同1年大満洲国建国功労章・⑥康德7年7月15日建国神廟創建記念章 6種を1つに連結〕		1組6個	350-1-2-2
支那事変従軍勳章		1個・包	350-1-2-0-1
第八回明治神宮体育大会役員章		3個・箱	350-2-7
勳章・懸章〔「POLONIA RESTITVTA」と刻字された箱付き〕		3個・箱	349-1
勳章〔「POLONIA RESTITVTA」と刻字された箱付き〕		1個・箱	349-2

勲章〔イタリア王国より。〔D CO CRAVANZOLA Prov.deria R.CASA E R.R. MINISTERI Gorso Umberto I 558.359.340 ROMA〕と刻字された箱付 き〕		1個・箱	350-3
勲章〔オーストリア帝国より。〔OESTERR. KAISERLICHER ORDEN DEA EISERNEN KRONE II.CLASSE〕と刻字された箱付き〕		1個・箱	350-5
勲章〔フランス共和国より。〔ARTHUS BERTRAND PARIS〕と刻字された箱付き〕		2個・箱	350-6
叙勲履歴届出心得 賞勲局	明治28年7月(1895)	1枚・タイプ	176-1
〔叙勲履歴届〕 鈴木荘六→賞勲局		1枚・墨書	176-2
〔未記入薄紙〕		1枚	176-3
勲章目録	昭和17年12月22日(1942)	1枚	350-2-1
〔叙勲履歴メモ〕 〔鈴木荘六〕		1枚・ペン	177
目録〔軍刀一振〕		1枚・墨書	180
目録〔御紋附紙巻蓑1000本・清酒4打〕 天皇后兩陛下 →鈴木荘六	〔大正13年〕(1924)	1枚・墨書	181
目録〔祭資金3000円〕 →鈴木荘六	昭和15年(1940)	2枚・墨書	322-1
目録〔白絹2匹〕	昭和15年(1940)	1枚・墨書	322-2

Sub-Series No.5: 書画

書〔七言絶句〕 鈴木荘六	庚辰年1月1日	1枚・墨書	321-5-1
書〔年頭所感〕 鈴木荘六		1枚・墨書	321-5-2
書〔奉信大嘗祭〕 鈴木荘六		1枚・墨書	321-5-4
水墨画 天荘〔鈴木荘六〕		1枚・墨書	321-6
天南短冊 南穂〔鈴木竹子〕・天荘〔鈴木荘六〕・天南〔久保田良 行〕		12枚・墨書	321-7
水墨画〔竹〕 天荘〔鈴木荘六〕		1枚・墨書	321-9
水墨画〔竹〕 天荘〔鈴木荘六〕		1枚・墨書	321-10
水墨画〔竹〕 南穂〔鈴木竹子〕・天荘〔鈴木荘六〕		1枚・墨書	321-11
書〔和気満堂〕 鈴木荘六	己卯元旦〔昭和14年1月 1日〕(1939)	1枚・墨書	321-12
書画〔人物〕 啓太郎・鈴木荘六		1本・墨書	330
書〔君が代〕 鈴木荘六		1枚・墨書	338
書〔松無古今色 竹有上下節〕 鈴木荘六		1枚・墨書	340
書〔拜聖詔諸感〕 鈴木荘六		1枚・墨書	341
絵画 〔鈴木荘六〕		1枚・墨書	348-5

鈴木莊六文書目録 / 個人 / 書画

水墨画〔竹〕 天荘〔鈴木莊六〕	〔昭和9年〕(1934)	1本・墨書	325
水墨画〔草花〕 天南〔久保田良行〕→天荘將軍〔鈴木莊六〕		1枚・墨書	348-6
水墨画〔草花〕 天南〔久保田良行〕		1枚・墨書	348-7
水墨画〔梅花〕 天南〔久保田良行〕		1枚・墨書	348-8
水墨画〔草花〕 天南〔久保田良行〕		1枚・墨書	348-9
水墨画〔草花〕 天南〔久保田良行〕		1枚・墨書	348-10
水墨画〔草花〕 天南〔久保田良行〕		1枚・墨書	348-11
水墨画〔竹〕 天南〔久保田良行〕		1枚・墨書	348-12
水墨画〔梅花〕 天南〔久保田良行〕		1枚・墨書	348-13
水墨画〔草花〕 天南〔久保田良行〕		1枚・墨書	348-14
水墨画〔梅花〕 天南〔久保田良行〕	昭和2年(1927)	1枚・墨書	348-26
水墨画〔山水〕 天南〔久保田良行〕		1本・墨書	328
水墨画〔岩に竹と蘭〕 天南〔久保田良行〕		1本・墨書	337
〔書画一括〕		22枚	346
水墨画〔竹〕 天南〔久保田良行〕→天荘將軍〔鈴木莊六〕		1枚・墨書	346-4
水墨画〔草花〕 天南〔久保田良行〕		1枚・墨書	346-5
水墨画〔花〕 天南〔久保田良行〕	昭和4年(1929)	1枚・墨書	346-6
水彩画〔梅花〕 天南〔久保田良行〕		1枚・墨書	346-7
水墨画〔人物〕 瑞雨		1枚・墨書	346-8
水彩画〔花〕 浅藤		1枚・墨書	346-9
水墨画〔草花〕 季仙		1枚・墨書	346-19
水墨画〔草花〕・手引き 天南〔久保田良行〕		2枚・墨書	346-20
書〔漢詩〕 忝講春		1枚・墨書	346-1
書〔漢詩〕 喜学		1枚・墨書	346-2
書〔松川大將記念碑除幕式にて〕 四竈仁→鈴木莊六	昭和7年12月(1932)	1枚・墨書	346-3
書〔寿〕 三峰→鈴木莊六	己卯元旦〔昭和14年1月1日〕(1939)	1枚・墨書	346-10
書画〔梅花〕 桜崖詩	昭和10年春(1935)	1枚・墨書	346-11
書〔鈴木莊六古稀祝〕 静堂→鈴木莊六		1枚・墨書	346-12
書〔漢詩〕 屈端→鈴木莊六		1枚・墨書	346-13
書〔新年言志〕 良子		1枚・墨書	346-14
書〔漢詩〕 橘平生		1枚・墨書	346-15
書〔參謀本部招宴に際して〕 王大楨→鈴木莊六		1枚・墨書	346-16

書〔短歌〕 修		1枚・墨書	346-17
書〔短歌〕 修		1枚・墨書	346-18
書〔撰政宮御歌〕 東宮侍従長入江前守書		1枚・墨書	346-21
書〔松川大将記念碑除幕式にて〕 四竈仁→鈴木莊六	昭和7年12月(1932)	1枚・墨書	346-22
水墨画〔山〕 雲山人(岩田)		1枚・墨書	348-28
水墨画〔湖岸の鴨〕 爽邦		1本・墨書	327
書〔在郷軍人会会長就任祝の短歌〕 三藤→鈴木莊六	昭和6年頃(1931)	1枚・墨書	321-8
書〔明治天皇御製〕・御札 西五辻文仲→鈴木莊六		1枚・墨書	342
絵画〔花〕 永井久晴		1枚・墨書	348-1
絵画〔タンポポ〕 谷仙	5月	1枚・墨書	348-2
絵画〔菊〕 苔山		1枚・墨書	348-3
水墨画〔竹〕 →鈴木莊六		1本・墨書	321-2
絵画〔花〕		1枚・墨書	348-4
水墨画〔楸と蘭〕		1本・墨書	329
水墨画〔七年南画院展ニ出サレシ御手本〕		1本・墨書	334
水墨画〔七年南画院展ニ出ダセシモノ 山水瀧之橋御手本〕		1本・墨書	336
油絵〔陸軍大演習での昭和天皇と鈴木莊六〕		1枚・額	357
朝鮮南画会図録 第六編 朝鮮南画院	昭和7年9月(1932)	1冊・活版	344
記念号 朝鮮南画会図録 第七編 朝鮮南画院	昭和8年(1933)	1冊・活版	343
朝鮮南画会図録 第八編 朝鮮南画院	昭和9年(1934)	1冊・活版	345

Sub-Series No.6: 服飾・物品

大礼服一式〔陸軍大将用。羽根付帽子・飾帯・飾緒・刀緒・肩章付き。その他肩章(大将)1個(1個欠)・大礼服用肩章(大尉)・刀緒(2種)・飾緒あり。トランク1箱〕 鈴木莊六		1式	358
帯剣用ベルト		1個	360
帯剣用ベルト		1個	361
帯剣用ベルト		1個	362
騎兵用グルメット		1個	355
ペーパーナイフ〔「JUGOSLAVIA」と刻字〕		1個・箱	351
表札〔鈴木莊六〕		1個	363
印		1枚	187
御神符〔天照皇大神官〕		1部	188

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

Series No4: 家族

Sub-Series No.1: 鈴木竹子

文書

辞令書〔月俸金拾貳円給与〕 大阪府→森岡竹	明治26年5月13日(1893)	1枚・墨書	190
辞令書〔依願退職を命ず〕 大阪府→森岡竹	明治26年9月22日(1893)	1枚・墨書	191
辞令書〔任東京府東京市赤坂区赤阪尋常高等小学校訓導〕 東京府→森岡竹	明治26年10月23日(1893)	1枚・墨書	192
辞令書〔月俸九円給与〕 東京府→森岡竹	明治26年10月23日(1893)	1枚・墨書	193
辞令書〔明治二十七年十一月二十日まで休職を命ず〕 東京府→森岡竹	明治26年12月26日(1893)	1枚・墨書	194
褒状〔大阪市南区大宝尋常小学校へ寄附したる段奇特に候事〕 大阪府知事山田信道→森岡竹	明治27年3月15日(1894)	1枚・墨書	195
辞令書〔任東京府東京市赤坂区青山尋常高等小学校訓導〕 東京府→森岡たけ	明治27年4月20日(1894)	1枚・墨書	196
辞令書〔月俸九円給与〕 東京府→森岡たけ	明治27年4月20日(1894)	1枚・墨書	197
辞令書〔明治二十八年七月三十一日迄休職を命ず〕 東京府→森岡たけ	明治27年8月9日(1894)	1枚・墨書	198
辞令書〔任市立大阪高等女学校助教諭〕 大阪府→鈴木竹	明治28年5月4日(1895)	1枚・墨書	199
辞令書〔月俸十五円支給〕 大阪府→鈴木竹	明治28年5月4日(1895)	1枚・墨書	200
修了証〔縋帯術卒業〕 大阪将校婦人慈善会会長能久親王妃富子・講師退役陸軍一等軍医山田俊卿→鈴木たけ子	明治28年5月28日(1895)	1枚・墨書	201
辞令書〔市立大阪高等女学校助教諭依願免職〕 大阪府→鈴木竹	明治29年2月25日(1896)	1枚・墨書	202
辞令書〔高等本科正教員勤務を命ず〕 東京府→東京市南山尋常高等小学校訓導森岡竹	明治30年10月30日(1897)	1枚・墨書	203
辞令書〔任東京市南山尋常高等小学校訓導〕 東京府→森岡竹	明治30年10月30日(1897)	1枚・墨書	204
辞令書〔十級上俸給与〕 東京府→森岡竹	明治30年10月30日(1897)	1枚・墨書	205
辞令書〔九級下俸給与〕 東京府→森岡竹	明治31年3月3日(1898)	1枚・墨書	206
〔三条国防婦人会会長就任挨拶文案〕		1枚・ペン	273-64
暁の星〔蔵書目録〕 鈴木光子蔵書印		1綴・謄写版	273-76
加茂町婦人会申合実行事項〔昭和4年11月3日・昭和6年5月31日・昭和7年6月5日各申合〕 加茂町婦人会		1枚・活版	274-19

書簡

書簡〔建川・林訪問、高坂・田部来訪〕 鈴木莊六→鈴木竹子	〔大正11年〕6月11日(1922)	3枚・墨書	274-86
------------------------------	--------------------	-------	--------

書簡〔磯浦にて短歌一首〕 鈴木莊六→鈴木竹子	大正12年6月13日(1923)	1枚・墨書	274-29
書簡〔磯浦にて漢詩〕 鈴木莊六→鈴木竹子	[大正12年]6月17日(1923)	1枚・墨書	274-31
書簡〔京都での出迎えの件他〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和6年7月24日(1931)	1枚・ペン	273-54
書簡〔梨本宮伺候、稲作大打撃の件他〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和6年7月25日(1931)	4枚・ペン	273-52-1
書簡〔東京住宅の件他〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和6年7月29日(1931)	3枚・ペン	273-52-2
書簡〔代々木練兵場付近前侍従武官矢野大佐空家の件〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和6年7月31日(1931)	2枚・ペン	273-53
書簡〔京都より近況報告、金谷の件他〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和6年8月2日(1931)	2枚・ペン	274-9
書簡〔閑院宮より在郷軍人会長辞令拝受。梨本宮・大臣・総長・総監他関係者挨拶回り〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和6年8月6日(1931)	2枚・ペン	274-22
書簡〔光・重雄と会食〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和6年8月7日(1931)	2枚・ペン	274-27
書簡〔会食の件〕 鈴木莊六・光子・重雄→鈴木竹子	昭和6年8月7日(1931)	1枚・ペン	274-44
書簡〔明石より近況報告、阿部中将と同乗〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和6年9月10日(1931)	1枚・墨書	273-65
書簡〔門司より近況報告〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和6年9月10日(1931)	1枚・ペン	273-56
書簡〔大連上陸〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和6年9月13日(1931)	1枚・ペン	274-18
書簡〔大連より近況報告。在郷軍人会分会長会合、満鉄總裁招宴、遼揚にて多聞師団長官舎宿泊〕 鈴木莊六→鈴木竹子	[昭和6年9月]13日(1931)	2枚・ペン	273-67
書簡〔遼陽より近況報告。多聞師団長官舎宿泊、長春訪問、今後の旅程〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和6年9月17日(1931)	2枚・墨書	274-17
書簡〔満洲より近況報告〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和6年9月18日(1931)	3枚・ペン	274-42
書簡〔満洲事変現地情勢、多門師団長・建川と会談他〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和6年9月20日(1931)	3枚・ペン	274-20
書簡〔京城より近況報告。建川と面談、総督・天南先生訪問の件〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和6年9月23日(1931)	1通・ペン	274-11
書簡〔九段偕行社より近況報告。三条帰郷時における出迎えの件他〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和6年9月30日(1931)	2枚・ペン	273-66
書簡〔新宅祝金の用途について、昭和6年10月4日付鈴木竹子宛鈴木莊六葉書同封〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和6年10月5日(1931)	3枚・ペン	274-16
書簡〔山口より近況報告。警察官武道大会予定の件〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和6年10月17日(1931)	1枚・ペン	273-69
書簡〔偕行社宛書簡回送、警官武道大会の件他〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和6年10月21日(1931)	2枚・ペン	273-51
書簡〔引越の件。10月27日付鈴木莊六宛軍人会本部西野書簡同封〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和6年10月29日(1931)	2枚・墨書	274-43
書簡〔三条より近況報告。実盛寺御会式案内同封〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和6年11月9日(1931)	2枚・墨書	273-72-2
書簡〔熊本より近況報告〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和6年11月13日(1931)	1枚・ペン	273-68

鈴木莊六文書目録 / 家族 / 鈴木竹子

書簡〔中身欠〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和6年11月13日(1931)	1枚・墨書	273-72-1
書簡〔京都より近況報告〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和7年5月4日(1932)	2枚・ペン	274-14
書簡〔京都より近況報告〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和7年5月10日(1932)	2枚・ペン	274-15
書簡〔奉天より帰条日時連絡〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和7年6月4日(1932)	1枚・ペン	273-29
書簡〔長春・新義州・京都の旅程の件〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和7年6月6日(1932)	1枚・ペン	274-7
書簡〔義州より近況報告〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和7年6月8日(1932)	1枚・ペン	274-8
書簡〔新歌舞伎・家政学園講義・ギンブラ等〕 鈴木光→鈴木竹子	昭和7年7月3日(1932)	3枚・ペン	273-12
書簡〔会食の件〕 鈴木莊六・重雄・光→鈴木竹子	昭和5年7月13日(1930)	1枚・ペン	274-35
書簡〔帰郷日時通知〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和7年7月26日(1932)	2枚・ペン	274-25
書簡〔帰郷の件、近況報告〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和7年8月7日(1932)	3枚・ペン	273-13
書簡〔兩陛下拝謁用衣服準備依頼〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和7年8月8日(1932)	1枚・ペン	274-13
書簡〔三条到着日時の件〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和7年9月14日(1932)	1枚・ペン	274-12
書簡〔竹子留守中の模様報告〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和8年2月8日(1933)	2枚・ペン	273-10
書簡〔形見分け、記念品配送の件〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和8年3月4日(1933)	4枚・ペン	273-14
書簡〔近況報告〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和8年3月26日(1933)	1枚・ペン	274-51
書簡〔枢府よりの親展書類郵送〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和8年5月4日(1933)	1枚・ペン	273-7
書簡〔石黒子爵来訪。兵籍の件〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和8年5月15日(1933)	1枚・ペン	274-49
書簡〔納骨式出席。建川三条泊〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和8年5月17日(1933)	1枚・ペン	274-48
書簡〔中身欠〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和8年6月10日(1933)	1枚・ペン	273-8
書簡〔加茂郡婦人会出席依頼、近況報告〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和8年6月12日(1933)	2枚・ペン・墨書	273-6
書簡〔閑院宮より拝領の菓子送付〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和8年6月13日(1933)	2枚・ペン・墨書	274-52
書簡〔京都出張、帰条日程、西野宿泊準備の件〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和8年7月24日(1933)	2枚・ペン	273-5
書簡〔帰京予定通知〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和8年8月1日(1933)	1枚・ペン	273-4
書簡〔南次郎と会談、参謀本部打合せの件〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和8年8月5日(1933)	1枚・ペン	273-55
書簡〔近況報告、竹子宛電報、内藤氏に対する反町問い合わせ、歌題、重雄の件。梧桐第135回選歌と次回の歌題に関する半紙および9月10日付鈴木竹子宛鈴木重雄書簡同封〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和8年9月20日(1933)	5枚・ペン・墨書	273-3
書簡〔佐藤氏・反町氏の件〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和8年9月21日(1933)	1枚・ペン	273-19
書簡〔近況報告、反町の言について他〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和8年10月24日(1933)	1枚・墨書	273-2
書簡〔重雄の件〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和8年10月25日(1933)	1枚・墨書	273-1

書簡〔大演習終了、在郷軍人御親閲、武徳会本部弓道型研究の件〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和8年10月28日(1933)	1枚・墨書	274-73
書簡〔六日市行き日時変更〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和9年6月9日(1934)	1枚・墨書	274-87
書簡〔中野忠太郎夫婦来宅。三条招魂祭供物の件〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和9年6月10日(1934)	1枚・墨書	274-71
書簡〔内藤氏来宅〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和9年6月13日(1934)	1枚・墨書	274-69
書簡〔三条帰郷予定〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和9年6月15日(1934)	1枚・墨書	274-70
書簡〔近況報告。榎原神宮建国会館での少年大会参加の件他〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和9年8月1日(1934)	1枚・ペン	274-67
書簡〔満鮮会宴会へ酒寄付〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和9年9月11日(1934)	1枚・墨書	274-82
書簡〔葉・縹帯等送付依頼〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和10年5月2日(1935)	1枚・ペン	274-5
書簡〔大町関原左右四郎死去〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和10年6月14日(1935)	1枚・墨書	273-74
書簡〔入院中止の件〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和10年7月27日(1935)	1枚・ペン	273-57
書簡〔京都より近況報告〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和10年7月31日(1935)	2枚・ペン	273-63
書簡〔陸軍大演習、在郷軍人御親閲、着京予定の件〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和10年11月14日(1935)	1枚・墨書	274-88
書簡〔大演習地より近況報告〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和10年11月17日(1935)	1枚・ペン	273-28
書簡〔竹生島より〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和11年5月5日(1936)	1枚・ペン	273-22
書簡〔近況報告〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和11年5月6日(1936)	1枚・ペン	273-17
書簡〔近況報告〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和12年9月20日(1937)	1枚・ペン・墨書	274-65
書簡〔奥利根にて短歌一首〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和13年7月23日(1938)	1枚・ペン・墨書	273-31
書簡〔荒川にて短歌一首〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和13年7月23日(1938)	1枚・ペン・墨書	273-23
書簡〔即興短歌二首〕 鈴木莊六→鈴木竹子・比呂子	昭和13年7月(1938)	1枚・ペン・墨書	273-27
書簡〔岩崎と会食〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和13年8月12日(1938)	2枚・墨書	274-85
書簡〔両広川・岩崎と記念会、遺族慰問、燕工場巡視、藤門会の件〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和13年8月15日(1938)	2枚・墨書	274-84
書簡〔石打にて短歌一首〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和13年10月15日(1938)	1枚・ペン・墨書	273-30
書簡〔小林氏逝去〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和13年10月16日(1938)	3枚・ペン	273-75
書簡〔奥利根にて短歌一首〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和13年10月27日(1938)	1枚・ペン・墨書	273-21
書簡〔奥利根にて短歌一首〕 鈴木莊六→鈴木竹子	〔昭和13年〕10月27日(1938)	1枚・ペン・墨書	273-20
書簡〔冬越路にて短歌三首〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和13年12月16日(1938)	1枚・ペン・墨書	273-18
書簡〔石打にて短歌一首〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和13年9月10日(1938)	1枚・ペン・墨書	273-24
書簡〔石打にて短歌一首〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和14年2月2日(1939)	1枚・ペン・墨書	273-25
書簡〔川口にて短歌一首〕 鈴木莊六→鈴木竹子	昭和14年2月2日(1939)	1枚・ペン・墨書	273-26
書簡〔近況報告。武徳殿の考査他〕 鈴木莊六→鈴木竹子	8月3日	2枚・ペン	274-10

鈴木莊六文書目録 / 家族 / 鈴木竹子

書簡〔閑院宮侍候、枢密院議長・総理大臣以下諸大臣と会見、新館披露の方法について〕 鈴木莊六→鈴木竹子	10月12日	2枚・ペン	274-21
書簡〔鮭送付の件。一部欠〕 鈴木莊六→鈴木竹子	4日	2枚・墨書	274-68
書簡〔勅語集編入、祭典出席、火災保険金受取等依頼〕 鈴木莊六→鈴木竹子	10日	2枚・ペン	273-16
書簡〔近況報告。灯火管制、県下郷軍幹部会合、遺族慰問〕 鈴木莊六→鈴木竹子	13日	3枚・墨書	274-66
書簡〔近況報告。武道専門学校20周年記念式典、明治天皇行在所移転落成式他〕 鈴木莊六→鈴木竹子	13日	2枚・ペン	274-6
書簡〔新年宴会〕 鈴木光→鈴木竹子	昭和6年12月23日(1931)	1枚・ペン	274-50
書簡〔8月4日付鈴木竹子宛久保田良行書簡転送〕 鈴木光→鈴木竹子	8月8日	7枚・墨書	273-15
書簡〔新聞にて鈴木莊六満洲旅行中のこと承知、御心配拝察〕 石黒忠恵→鈴木竹子	昭和6年9月21日(1931)	1通・墨書	274-34
書簡〔鈴木莊六一行朝鮮入り〕 石黒忠恵→鈴木竹子	昭和6年9月23日(1931)	1枚・墨書	274-32
書簡〔素画の件〕 久保田天南〔久保田良行〕→鈴木竹子	大正15年7月3日(1926)	1枚・ペン	274-36
書簡〔食物送付礼状〕 平木範之〔第二軍司令部〕→鈴木竹子	明治38年8月21日(1905)	1枚・墨書	273-58
葉書〔栗漬等発送〕 森岡ひさ→鈴木タケ	大正9年12月23日(1920)	1枚・墨書	274-30
書簡〔草心会会員住所氏名送付〕 和辻よし→鈴木竹子	6月27日	1枚・ペン	273-9
書簡〔近況報告〕 不明→姉上		3枚・ペン	274-39

書画

水墨画〔梅と竹〕 南穂〔鈴木竹子〕		2枚・墨書	321-1
水墨画〔山〕 南穂〔鈴木竹子〕		1枚・墨書	321-3
水墨画〔山河〕 南穂〔鈴木竹子〕		1枚・墨書	321-4
水墨画〔扇面〕 南穂〔鈴木竹子〕		1枚・墨書	321-13
水墨画〔扇面〕 南穂〔鈴木竹子〕		1枚・墨書	321-14
水墨画〔扇面〕 南穂〔鈴木竹子〕		1枚・墨書	321-15
水墨画〔草花〕 南穂〔鈴木竹子〕		1枚・墨書	321-16
水墨画〔草花〕 南穂〔鈴木竹子〕		1枚・墨書	321-17
水墨画〔草花〕 南穂〔鈴木竹子〕		1枚・墨書	321-18
水墨画〔草花〕 南穂〔鈴木竹子〕		1枚・墨書	321-19
水墨画〔草花〕 南穂〔鈴木竹子〕		1枚・墨書	321-20
水墨画〔草花〕 南穂〔鈴木竹子〕		1枚・墨書	321-21
水墨画〔草花〕 南穂〔鈴木竹子〕		1枚・墨書	321-22

水墨画〔草花〕 南穂〔鈴木竹子〕		1枚・墨書	321-23
水墨画〔滝と笹〕 南穂〔鈴木竹子〕		1枚・墨書	323
水墨画〔山水〕 南穂〔鈴木竹子〕		1本・墨書	324
水墨画〔看梅〕 南穂〔鈴木竹子〕	昭和〔9年〕(1934)	1本・墨書	326
水墨画〔南画展最初ノモノ〕 南穂〔鈴木竹子〕		1本・墨書	331
水墨画〔別第三号〕 南穂〔鈴木竹子〕		1本・墨書	332-1
水墨画 天荘〔鈴木莊六〕		1枚・墨書	332-2
水墨画〔七年選余〕 南穂〔鈴木竹子〕		1本・墨書	333
水墨画〔十年ノ御清書正水〕 南穂〔鈴木竹子〕		1本・墨書	335
水墨画〔草花〕 南穂〔鈴木竹子〕		1枚・墨書	339-1
水墨画〔草花〕 南穂〔鈴木竹子〕		1枚・墨書	339-2
水墨画〔草花〕 南穂〔鈴木竹子〕		1枚・墨書	339-3
水墨画〔草花〕 南穂〔鈴木竹子〕		1枚・墨書	348-15
水墨画〔草花〕 南穂〔鈴木竹子〕		1枚・墨書	348-16
水墨画〔草花〕 南穂〔鈴木竹子〕		1枚・墨書	348-17
水墨画〔草花〕 南穂〔鈴木竹子〕		1枚・墨書	348-18
水墨画〔草花〕 南穂〔鈴木竹子〕		1枚・墨書	348-19
水墨画〔草花〕 南穂〔鈴木竹子〕		1枚・墨書	348-20
水墨画〔草花〕 南穂〔鈴木竹子〕		1枚・墨書	348-22
水墨画〔草花〕 南穂〔鈴木竹子〕		1枚・墨書	348-23
水墨画〔梅花〕 南穂〔鈴木竹子〕		1枚・墨書	348-24
水墨画〔梅花〕 南穂〔鈴木竹子〕		1枚・墨書	348-25
水墨画〔梅花〕 南穂〔鈴木竹子〕		1枚・墨書	348-27
水墨画〔草花〕 南穂〔鈴木竹子〕		1枚・墨書	348-29
水墨画〔梅花〕 南穂〔鈴木竹子〕		1枚・墨書	348-30
水墨画〔梅花〕 南穂〔鈴木竹子〕		1枚・墨書	348-31
水墨画〔草花〕 南穂〔鈴木竹子〕		1枚・墨書	348-32
水墨画〔草花〕 南穂〔鈴木竹子〕		1枚・墨書	348-33
水墨画〔藤〕・漢詩 南穂〔鈴木竹子〕		1枚・墨書	348-34
〔短歌一括〕 鈴木竹子		13枚・墨書	322-3
書〔短歌〕		1枚・墨書	348-21

Sub-Series No.2: 鈴木重雄

文書

身分証明書〔鈴木比呂子〕 横田部隊長横田卓二	昭和12年2月1日(1937)	1枚・活版・ペン	273-86
私物品還送明細書 河第3561部隊陸軍少佐鈴木重雄→鈴木比呂子	昭和18年1月9日(1943)	1枚・謄写版	254-4
書〔短歌〕 鈴木重雄	庚辰年1月1日	1枚・墨書	321-5-3

書簡

書簡〔新潟医科大学高橋博面会の件〕 鈴木荘六→鈴木重雄	昭和5年12月27日(1930)	1枚・墨書	274-26
書簡〔礼状差出依頼〕 鈴木荘六→鈴木重雄	昭和5年12月25日(1930)	1枚・ペン・墨書	274-3
書簡〔重雄激励、竹子・光近況報告、枢密顧問官拜命の件〕 鈴木荘六→鈴木重雄	〔昭和7年〕8月10日(1932)	1枚・墨書	274-38
書簡〔近況報告〕 鈴木荘六→鈴木重雄	昭和7年8月12日(1932)	1枚・墨書	274-76
書簡〔武運長久祈願〕 鈴木荘六・鈴木竹子・西尾種子他→鈴木重雄	昭和8年4月28日(1933)	1枚・ペン	273-71
書簡〔戦地の心構え、大学受験準備、軍刀送付の件〕 鈴木荘六→鈴木重雄	昭和8年9月12日(1933)	1枚・墨書	273-61
書簡〔軍刀修理完了、関原騎兵大佐に依託〕 鈴木荘六→鈴木重雄	昭和8年10月18日(1933)	1枚・墨書	273-60
書簡〔内藤方一行、満洲からの手紙回送〕 鈴木荘六→鈴木重雄	昭和9年7月3日(1934)	1枚・墨書	273-62
書簡〔御馳走御礼〕 鈴木荘六・竹子→鈴木重雄	昭和10年8月26日(1935)	1枚・墨書	273-41
書簡〔強羅行き〕 鈴木荘六・竹子→鈴木重雄・比呂子	昭和10年8月28日(1935)	1枚・ペン	273-42
書簡〔陸大受験準備督励〕 鈴木荘六→鈴木重雄	昭和11年5月3日(1936)	1枚・墨書	274-81
書簡〔初審試験失敗の件〕 鈴木荘六→陸軍騎兵大尉鈴木重雄	昭和11年8月19日(1936)	2枚・ペン・墨書	274-64
書簡〔比呂子渡満の件〕 鈴木荘六→鈴木重雄	昭和11年9月8日(1936)	3枚・ペン	274-58
書簡〔比呂子渡満の件〕 鈴木荘六→鈴木重雄	昭和11年9月10日(1936)	2枚・ペン	274-60
書簡〔比呂子渡満の件〕 鈴木荘六→鈴木重雄	昭和11年9月13日(1936)	2枚・ペン	274-59
書簡〔年賀状〕 鈴木荘六・竹子→鈴木重雄・比呂子	昭和12年1月1日(1937)	1枚・墨書	273-93
書簡〔受験の件〕 鈴木荘六→鈴木重雄	昭和12年4月2日(1937)	1枚・墨書	273-91
書簡〔鶴田村本家鈴木正三他貴地見学、初審試験の件〕 鈴木荘六→鈴木重雄	昭和12年6月27日(1937)	1枚・墨書	273-95
書簡〔事変拡大のため比呂子帰国準備〕 鈴木荘六→鈴木重雄	昭和12年7月15日(1937)	3枚・墨書	273-94
書簡〔初審不合格。ソ満国境事件勃発の際は殉国の用意〕 鈴木荘六→鈴木重雄	昭和12年8月15日(1937)	3枚・ペン・墨書	273-96

書簡〔関東軍・支那事变部隊の陸大学生候補資格一年延期、採用試験方法の件〕 鈴木莊六→鈴木重雄	昭和12年12月4日(1937)	3枚・ペン・墨書	273-97
書簡〔受験に関する注意〕 鈴木莊六→鈴木重雄	昭和12年12月19日(1937)	1枚・墨書	273-98
書簡〔初審試験合格、再審試験に際しての注意〕 鈴木莊六→鈴木重雄	昭和13年4月16日(1938)	2枚・ペン・墨書	273-90
書簡〔勉強肝要〕 鈴木莊六→鈴木重雄	昭和13年5月7日(1938)	1枚・ペン	273-89
書簡〔正叔父出征〕 鈴木莊六→鈴木重雄	昭和13年7月18日(1938)	1枚・墨書	273-44
書簡〔陸大入学資格調査報告、試験勉強激励〕 鈴木莊六→鈴木重雄	昭和13年9月24日(1938)	3枚・ペン・墨書	274-61
書簡〔帰京の件〕 鈴木莊六→鈴木重雄	昭和13年11月4日(1938)	2枚・墨書	274-77
書簡〔晩餐の件。郵便局持戻票1枚同封〕 鈴木莊六→鈴木重雄	昭和13年11月13日(1938)	4枚・墨書・タイブ	274-79
書簡〔市ヶ谷八幡来訪時の件〕 鈴木莊六→陸軍騎兵大尉鈴木重雄	昭和13年11月14日(1938)	1枚・墨書	274-78
書簡〔水上・奥利根にて短歌二首〕 鈴木莊六→鈴木重雄・比呂子	昭和14年1月28日(1939)	1枚・ペン・墨書	273-38
書簡〔大演習陪観の件〕 鈴木莊六→陸軍騎兵大尉鈴木重雄	〔昭和14年〕9月30日(1939)	2枚・ペン	274-56
書簡〔近況報告〕 鈴木莊六→鈴木重雄・比呂子	昭和14年11月1日(1939)	1枚・ペン	273-33
書簡〔奉天へ打電の件〕 鈴木莊六→鈴木重雄・比呂子	昭和14年11月2日(1939)	1枚・ペン	273-34
書簡〔転送手紙到着、帰宅予定日通知〕 鈴木莊六→鈴木重雄・比呂子	昭和14年11月3日(1939)	1枚・ペン	273-35
書簡〔満鮮会法要宴会、帰京時日通知〕 鈴木莊六→鈴木重雄・比呂子	昭和14年11月4日(1939)	1枚・ペン	273-36
書簡〔魚野川にて短歌一首〕 鈴木莊六→鈴木重雄・比呂子	昭和14年11月27日(1939)	1枚・ペン・墨書	273-37
書簡〔奥利根にて短歌一首〕 鈴木莊六→鈴木重雄・比呂子	昭和14年11月(1939)	1枚・ペン・墨書	273-32
書簡〔俳句二首〕 鈴木莊六→鈴木重雄・比呂子	昭和14年12月16日(1939)	1枚・ペン	273-39
書簡〔上京延期〕 鈴木莊六→鈴木重雄・比呂子	昭和15年1月3日(1940)	2枚・ペン	274-74
書簡〔人参エキスの件〕 鈴木莊六→鈴木重雄・比呂子	昭和15年2月2日(1940)	1枚・ペン	273-40
書簡〔近況報告〕 鈴木莊六→鈴木重雄・比呂子	昭和15年2月2日(1940)	2枚・ペン	274-75
書簡〔熱海より近況報告〕 鈴木莊六→鈴木重雄・比呂子	昭和15年2月4日(1940)	2枚・墨書	274-4
書簡〔陸大入試への助言〕 鈴木莊六→鈴木重雄	2月7日	1枚・墨書	274-62
書簡〔要務令詳解郵送、再審試験の件〕 鈴木莊六→鈴木重雄	4月20日	1枚・墨書	273-88
書簡〔武運長久祈願〕 鈴木莊六・竹子→鈴木重雄	8月17日	1枚・ペン	274-57
書簡〔対敵の要諦について〕 鈴木莊六→鈴木重雄	6月10日	1通・墨書	273-73
書簡〔陸大入試の件〕 鈴木莊六→鈴木重雄	10月29日	3枚・ペン	273-92
書簡〔比呂子・母帰京〕 鈴木莊六→鈴木重雄		2枚・ペン	273-87

鈴木荘六文書目録 / 家族 / 鈴木重雄

書簡〔近況報告〕 鈴木竹子→鈴木重雄・比呂子	昭和13年4月15日(1938)	2枚・ペン・墨書	273-102
書簡〔近況報告、貞枝の成長、恩師後藤先生法事他〕 鈴木竹子→鈴木重雄	昭和13年9月19日(1938)	3枚・ペン・墨書	273-104
書簡〔早蕨幼稚園25周年創立記念祝賀大会の件、早蕨祭パンフレット・早蕨幼稚園創立25周年祝賀大会パンフレット各1枚・早蕨母の会祝賀大会招待券2枚同封〕 久留島武彦・岑子→鈴木重雄	昭和10年5月8日(1935)	7枚・ペン・活版・墨書	274-47
書簡〔昇進祝〕 箱根小涌谷三河屋方園長〔久留島武彦〕→鈴木重雄	昭和11年8月21日(1936)	1枚・墨書	273-49
書簡〔陣中見舞〕 園長〔久留島武彦〕→鈴木重雄	昭和12年3月27日(1937)	1枚・ペン	274-55
書簡〔写真寄贈願〕 久留島〔武彦〕→鈴木重雄	昭和12年6月18日(1937)	1枚・ペン	273-105
書簡〔早蕨幼稚園出身軍人紹介、時局講演巡回、久留島主事入院の件〕 園長〔久留島武彦〕→陸軍騎兵大尉鈴木重雄	昭和12年9月4日(1937)	1枚・墨書	274-53
書簡〔重雄激励、久留島の時局講演の件〕 久留島武彦〔私立第一第二早蕨幼稚園〕→鈴木重雄	昭和13年6月21日(1938)	1枚・墨書	274-46
書簡〔陣中見舞〕 久留島武彦→鈴木重雄	昭和13年7月13日(1938)	1枚・墨書	274-54
書簡〔保険金払込依頼。明治生命保険料払込票同封〕 佐藤誠治〔明治生命保険株式会社代理店〕→鈴木重雄	昭和13年5月27日(1938)	2枚・謄写版	274-83
書簡〔近況報告〕 関矢孫一→鈴木重雄・比呂子	昭和12年10月17日(1937)	1枚・墨書	273-99
書簡〔内藤家訪問〕 関矢孫一→鈴木重雄	昭和13年6月21日(1938)	1枚・墨書	274-45
書簡〔陸大入学祝辞〕 関矢由美子→鈴木重雄・ひろ子	昭和13年6月30日(1938)	1枚・墨書	274-72
書簡〔年賀状〕 田部馨→鈴木重雄・比呂子	昭和13年1月1日(1938)	1枚・墨書	273-100
書簡〔近況報告〕 内藤久一郎→鈴木重雄	昭和10年8月17日(1935)	1枚・墨書	273-50
書簡〔重雄・比呂子各宛の近況報告〕 内藤久寛→鈴木重雄・比呂子	昭和12年10月13日(1937)	2枚・ペン・墨書	273-101
書簡〔近況報告〕 森岡正→鈴木重雄	昭和13年8月28日(1938)	1枚・墨書	273-47
書簡〔贈物礼状〕 森岡たつ子→鈴木重雄・ひろ子	12月27日	1枚・墨書	273-85
書簡〔演習地静岡より近況報告〕 鈴木重雄→内藤比呂子	昭和9年10月17日(1934)	1枚・ペン・墨書	273-84
書簡〔八街にて露營〕 鈴木重雄→鈴木比呂子	昭和10年12月11日(1935)	1枚・ペン	273-46
書簡〔近況伺い〕 鈴木重雄→鈴木比呂子	3月20日	1枚・ペン	273-45
書簡〔内藤氏出迎への件。昭和13年11月21日鈴木比呂子宛内藤氏電報同封〕 鈴木荘六→鈴木比呂子	昭和13年11月22日(1938)	2枚・墨書	274-80
書簡〔礼状〕 鈴木竹子→内藤比呂子	昭和9年11月6日(1934)	2枚・墨書	273-43
書簡〔佳木斯より近況報告。初審通過、部隊移動の件他〕 遠藤美子→鈴木比呂子	康德5年10月27日(1938)	4枚・ペン	273-83
書簡〔近況見舞い〕 酒井操→鈴木比呂子	昭和13年6月19日(1938)	1枚・墨書	273-103
書簡〔比呂子渡満の件〕 関矢孫一→鈴木ひろ子	9月13日	1枚・墨書	274-63
書簡〔新参女中の件〕 内藤久一郎→鈴木比呂子	昭和13年11月29日(1938)	2枚・墨書	273-77

書簡〔近況報告、母上軽快〕 内藤佐賀子→鈴木比呂子	昭和13年8月19日(1938)	2枚・ペン	273-79
書簡〔新参女中の件〕 内藤佐賀子→鈴木比呂子	1月27日	1枚・墨書	273-78
書簡〔ハイラルより近況見舞い〕 内藤たづゑ→鈴木若令婦人(鈴木比呂子)	康德5年5月24日(1938)	3枚・ペン・墨書	273-80
書簡〔近況見舞い〕 長谷川とよ子→鈴木比呂子	昭和13年11月7日(1938)	3枚・ペン	273-82
書簡〔近況報告、重雄大学通学の件〕 森岡たつ子→鈴木比呂子	昭和13年6月22日(1938)	2枚・ペン・墨書	273-81

服飾

大礼服一式〔陸軍近衛騎兵大尉用。羽根付帽子・刀緒・肩章付き。その他肩章(少佐)1式。トランク1箱〕 鈴木重雄		1式	359
--	--	----	-----

手島兵次郎文書目録

手島兵次郎文書目録 本文細目次

Series No1: 公的活動	57
Sub-Series No.1: 司法省	57
Sub-Series No.2: 台湾総督府民政部総務局法務課長	57
辞令書類	57
電報（関東州転任関係）	60
書類	60
Sub-Series No.3: 台湾総督府覆審法院檢察官長・民政部法務部長	61
辞令書類	61
律令案審査関係	63
六三法関係	65
その他書類	66
Series No2: 個人	69
Sub-Series No.1: 書簡	69
Sub-Series No.2: 招待状類	73
Sub-Series No.3: 位記・勲記	81
Sub-Series No.4: 賞状類	82
Sub-Series No.5: 写真・名簿・書類	83
Series No3: 手島家	86
Sub-Series No.1: 手島家（近世）	86
Sub-Series No.2: 手島政資	87
Sub-Series No.3: 手島家（戦後）	88
Sub-Series No.4: 川北家	89

手島兵次郎文書目録 解題

(3.1.1) 資料記号：2010J

(3.1.2) 資料名称：手島兵次郎文書：The Paper's of TESHIMA, Hyojiro

(3.1.3) 年代：1793（寛政5）年－1999（平成11）年

(3.1.5) 物的状態：830点（1.75m）

(3.2.4) 来歴：手島兵次郎文書は、手島の死後、東京の遺族の元に保管されていたが、戦時中に広島県の縁戚（川北家：三女光子の婚家）の土蔵内に移された。戦後しばらくの間、そのままの状態であったが、平成になって手島一志氏（兵次郎嫡孫：大阪府箕面市在住）の手許に戻され、自宅で保管されていた。その後、2009年12月、当館加藤聖文に国際日本文化研究センター松田利彦准教授を経由して手島兵次郎文書の寄贈が伝えられ、2010年1月に手島氏より正式に国文学研究資料館へ寄贈となった。

(3.2.2) 履歴：手島兵次郎は明治元（1868）年9月7日に広島市で広島藩士族の家に生まれた。明治25（1892）年7月に帝国大学法科大学を卒業し、司法官試補となり、盛岡区裁判所詰検事代理を命ぜられる。明治26（1893）年7月には仙台区裁判所詰検事代理となる。明治28（1895）年9月に麴町裁判所の判事に転補し、同月には横浜区裁判所、明治29（1896）年5月には横浜地方裁判所の判事に転補した。明治31（1898）年2月には検事に任命され、名古屋地方裁判所検事と名古屋区裁判所検事に転補した（兼任）。同年6月には裁判所書記登用試験委員を命ぜられる。同年12月には水戸地方裁判所に検事として転任する。明治32（1899）年6月には東京控訴院検事に転補した。その後、明治34（1901）年6月に台湾総督府法院判官に任命、覆審法院判官に補せられ、台湾へ渡る。明治35（1902）年に台湾総督府事務官兼参事官となり、民政部総務局法務課長に任命される。明治42（1909）年11月に台湾総督府法院検察官に任命、覆審法院検察官長に補せられる。また、覆審法院検察官長在任中の明治44年（1911）10月には民政部法務部長に任命され、大正3（1914）年6月まで務める。さらに、大正4（1915）年8月には台湾総督府臨時法院検察官を兼補する。その後、病を得て、大正5年（1916）10月に依願免官。大正7（1918）年6月19日に死去。

(3.3.1) 構造と内容：手島兵次郎文書は、司法官僚であった手島兵次郎の台湾総督府時代の文書類が中心である。内容は（一）台湾総督府時代の律令・規則制定関係の書類および辞令書類、（二）手島宛の書簡および晩餐会などの招待状類、（三）父手島政資他の手島家関係から構成される。なお、文書群には三女の嫁ぎ先であ

る川北家の文書が若干混入している。

本目録では、3つの Series (No.1: 公的活動・No.2: 個人・No.3: 手島家) を設定し、その下に必要に応じて Sub-Series を設定した。まず、本文書群の中核を占める Series No.1「公的活動」については、3つの Sub-Series を設定した。これらは手島の官歴に対応するものであり、列記すると以下の通りとなる。司法省入省から台湾総督府転任までの文書から構成される「No.1: 司法省」、台湾総督府民政部総務局法務課長時代の文書から構成される「No.2: 台湾総督府民政部総務局法務課長」、台湾総督府覆審法院検察官長および民政部法務部長時代の文書から構成される「No.3: 台湾総督府覆審法院検察官長・民政部法務部長」である。

次に、Series No.2「個人」については、手島宛を中心とした書簡から構成される「No.1: 書簡」、招待状・挨拶状などから構成される「No.2: 招待状類」、位記・勲記などから構成される「No.3: 位記・勲記」、司法省・総督府以外での活動による賞状・感謝状などから構成される「No.4: 賞状類」、手島の個人的な写真・人名録・出生届などの家族関係書類などから構成される「No.5: 写真・名簿・書類」、以上5つの Sub-Series を設定した。

さらに、Series No.3「手島家」に関しては、広島藩士であった手島家の近世文書から構成される「No.1: 手島家 (近世)」、手島の父であった手島政資の個人文書から構成される「No.2: 手島政資」、戦後の手島家に関する文書から構成される「No.3: 手島家 (戦後)」、さらに混入したと思われる川北家文書である「No.4: 川北家」の4つの Sub-Series を設定した。以下、4つの Series および Sub-Series について解説を加える。

Series No.1「公的活動」は、手島兵次郎の生涯にわたる活動の大半を占め、本文書群の中核である。任命などに関わる辞令書・官記類の他、法律制定関係の書類が中心であり、3つの Sub-Series (「司法省」・「台湾総督府民政部総務局法務課長」・「台湾総督府覆審法院検察官長・民政部法務部長」) から構成される。

Sub-Series 「No.1: 司法省」は、任命に関わる辞令書のみであり、業務書類は存在しない。本目録では、個人の経歴を中心に編成しているが、司法省時代は点数が少ないことと辞令書のみであることから、裁判所勤務地ごとの Sub-Series は設定せず、一括した Sub-Series を設定した。

Sub-Series 「No.2: 台湾総督府民政部総務局法務課長」は、台湾総督府へ転任した手島が民政部総務局法務課長時代の業務文書などから構成される。また、この Sub-Series の下には、3つの Sub-Sub-Series (「辞令書類」・「電報 (関東州転任関係)」・「書類」) を設定した。これらは形態別となっているが、便宜的なものであって、Sub-Series 内部の構造を反映させたものではない。手島兵次郎文書は、受入時点において原秩序が失われていたことと、調査時点で多くが形態別に区分されていたため、これらの事情を考慮した結果、このような編成を行った。ただし、「電報 (関東州転任関係)」に関しては内容が一定のまとまりを持っていると判断し、1つの Sub-Sub-Series として設定した。

Sub-Series 「No.3: 台湾総督府覆審法院検察官長・民政部法務部長」は、台湾総督府覆審法院検察官長となった時代の文書から構成されるが、検察官長時代に民政部法務部長を一時期兼任していたことから法務部長時代の文書も含まれる。現存する文書では検察官長としての職務によるものか、法務部長としての職務によるものか明確に判別することは困難であるため、編成上でも一括して扱った (ただし、文書上明記されているものは手島官長宛である)。この Sub-Series の下には、4つの Sub-Sub-Series (「辞令書類」・「律令案審査関係」・「六三法関係」・「その他書類」) を設定した。これらも便宜的ではあるが、「律令案審査関係」・「六三法関係」に関し

ては、ある程度の内容の共通性がある。とくに「六三法関係」に関してはもともと一括されていたわけではないが、内容から判断して1つのSub-Sub-Seriesとした。なお、No.465/466/628の3点は六三法関係以外の案件も含まれているが、このSub-Sub-Seriesに含めてある。

Series No.2 「個人」は、手島兵次郎の個人的活動に関わる文書である。書簡・位記・家族関係の書類などが中心であり、5つのSub-Series（「書簡」・「招待状類」・「位記・勲記」・「賞状類」・「写真・名簿・書類」）から構成される。

Sub-Series 「No.1: 書簡」は、公的活動に関わるものも多く含まれているが、分量が多いことなどから一括したSub-Seriesを設定し、発信者を五十音順に配列した。

Sub-Series 「No.2: 招待状類」は、手島および夫人に宛てられた晩餐会などの招待状、転任の挨拶状などから構成される。調査時に招待状類は一括してまとめられていたため、内部に混在していた絵葉書・名刺・時刻表・乗車券など断片的資料も何らかの関連性があると判断し、他のSub-Seriesへ振り分けることはせず、そのままこのSub-Series内に配列した。

Sub-Series 「No.3: 位記・勲記」は、手島の位記および勲記類から構成される。官歴に関する辞令・官記は官歴に関係することからSeries No.1「公的活動」に含まれるが、位記類は個人に含めた。

Sub-Series 「No.4: 賞状類」は、手島の台湾総督府とは別に行っていた活動に関わるもので、公的な活動ともいえる部分もあるが、個人活動として一括した。

Sub-Series 「No.5: 写真・名簿・書類」は、写真と名簿の他、領収書、寄留・出生届、キン子夫人葬儀関係などの手島の私的な書類から構成される。なお、夫人キン子の所持品（日記・木札）もここに含めた。

Series No.3 「手島家」は、手島兵次郎以外の手島家に関わる文書である。近世から現代までの文書が中心であり、4つのSub-Series（「手島家（近世）」・「手島政資」・「手島家（戦後）」・「川北家」）から構成される。

Sub-Series 「No.1: 手島家（近世）」は、広島藩士であった手島家代々に関わるものである。褒状や仰付状が中心であり、手島七蔵（幸蔵父）・幸蔵・政寛・三郎右衛門の名前が確認できる。

Sub-Series 「No.2: 手島政資」は、手島兵次郎の父である政資（重次郎:手島幸蔵の養子）に関わる文書である。政資の広島藩士時代から陸軍省会計夫長時代、その後の葬儀関係の文書などから構成される。

Sub-Series 「No.3: 手島家（戦後）」は、手島兵次郎文書の寄贈者である手島一志氏が兵次郎の経歴などを調査する際にまとめた文書と墓地の改葬に関わる書類が中心である。クリアブックにまとめられた文書中、手島兵次郎・政資が作成した文書（履歴など）も含まれているが、目録ではそのままこのSub-Seriesに含めた。

Sub-Series 「No.4: 川北家」は、手島兵次郎文書が戦時中から戦後にかけて川北家に預けられていた中で混入したと思われる文書である。

(3.4.6) 検索手段：『史料目録 第95集』

(3.5.4) 関連資料の所在：当館所蔵「池田幸甚文書」は、池田幸甚が台湾総督府専売局長時代に記録された業

務日誌が中心であり、手島の台湾総督府時代とほぼ同じ時期にあたる。この他、水沢市立後藤新平記念館所蔵の後藤新平文書にも手島の台湾時代に関する文書が含まれている。また、台湾の国史館台湾文献館所蔵の台湾総督府文書は、総督府の基本政策を跡付けるものとして重要であり、手島文書を活用する際、併用することが望ましい。

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
Series No.1: 公的活動			
Sub-Series No.1: 司法省			
辞令書〔司法官試補を命ず・俸参百円下賜〕 司法大臣 →手島兵次郎	明治25年7月22日(1892)	1枚・墨書	97
辞令書〔検事代理を命ず〕 司法大臣→手島兵次郎	明治25年7月22日(1892)	1枚・墨書	98
辞令書〔盛岡区裁判所詰を命ず〕 司法大臣→手島兵次郎	明治25年7月22日(1892)	1枚・墨書	99
辞令書〔仙台区裁判所詰・検事代理を命ず〕 司法省→ 手島兵次郎	明治26年7月4日(1893)	2枚・墨書	96
官記〔陞叙高等官八等〕 内閣総理大臣→手島兵次郎	明治28年9月5日(1895)	1枚・墨書	92
辞令書〔任判事〕 内閣総理大臣→手島兵次郎	明治28年9月5日(1895)	1枚・墨書	93
辞令書〔補麴町区裁判所判事〕 司法省→手島兵次郎	明治28年9月5日(1895)	1枚・墨書	95
辞令書〔補横浜区裁判所判事〕 司法省→手島兵次郎	明治28年9月26日(1895)	1枚・墨書	94
辞令書〔補横浜地方裁判所判事〕 司法省→手島兵次郎	明治29年5月13日(1896)	1枚・墨書	87
官記〔陞叙高等官七等〕 内閣総理大臣→手島兵次郎	明治29年10月27日(1896)	1枚・墨書	89
辞令書〔十一級俸下賜〕 司法省→手島兵次郎	明治30年12月1日(1897)	1枚・墨書	88
官記〔高等官七等〕 内閣総理大臣→手島兵次郎	明治31年2月14日(1898)	1枚・墨書	53
辞令書〔十一級俸下賜〕 司法省→手島兵次郎	明治31年2月14日(1898)	1枚・墨書	84
辞令書〔任検事〕 内閣総理大臣→手島兵次郎	明治31年2月14日(1898)	1枚・墨書	86
辞令書〔補名古屋地方裁判所検事兼名古屋区裁判所 検事〕 司法省→手島兵次郎	明治31年2月14日(1898)	1枚・墨書	85
辞令書〔裁判所書記登用試験委員を命ず〕 司法省→手 島兵次郎	明治31年6月3日(1898)	1枚・墨書	544
辞令書〔十級俸下賜〕 司法省→手島兵次郎	明治31年8月8日(1898)	1枚・墨書	83
官記〔陞叙高等官六等〕 内閣総理大臣→手島兵次郎	明治31年10月19日(1898)	1枚・墨書	81
辞令書〔補水戸地方裁判所検事・九級俸下賜〕 司法省 →手島兵次郎	明治31年12月27日(1898)	2枚・墨書	80
辞令書〔裁判所書記登用試験委員を命ず〕 司法省→手 島兵次郎	明治32年2月23日(1899)	1枚・墨書	586
辞令書〔補東京控訴院検事・七級俸下賜〕 司法省→手 島兵次郎	明治32年6月3日(1899)	2枚・墨書	54

Sub-Series No.2: 台湾総督府民政部総務局法務課長

辞令書類			
官記・辞令書〔任台湾総督府法院判官・叙高等官五等〕 内閣総理大臣→手島兵次郎	明治34年6月5日(1901)	1枚・墨書	56

辞令書〔補覆審法院判官〕 台湾總督府→手島兵次郎	明治34年6月5日(1901)	1枚・墨書	55
辞令書〔七級俸下賜〕 台湾總督府→手島兵次郎	明治34年6月5日(1901)	1枚・墨書	58
辞令書〔明治34年6月5日付赴任延期願を認可〕 台湾總督→手島兵次郎	明治34年6月15日(1901)	1枚・墨書	57
辞令書〔事務格別勲励に付賞与〕 台湾總督府→手島兵次郎	明治34年12月25日(1901)	1枚・墨書	37
辞令書〔懲戒委員を命ず〕 台湾總督府→手島兵次郎	明治35年1月15日(1902)	1枚・墨書	584
辞令書〔警察官及司獄官練習所講師委嘱〕 台湾總督府→手島兵次郎	明治35年3月31日(1902)	1枚・墨書	538
辞令書〔高等土地調査委員を命ず〕 台湾總督府→手島兵次郎	明治35年7月15日(1902)	1枚・墨書	543
辞令書〔懲戒委員を命ず〕 台湾總督府→手島兵次郎	明治35年9月27日(1902)	1枚・墨書	587
官記・辞令書〔任台湾總督府事務官兼台湾總督府参事官・高等官五等〕 内閣總理大臣→手島兵次郎	明治35年9月29日(1902)	1枚・墨書	60
辞令書〔民政部總務局法務課長を命ず〕 台湾總督府→手島兵次郎	明治35年9月29日(1902)	1枚・墨書	61
辞令書〔五級俸下賜〕 台湾總督府→手島兵次郎	明治35年9月29日(1902)	1枚・墨書	62
辞令書〔台湾汽船職員懲戒委員会理事を命ず〕 台湾總督府→手島兵次郎	明治35年11月1日(1902)	1枚・墨書	528
辞令書〔慰勞金給与〕 台湾總督府警察官及司獄官練習所→手島兵次郎	明治35年12月22日(1902)	1枚・墨書	574
辞令書〔事務格別勲励に付賞与〕 台湾總督府→手島兵次郎	明治35年12月23日(1902)	1枚・墨書	44
辞令書〔文官普通試験臨時委員を命ず〕 台湾總督府→手島兵次郎	明治36年4月16日(1903)	1枚・墨書	545
辞令書〔台湾總督府評議會員を命ず〕 台湾總督府→手島兵次郎	明治36年7月30日(1903)	1枚・墨書	565
命令書〔広島大阪及東京へ出張を命ず〕 台湾總督府→手島兵次郎	明治36年9月28日(1903)	1枚・墨書	562
官記〔陞叙高等官四等〕 内閣總理大臣→手島兵次郎	明治36年9月30日(1903)	1枚・墨書	64
辞令書〔四級俸下賜〕 台湾總督府→手島兵次郎	明治36年9月30日(1903)	1枚・墨書	66
〔手島の陞叙に関する通達〕 秘書課長代理横沢次郎→総務局長代理中村是公	明治36年9月30日(1903)	1枚・墨書	63
辞令書〔事務格別勲励に付賞与〕 台湾總督府→手島兵次郎	明治36年12月22日(1903)	1枚・墨書	43
辞令書〔事務格別勲励に付賞与〕 台湾總督府→手島兵次郎	明治36年12月22日(1903)	1枚・墨書	38
辞令書〔文官普通試験臨時委員を命ず〕 台湾總督府→手島兵次郎	明治37年1月25日(1904)	1枚・墨書	542
辞令書〔大租權調査委員を命ず〕 台湾總督府→手島兵次郎	明治37年3月8日(1904)	1枚・墨書	570
辞令書〔上京を命ず〕 台湾總督府→手島兵次郎	明治37年11月30日(1904)	1枚・墨書	553
辞令書〔事務格別勲励に付賞与〕 台湾總督府→手島兵	明治37年12月22日(1904)	1枚・墨書	42

次郎			
辞令書〔三級俸下賜〕 台湾総督府→手島兵次郎	明治38年3月31日(1905)	1枚・墨書	67
辞令書〔永代借地審査委員長を命ず〕 台湾総督府→手島兵次郎	明治38年12月1日(1905)	1枚・墨書	561
辞令書〔事務格別勲励に付賞与〕 台湾総督府→手島兵次郎	明治38年12月22日(1905)	1枚・墨書	41
辞令書〔上京を命ず〕 台湾総督府→手島兵次郎	明治39年1月13日(1906)	1枚・墨書	569
辞令書〔司法制度取調事務委嘱〕 →手島兵次郎	明治39年2月20日(1906)	1枚・墨書	532
辞令書〔免台湾汽船職員懲戒委員会理事〕 台湾総督府→手島兵次郎	明治39年3月19日(1906)	1枚・墨書	559
辞令書〔台湾汽船職員懲戒委員を命ず〕 台湾総督府→手島兵次郎	明治39年3月19日(1906)	1枚・墨書	558
辞令書〔土地登記規則実施に際し賞与〕 台湾総督府→手島兵次郎	明治39年3月31日(1906)	1枚・墨書	31
辞令書〔司法制度取調事務解嘱〕 関東州民政署→手島兵次郎	明治39年8月8日(1906)	1枚・墨書	585
辞令書〔事務格別勲励に付賞与〕 関東州民政署→手島兵次郎	明治39年8月8日(1906)	1枚・墨書	28
封筒〔中身欠〕 関東州民政署→手島兵次郎	明治39年9月6日(1906)	1枚・墨書	568
官記〔陞叙高等官三等〕 内閣総理大臣→手島兵次郎	明治39年10月1日(1906)	1枚・墨書	70
辞令書〔二級俸下賜〕 台湾総督府→手島兵次郎	明治39年10月1日(1906)	1枚・墨書	68
辞令書〔事務格別勲励に付賞与〕 台湾総督府→手島兵次郎	明治39年12月22日(1906)	1枚・墨書	40
辞令書〔律令審議会員を命ず〕 台湾総督府→手島兵次郎	明治40年1月11日(1907)	1枚・墨書	560
辞令書〔上京を命ず〕 台湾総督府→手島兵次郎	明治40年4月12日(1907)	1枚・墨書	578
辞令書〔臨時台湾旧慣調査会委員被仰付〕 内閣→手島兵次郎	明治40年8月24日(1907)	1枚・墨書	571
辞令書〔台湾永代借地調査委員会幹事を命ず〕 台湾総督府→手島兵次郎	明治40年8月29日(1907)	1枚・墨書	549
辞令書〔台湾永代借地調査委員会幹事を命ず〕 台湾総督府→手島兵次郎	明治40年8月29日(1907)	1枚・墨書	550
辞令書〔永代借地審査委員を命ず〕 永代借地審査委員会→手島兵次郎	明治40年9月25日(1907)	1枚・墨書	552
辞令書〔事務格別勲励に付賞与〕 台湾総督府→手島兵次郎	明治40年12月23日(1907)	1枚・墨書	39
辞令書〔上京を命ず〕 台湾総督府→手島兵次郎	明治41年2月12日(1908)	1枚・墨書	554
辞令書〔免台湾汽船職員懲戒委員〕 台湾総督府→手島兵次郎	明治41年3月18日(1908)	1枚・墨書	551
辞令書〔上京を命ず〕 台湾総督府→手島兵次郎	明治41年5月9日(1908)	1枚・墨書	581
辞令書〔文官普通懲戒委員を命ず〕 台湾総督府→手島兵次郎	明治41年6月11日(1908)	1枚・墨書	529
辞令書〔台湾縦貫鉄道全通式委員を命ず〕 台湾総督府	明治41年7月21日(1908)	1枚・墨書	530

手島兵次郎文書目録 / 公的活動 / 台湾総督府民政部総務局法務課長

→手島兵次郎			
辞令書〔事務格別勲励に付賞与〕 台湾総督府→手島兵次郎	明治41年12月22日(1908)	1枚・墨書	45
辞令書〔上京を命ず〕 台湾総督府→手島兵次郎	明治42年2月5日(1909)	1枚・墨書	580
辞令書〔帰任の途次京都及広島へ出張を命ず〕 台湾総督府→手島兵次郎	明治42年4月8日(1909)	1枚・墨書	579
辞令書〔法案起草委員を命ず〕 台湾総督府→手島兵次郎	明治42年8月20日(1909)	1枚・墨書	531
辞令書〔民政部内務局法務課長を命ず〕 台湾総督府→手島兵次郎	明治42年10月25日(1909)	1枚・墨書	72

電報（関東州転任関係）

電報〔裁判所組織について〕 石塚英蔵→手島兵次郎	明治39年2月10日(1906)	3枚・ペン	438
電報〔手島の意向について〕 石塚英蔵→手島兵次郎	明治39年2月13日(1906)	1枚・ペン	439
電報〔俸給待遇について〕 石塚英蔵→手島兵次郎	明治39年2月14日(1906)	2枚・ペン	440
電報〔手島転任を後藤長官へ発信〕 石塚英蔵→手島兵次郎	明治39年2月17日(1906)	2枚・ペン	444
電報〔手島転任は差し障りありと後藤長官より返電〕 シマムラジムカン→手島兵次郎	明治39年2月18日(1906)	3枚・ペン	441
電報〔裁判所制度に関する事務囑託について〕 石塚英蔵→手島兵次郎	明治39年2月19日(1906)	2枚・ペン	442
電報〔手島の転任時期について〕 石塚英蔵→手島兵次郎	明治39年3月22日(1906)	2枚・ペン	437
電報〔委細の事情は書面にて願う〕 石塚英蔵→手島兵次郎	明治39年4月27日(1906)	1枚・ペン	448
電報〔手島の関東州転任について〕 石塚英蔵→手島兵次郎	明治39年5月17日(1906)	3枚・ペン	449
電報〔手島の待遇について〕 石塚英蔵→手島兵次郎	明治39年5月22日(1906)	6枚・ペン	443
電報〔囑託事務について〕 石塚英蔵→手島兵次郎	明治39年5月17日(1906)	1枚・ペン	447
電報〔手島の関東州転任について〕 石塚英蔵→手島兵次郎	明治39年6月8日(1906)	3枚・ペン	445
電報〔手島転任について後藤長官と食い違い〕 石塚英蔵→手島兵次郎	明治39年6月10日(1906)	4枚・ペン	446
電報〔手島官等昇級について〕 セキヤジムカン→手島兵次郎	明治39年6月11日(1906)	2枚・ペン	436

書類

本島之賭博種類調査奉覆 →矢野判官	明治35年3月10日(1902)	1綴・墨書	452
〔法典調査会関係書類〕		2種	450
三十九年春法務拡張・法典調査ノ二件ニ関スル上申写		8種	450-1
〔規則案、予算見込案採用の件〕 手島兵次郎→後藤新		1枚・墨書	450-1-1

平			
書簡写〔台湾法典調査会設立ニ関スル組織及予算案の39年度予算へ編入を要求〕 手島兵次郎→後藤新平	4月20日	1枚・墨書・ペン	450-1-2
〔上記書簡写の下書〕 手島兵次郎→後藤新平		1枚・墨書・ペン	450-1-3
台湾法典調査会予算〔法典調査費27751円の内訳〕		1枚・墨書	450-1-4
〔法典調査会組織図〕		1枚・墨書	450-1-5
台湾法典調査会規則		1綴・墨書	450-1-6
法務局設置ノ理由		1綴・墨書	450-1-7
〔台湾法典調査会予算に関する書簡綴〕 後藤新平→手島兵次郎	明治38年4月30日(1905)	1綴・墨書・ペン	450-1-8
法典調査会書類		4種	450-2
電報〔岡松参太郎上京の企図に対する後藤の手島に対する不満〕 後藤新平→手島兵次郎	明治38年5月2日(1905)	1綴・ペン	450-2-1
法典調査会規則		1綴・墨書	450-2-2
法典調査会規則〔明治27年3月勅令第30号〕		1綴・墨書	450-2-3
法務局・法典調査会設置案〔法務局設置ノ理由・刑事事務将来ノ見込・台湾法典調査会設置ノ理由・台湾法典調査会規則・台湾法典調査会予算〕		1綴・墨書	450-2-4
裁判制度ニ関スル往復文書〔審理条例修正等に関するもの〕 手島兵次郎他	明治39年3月13日-5月4日(1906)	1綴・墨書	431
〔北埔事件他に関する書類〕 石井法務部長→手島兵次郎		1綴・墨書	467
電信符号	明治33年1月1日-34年10月10日(1900-1901)	2枚・墨書	635
〒電報符号	明治34年9月28日-42年2月(1901-1909)	2枚・墨書	634
台湾日日新報三千百四十六号付録〔台湾写真集〕 台湾日日新報社	明治41年10月24日(1908)	1枚・活版	608
包紙〔草花の図〕		1枚	451
薄紙		1枚	10

Sub-Series No.3: 台湾総督府覆審法院檢察官長・民政部法務部長

辞令書類

官記・辞令書〔兼任台湾総督府事務官・叙高等官三等〕 内閣総理大臣→手島兵次郎	明治42年11月5日(1909)	1枚・墨書	101
官記・辞令書〔任台湾総督府法院檢察官・叙高等官二等〕 内閣総理大臣→手島兵次郎	明治42年11月5日(1909)	1枚・墨書	100
辞令書〔補覆審法院檢察官長〕 台湾総督府→手島兵次郎	明治42年11月5日(1909)	1枚・墨書	71
辞令書〔下級俸下賜〕 内務省→手島兵次郎	明治42年11月5日(1909)	1枚・墨書	74
辞令書〔事務格別勉勵に付賞与〕 台湾総督府→手島兵	明治42年12月21日(1909)	1枚・墨書	46

次郎			
辞令書〔事務格別勲励に付賞与〕 次郎	台湾総督府→手島兵	明治42年12月21日(1909)	1枚・墨書 29
辞令書〔工場胎権審査委員会委員を命ず〕 →手島兵次郎	台湾総督府	明治43年10月21日(1910)	1枚・墨書 575
辞令書〔高等林野調査委員被仰付〕	内閣→手島兵次郎	明治43年11月11日(1910)	1枚・墨書 572
辞令書〔事務格別勲励に付賞与〕 次郎	台湾総督府→手島兵	明治43年12月21日(1910)	1枚・墨書 30
辞令書〔事務格別勲励に付賞与〕 次郎	台湾総督府→手島兵	明治43年12月21日(1910)	1枚・墨書 49
命令書〔東京大阪及広島へ出張を命ず〕 手島兵次郎	台湾総督府→	明治44年4月5日(1911)	1枚・墨書 564
辞令書〔官設埤圳補償審査委員会委員を命ず〕 台湾総督府→手島兵次郎	台湾	明治44年4月26日(1911)	1枚・墨書 540
辞令書〔除服出仕〕	台湾総督府→手島兵次郎	明治44年8月22日(1911)	1枚・墨書 576
辞令書〔民政部法務部長を命ず〕 次郎	台湾総督府→手島兵	明治44年10月16日(1911)	1枚・墨書 75
辞令書〔事務格別勲励に付賞与〕 次郎	台湾総督府→手島兵	明治44年12月20日(1911)	1枚・墨書 33
辞令書〔事務格別勲励に付賞与〕 次郎	台湾総督府→手島兵	明治44年12月23日(1911)	1枚・墨書 50
〔休暇許可書〕	台湾総督佐久間左馬太→手島兵次郎	明治45年2月2日(1912)	1枚・墨書 582
辞令書〔上京の序を以て京都及広島へ出張を命ず〕 台湾総督府→手島兵次郎	台湾	明治45年5月15日(1912)	1枚・墨書 533
〔賜暇及賜暇中旅行許可証(5種)・銀杯受領許可証〕 佐久間左馬太→手島兵次郎		大正1年9月6日・2年9月 22日(1912・13)	6枚・墨書 16
辞令書〔欧米各国へ出張被仰付〕	内閣→手島兵次郎	大正1年10月9日(1912)	1枚・墨書 604
辞令書〔東京及朝鮮へ出張を命ず〕 兵次郎	台湾総督府→手島	大正1年10月11日(1912)	1枚・墨書 534
辞令書〔欧米各国へ出張に付き支度料給付〕 府→手島兵次郎	台湾総督	大正1年10月12日(1912)	1枚・墨書 607
辞令書〔事務格別勲励に付賞与〕 次郎	台湾総督府→手島兵	大正1年12月21日(1912)	1枚・墨書 51
辞令書〔事務格別勲励に付賞与〕 次郎	台湾総督府→手島兵	大正1年12月21日(1912)	1枚・墨書 34
辞令書〔被免高等林野調査委員〕	内閣→手島兵次郎	大正2年3月4日(1913)	1枚・墨書 536
〔台湾風水害の際の10円寄付に付き木杯下賜〕 台湾総督佐久間左馬太→手島兵次郎	台湾	大正2年3月28日(1913)	1枚・墨書 541
辞令書〔欧米より帰府の途次上京を命ず〕 →手島兵次郎	台湾総督府	大正2年3月29日(1913)	1枚・墨書 606
〔転地療養許可〕	台湾総督佐久間左馬太→手島兵次郎	大正2年12月19日(1913)	1枚・墨書 601
辞令書〔事務格別勲励に付賞与〕 次郎	台湾総督府→手島兵	大正2年12月21日(1913)	1枚・墨書 52

辞令書〔免民政部法務部長〕 台湾総督府→手島兵次郎	大正3年6月23日(1914)	1枚・墨書	76
感謝状〔罹災窮民救恤として9円25銭寄付〕 台湾総督 佐久間左馬太→手島兵次郎	大正3年8月10日(1914)	1枚・墨書	548
辞令書〔事務格別勲励に付賞与〕 台湾総督府→手島兵 次郎	大正3年12月21日(1914)	1枚・墨書	47
辞令書〔林野調査に関し賞与〕 台湾総督府→手島兵次郎	大正4年3月31日(1915)	1枚・墨書	36
辞令書〔除服出仕〕 台湾総督府→手島兵次郎	大正4年8月7日(1915)	1枚・墨書	577
辞令書〔兼補台湾総督府臨時法院檢察官〕 台湾総督府 →手島兵次郎	大正4年8月20日(1915)	1枚・墨書	78
辞令書〔京都へ出張を命ず〕 台湾総督府→手島兵次郎	大正4年10月31日(1915)	1枚・墨書	537
辞令書〔京都へ出張の序を以て広島及東京へ出張を 命ず〕 台湾総督府→手島兵次郎	大正4年11月3日(1915)	1枚・墨書	546
辞令書〔陰謀事件に関し賞与〕 台湾総督府→手島兵次郎	大正4年12月21日(1915)	1枚・墨書	35
辞令書〔事務格別勲励に付賞与〕 台湾総督府→手島兵 次郎	大正4年12月21日(1915)	1枚・墨書	48
辞令書〔二級俸下賜〕 台湾総督府→手島兵次郎	大正5年3月31日(1916)	1枚・墨書	79
官記〔陞叙高等官一等〕 内閣総理大臣大隈重信→手島兵 次郎	大正5年10月7日(1916)	1枚・墨書	600
辞令書〔依願本免官〕 内閣総理大臣大隈重信→手島兵次 郎	大正5年10月7日(1916)	1枚・墨書	598
辞令書〔依願免兼官〕 内閣総理大臣大隈重信→手島兵次 郎	大正5年10月7日(1916)	1枚・墨書	603
辞令書〔事務格別勲励に付賞与〕 台湾総督府→手島兵 次郎	大正5年10月7日(1916)	1枚・墨書	32
辞令書〔事務格別勲励に付賞与〕 台湾総督府→手島兵 次郎	大正5年10月7日(1916)	1枚・墨書	605
辞令書及木杯送付ノ件〔受領証捺印提出〕 覆審法院檢 察官長菅野善三郎→手島兵次郎	大正6年3月1日(1917)	1綴・墨書	557

律令案審査関係

〔台湾船舶及商業登記税規則・台湾不動産登記税規 則・台湾地租規則等律令案関係書類〕		5種	455
律令案〔台湾船舶及商業登記税規則〕		1綴・謄写版	455-1
律令案〔建物に関する権利についての律令案〕		1綴・謄写版	455-2
律令案〔台湾不動産登記税規則〕		1綴・謄写版	455-3
律令案〔明治三十三年律令第二号改正案〕		1綴・謄写版	455-4
律令案〔台湾地租規則改正案〕	大正	1綴・謄写版	455-5
〔建物に関する権利についての律令案関係書類〕		5種	454
律令案〔建物に関する権利についての律令第一原 案・修正案・律令案(修正)〕		2枚・1綴・墨書・ 謄写版	454-1

律令案〔建物に関する権利についての律令第一案・第二案・第三案・第四案・第五案〕		1綴・謄写版	454-2
律令案(第一原案)		1綴・謄写版	454-3
〔台湾不動産登記令施行規則案送付の件〕 石井法務部長→手島兵次郎	大正3年11月19日(1914)	1綴・ペン・謄写版	454-4
律令案〔建物に関する権利についての律令案〕		1綴・謄写版	617
〔台湾不動産登記令施行規則律令案の件〕 石井法務部長→手島兵次郎	大正3年12月11日(1914)	1綴・謄写版	619
〔審議会開会及び律令案送付通知、台湾医師令・台湾歯科医師令・台湾不動産登記規則廃止に関する律令案同封〕	大正3年12月21日(1914)	1枚・3綴・謄写版	458
〔台湾医師令案・台湾歯科医師令案・台湾不動産登記規則律令案関係書類〕		5種	456
台湾医師令修正案		1枚・謄写版	456-1
律令案〔台湾歯科医師令〕		1綴・謄写版	456-2
律令案〔台湾不動産登記税規則廃止〕		1綴・謄写版	456-3
律令案〔台湾医師令〕		1綴・謄写版	456-4
議事日程第一号〔台湾医師令案・台湾歯科医師令案・台湾不動産登記規則の第一読会開催〕	大正4年2月10日(1915)	1枚・謄写版	456-5
〔台湾不動産登記令施行令・台湾鉱業胎権規則・台湾彩票ニ関スル律令案・銀貨輸入移入禁止ニ関スル勅令案関係書類〕		5種	457
議事日程第三号〔銀貨ノ輸入及移入禁止ニ関スル律令修正案・台湾彩票ニ関スル件廃止案・台湾不動産登記令施行令案の第一読会開催〕	大正4年5月6日(1915)	1枚・謄写版	457-1
律令案〔台湾不動産登記令施行令〕		1綴・謄写版	457-2
律令案〔台湾鉱業胎権規則〕		1綴・謄写版	457-3
律令案〔台湾彩票ニ関スル律令案〕		1綴・謄写版	457-4
律令案〔銀貨輸入移入禁止ニ関スル勅令案〕		1綴・謄写版	457-5
〔台湾汚物掃除規則中改正・台湾噸税規則中改正・取引所規則関係書類〕		6種	464
取引所ニ関スル法令 農商務省工務局	大正3年8月7日(1914)	2冊・活版	464-1
議事日程第四号〔台湾汚物掃除規則中改正案・台湾噸税規則中改正案・取引所規則案の第一読会開催〕	大正4年7月10日(1915)	1枚・謄写版	464-2
律令案〔台湾噸税規則改正〕		1綴・謄写版	464-3
律令案〔台湾汚物掃除規則改正〕	大正4年(1915)	2綴・謄写版	464-4
取引所規則案送付ノ件 殖産局長→手島兵次郎	大正4年7月8日(1915)	1枚・謄写版	464-5
取引所規則		2綴・謄写版	464-6
〔台湾取引所規則・台湾噸税規則改正関係書類〕		1枚・墨書	459

台湾取引所規則		1綴・謄写版	459-1
書簡〔台湾取引所規則案送付〕 幹事→手島兵次郎		1枚・謄写版	459-2
議事日程第五号〔台湾噸税規則中改正修正案の第一読会・台湾取引所規則案の第三読会開催〕	大正4年7月17日(1915)	1枚・謄写版	459-3
律令案〔台湾噸税規則改正〕		1綴・謄写版	459-4
台湾取引所規則案中正誤		1枚・謄写版	459-5
封筒〔中身欠〕 律令審議會→手島審議會員		1枚	460
〔無尽業法・台湾地方税規則改正関係書類〕		5種	461
書簡〔律令審議會開催通知〕 律令審議會幹事→手島兵次郎	9月14日	1枚・謄写版	461-1
律令案〔無尽業ニ関スル律令案〕		1綴・謄写版	461-2
議事日程第六号〔台湾地方税規則中改正案・無尽業ニ関スル件の第一読会開催〕	大正4年9月15日(1915)	1枚・謄写版	461-3
無尽業法		1綴・謄写版	461-4
律令案〔台湾地方税規則改正〕		1綴・謄写版	461-5
議事日程第二号〔銀貨移入及輸入禁止に関する律令案・台湾酒類出港規則の第一読会を府内会議室において開催〕	大正4年3月11日(1915)	1枚・謄写版	434
律令案〔一円銀貨幣及び外国銀貨幣・補助貨幣の移入・輸入禁止〕		2枚・謄写版	432
律令案〔台湾酒類出港税規則草案〕		4枚・謄写版	433
〔台湾訴願令案に関する内務省拓殖課との協議の件〕 参事官片山秀太郎→民政長官内田嘉吉	大正4年3月29日(1915)	2部・謄写版	614
〔共通法案に関する協議会開会通知〕 民政長官代理高田元治郎→手島兵次郎	大正3年12月16日(1914)	1綴・1枚・謄写版	621
共通法案		1綴・謄写版	622
共通法案(委員会)		1綴・謄写版	623
律令自上奏至公布期間別件数〔明治39年-大正4年〕	大正〔4年〕(1915)	1綴・謄写版	616
律令自上奏至公布期間表 其の一(自明治二十九年 至明治三十八年)		1綴・謄写版	618
六三法関係			
〔別冊法律案及官制案に関する件〕		1綴・謄写版	624
〔明治29年法律第63号に関する件 No.624の最終 頁カ〕 兒玉源太郎→内海忠勝		1枚・謄写版	625
〔六三法廃止に関わる大日本帝国憲法改正案・台湾統治法案〕		1綴・謄写版	626
将来律令ヲ要スル事項		1枚・謄写版	629

明治三十九年法律案第三十一号中改正法律案		2枚・ペン・謄写版	630
台湾ニ施行スヘキ法令ニ関スル法律案〔衆議院・貴族院議事速記録〕		1綴・謄写版	620
〔裁判所構成法及弁護士法ヲ本島ニ施行スル法律案外2案に関する会議開催通知・反対意見書案 No.627に一部同文あり〕 民政長官代理高田元治郎→手島兵次郎	大正4年1月8日(1915)	2綴・謄写版	466
〔裁判所構成法及弁護士法を台湾に施行する法律案・明治39年法律第31条中改正法律案・行政裁判所及訴願に関する法律を台湾に施行する法律案に関する件回報及び回答〕 内田嘉吉・高田元治郎	大正3年12月22日-4年1月15日(1914-1915)	1綴・謄写版	627
〔拓発第32号 台湾総督府法院の判決効力に関する件写 No.627に同文あり〕 桂太郎→岡部長職	明治44年5月5日(1911)	1綴・謄写版	628
律令権ニ関スル書類〔六三法・三一法等に関する資料・意見書等〕 手島委員	明治39年-44年(1906-1911)	1綴・謄写版	637
〔建議関係文書〕		3種	465
六三案〔手島事務官稿「台湾ニ施行スヘキ法令ニ関スル法律中改正」〕 手島兵次郎		1綴・墨書	465-1
法院月報臨時拡張計画		1枚・墨書	465-2
法制刷進策議 手島事務官稿 手島兵次郎		1綴・墨書	465-3

その他書類

大正三年司獄官会議書類		8種	463
受刑者分類拘禁並階級処遇手続案		1枚・謄写版	463-1
注意事項〔司獄官に対するもの〕	大正3年11月(1914)	1綴・謄写版	463-2
在監者食糧分析表		1綴・謄写版	463-3
釈放者改悛状態比較表		1枚・謄写版	463-4
作業収支比較	明治42年度-大正2年度(1909-1913)	1綴・謄写版	463-5
〔司獄官会議書類〕 法務部長石井為吉→手島兵次郎	大正3年11月13日(1914)	1綴・ペン・謄写版	463-6
財団法人台湾出獄者保護協会寄付行為		1綴・謄写版	463-7
出獄者保護協会規則		1綴・謄写版	463-8
〔調査会拡張規則・四十二年予算・四十三年予算関係書類〕		9種	468
決議事項(四十二年四月)〔旧慣調査会廃止、法案調査会設置に関する書類〕	明治42年4月(1909)	1点・謄写版	468-1
組織図草案〔民事会〕		1枚・ペン	468-2
旧慣調査会事務章程		1点・墨書	468-3
臨時台湾旧慣調査会規則		1点・墨書	468-4

刑法施行ニ関スル疑問		1点・墨書	468-5
〔旧慣調査会予算案等書類〕		1点・ペン・墨書	468-6
〔予算に関するメモ〕		2枚・ペン	468-7
〔台湾法典調査会設置に関する書類〕		1綴・墨書	468-8
律令廃止ニ伴フ台湾立法ノ困難 手島兵次郎→熊谷台湾課長	明治37年9月25日(1904)	1綴・墨書	468-9
台報月報関係書類		11種	462
理由〔律令にて登録税制定〕		1綴・謄写版	462-1
論題〔「母国と植民地 手島法学士」等『台法月報』の目次下書〕		1綴・墨書	462-2
台湾船舶及商業登記税規則・台湾不動産登記税規則・建物ニ関スル制		1綴・謄写版	462-3
〔別紙法律案に付き会議開催通知〕 参事官井村大吉→手島兵次郎	大正3年11月30日(1914)	1枚・ペン	462-4
法律案〔登録税ニ関スル法律案〕		1枚・謄写版	462-5
慣習門論台・寄書門論題		1綴・墨書	462-6
法院月報維持員〔名簿〕	明治43年7月26日(1910)	1綴・墨書	462-7
〔『法院月報』特別号(植民地統治論文集)編修について〕		2枚・墨書	462-8
〔倒号令仮案〕 起草委員		2枚・謄写版	462-9
論題〔台湾関係〕		1綴・墨書	462-10
論題〔台湾の法制と経済〕		1綴・墨書	462-11
〔帰朝祝賀来伺来訪見舞人名・退院通知ヶ所・外国及び朝鮮礼状發送先・司法官昇級陞等祝詞發送先一覽〕		6種	469
外遊送別会人名・祝電等・送別来人名・礼状案 手島兵次郎		1枚・墨書	469-1
〔礼状案、送別会人名等〕	大正1年11月11日(1912)	1綴・墨書	469-2
司法官昇等・栄転祝詞發送先	4月27日	1枚・墨書	469-3
帰朝ニ付礼状發送先	4月27日	1枚・墨書	469-4
退院通知箇所	5月30日	1綴・墨書	469-5
帰朝祝賀来詞人名録 附来訪人名録・見舞人名録 手島兵次郎	大正2年4月7日(1913)	1綴・墨書	469-6
独逸保護領地法		1綴・謄写版	615
〔台湾慣習法解釈統一についての意見メモ〕 手島兵次郎		1枚・ペン	645
記〔京都出張旅費に関するメモ〕		1枚・ペン	563
台湾制度大要附録 台湾施行法令一覽	明治43年5月	1枚・印刷	633

衆議院公報付録「第二十六回帝国議會衆議院議員及政府委員一覽表」・貴族院彙報第八号付録「貴族院議員宿所一覽表」	明治42年2月1日-43年2月22日(1909-1910)	2枚・活版	9
--	-------------------------------	-------	---

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
書簡〔当庁欠員無し〕 秋山源藏→手島兵次郎	明治28年8月15日(1895)	1枚・墨書	117
書簡〔区裁判所転補〕 秋山源藏→手島兵次郎	明治26年5月23日(1893)	1枚・墨書	118
書簡〔新聞拝見、高橋氏病氣。9月7日付書簡(旅行の件)同封〕 秋山程之介→手島兵次郎	明治32年3月3日(1899)	3枚・墨書	161
書簡〔協会の件で広島に佐藤氏訪問、委員選定の件〕 秋山程之介→手島兵次郎	明治34年4月11日(1901)	4枚・墨書	160
書簡〔結婚報告〕 〔浅田萬〕→手島兵次郎	明治28年11月24日(1895)	1枚・墨書	142
書簡〔借金願ひ〕 新木実二郎→手島兵次郎	8月11日	1枚・墨書	25
書簡〔手島検察官辞表提出の件〕 安東貞美→真鍋斌	大正5年9月12日(1916)	1枚・墨書	8
書簡〔手島転任遅延、職員採用のため人選願う、民事刑事審理条例の件。別紙欠。12月25日付後藤新平宛鈴木宗言書簡(公証規則登記法等施行・台湾地方法院増減員など)同封〕 石塚英藏→手島兵次郎	明治39年3月26日(1906)	1枚・墨書	1
書簡〔お尋ねの件承知せず〕 井上角五郎→手島兵次郎	明治27年6月20日(1894)	1枚・墨書	119
書簡〔台湾より帰国に付き相談願う〕 法曹会会員岩本寅治→手島兵次郎	明治〔26年〕(1893)	1枚・墨書	102
書簡〔手島を高級裁判所長に昇任の件〕 浦太郎→手島兵次郎	明治39年2月10日(1906)	1通・墨書	435
書簡〔津村董妻妹と見合いの勧め〕 遠藤可一→手島兵次郎	明治27年5月7日(1894)	1枚・墨書	146
書簡〔在米永尾氏身上の件〕 遠藤可一→手島兵次郎	明治27年11月6日(1894)	1枚・墨書	135
書簡〔貸費督促書の件、司法省への不満〕 岡村司→手島兵次郎	明治25年10月3日(1892)	1枚・墨書	153
書簡〔司法部人事妄濫に付き相談願う〕 岡村司→手島兵次郎	明治〔26年〕3月5日(1893)	1枚・墨書	103
書簡〔26年度年賦返納に付き大学へ抗議〕 岡村司→手島兵次郎	明治26年7月22日(1893)	1枚・墨書	104
書簡〔手島の横浜転任願の件〕 岡村司→手島兵次郎	明治26年(1893)	1枚・墨書	154
書簡〔山内正信氏墓碑落成報告〕 岡村司→手島兵次郎	明治27年12月(1894)	1枚・印刷	152
書簡〔台湾総統府法院検察局志望者に安保忠毅推薦の件〕 名古屋地方裁判所検事正菅野善三郎→手島兵次郎	大正5年3月17日(1916)	1枚・墨書	5
書簡〔台湾統治に関する多年の精勤により総督より金1000円贈呈〕 台湾総督秘書官木村通→手島兵次郎	10月10日	1通・墨書	602
書簡〔面会依頼〕 呉文聡→手島兵次郎	明治26年5月1日(1893)	1枚・墨書	143
書簡〔御転任挨拶〕 呉文聡→手島兵次郎	明治26年5月10日(1893)	1枚・墨書	141

手島兵次郎文書目録 / 個人 / 書簡

書簡〔手島横浜転任の件〕 呉文聡→手島兵次郎	明治27年1月13日(1894)	1枚・墨書	183
書簡〔興芸東社受領証の件。受領証同封〕 呉文聡→手島兵次郎	明治28年3月30日(1895)	2枚・墨書	185
書簡〔興芸東社受領証の件。受領証同封〕 呉文聡→手島兵次郎	明治28年7月26日(1895)	2枚・墨書	184
書簡〔父親の借金返済の件〕 佐伯相三郎→手島兵次郎	明治25年10月9日(1892)	1枚・墨書	120
書簡〔宍戸令閨渡台、東京の秋子漸次全快〕 佐藤正→手島兵次郎	明治44年10月25日(1911)	1枚・墨書	20
書簡〔机の譲渡、広陵人会雑誌の返付、令閨を迎えること〕 佐藤正→手島兵次郎	明治45年1月21日(1912)	1枚・墨書	18
書簡〔広島帰郷を願う〕 佐藤正→手島兵次郎	大正6年9月25日(1917)	1枚・墨書	21
書簡〔見合い中止〕 佐藤正→手島兵次郎	大正6年10月8日(1917)	1枚・墨書	19
書簡〔見舞状〕 佐藤正→手島兵次郎	10月21日	1枚・墨書	22
書簡〔礼状〕 佐藤興蔵→手島兵次郎	8月21日	1枚・墨書	130
書簡〔山田先生報恩資金の件。山田先生待遇に関する手島返信下書同封〕 佐村和蔵→手島兵次郎	明治26年11月22日(1893)	2枚・墨書	129
書簡〔三一問題に関する植民地法制攻究のための人材採用の件〕 下村宏→手島兵次郎	大正5年1月31日(1916)	1枚・墨書	6
書簡〔近況報告〕 城数馬→手島兵次郎	明治18年8月17日(1885)	3枚・墨書	188
書簡〔赤十字社に従事および清国出発の件。田中による明治33年9月付留別漢詩同封〕 鈴木精忠→手島兵次郎	明治7月8日	2枚・墨書	116
書簡〔渡台再考の件。手島返信書簡写同封〕 鈴木宗言→手島兵次郎	明治33年6月30日(1900)	2枚・墨書	113
書簡〔後藤長官への面会申込の件〕 鈴木宗言→手島兵次郎	明治33年7月13日(1900)	1枚・墨書	112
書簡〔公証及登記規則施行につき判官2名増員提案〕 鈴木宗言→石塚英蔵・手島兵次郎	明治〔36年〕12月25日(1903)	1枚・墨書	12
書簡〔伊藤博望の復権願上げの件〕 鈴木宗言→手島兵次郎	大正4年10月24日(1915)	1枚・墨書	2
書簡〔任所希望に付き其筋へ申立〕 関清英→手島兵次郎	明治28年9月5日(1895)	1枚・墨書	108
書簡〔秋山氏の件。9月20日付関宛秋山源蔵書簡(裁判所人事異動の件)同封〕 関清英→手島兵次郎	明治28年9月24日(1895)	1枚・墨書	156
書簡〔着京報告〕 関清英→手島兵次郎	明治29年3月3日(1896)	1枚・墨書	109
書簡〔機会を得れば推薦〕 関清英→手島兵次郎	明治31年1月16日(1898)	1枚・墨書	106
書簡〔程ヶ谷駅にて待ち合わせ〕 関清英→手島兵次郎	明治31年1月26日(1898)	1枚・墨書	107
書簡〔司法官転官と増俸の提案〕 関清英→手島兵次郎	明治31年2月8日(1898)	1枚・墨書	105
書簡〔盛岡区裁判所赴任祝〕 高橋琢也→手島兵次郎	明治25年9月10日(1892)	1枚・墨書	187
書簡〔御教示依頼〕 高橋好之→手島兵次郎	明治26年8月4日(1893)	1枚・墨書	127

書簡〔縁談の件〕 津村董→手島兵次郎	明治26年5月23日(1893)	1枚・墨書	164
書簡〔見合いの勧め〕 津村董→手島兵次郎	明治26年6月1日(1893)	1枚・墨書	167
書簡〔縁談の件〕 津村董→手島兵次郎	明治26年6月30日(1893)	2枚・墨書	168
書簡〔津村の旅行、縁談の件。6月16日付発信宛先不明書簡(縁談の件)・年月日不明発信宛先不明書簡(縁談の件)同封〕 津村董→手島兵次郎	明治26年7月20日(1893)	3枚・墨書	179
書簡〔縁談の件〕 津村董→手島兵次郎	明治26年9月11日(1893)	1枚・墨書	171
書簡〔縁談の件〕 津村董→手島兵次郎	明治26年9月19日(1893)	1枚・墨書	173
書簡〔手島の仙台地方裁判所転勤の件〕 津村董→手島兵次郎	明治26年10月9日(1893)	1枚・墨書	172
書簡〔書簡未着、猪瀬方より催促〕 津村董→手島兵次郎	明治26年10月20日(1893)	1枚・墨書	170
書簡〔縁談の件〕 津村董→手島兵次郎	明治26年10月24日(1893)	1枚・墨書	169
書簡〔縁談の件〕 津村董→手島兵次郎	明治26年12月21日(1893)	1枚・墨書	165
書簡〔手島転勤、縁談の件〕 津村董→手島兵次郎	明治27年1月1日(1894)	1枚・墨書	175
書簡〔津村大審院転勤、縁談見合わせ〕 津村董→手島兵次郎	明治〔27年〕1月14日(1894)	1枚・墨書	176
書簡〔年初挨拶〕 津村董→手島兵次郎	明治28年1月1日(1895)	1枚・墨書	162
書簡〔陸軍より理事志望者採用の件〕 津村董→手島兵次郎	明治28年2月19日(1895)	1枚・墨書	178
書簡〔津村横浜転勤〕 津村董→手島兵次郎	明治28年3月8日(1895)	1枚・墨書	177
書簡〔広島に下るは御辛抱〕 津村董→手島兵次郎	明治28年7月27日(1895)	1枚・墨書	166
書簡〔手島転勤の件、横浜欠員無し〕 津村董→手島兵次郎	明治28年8月23日(1895)	1枚・墨書	174
書簡〔台湾での奮発および司法官増俸運動の件〕 寺島小五郎→手島兵次郎	明治〔34年〕4月16日(1901)	1枚・墨書	111
書簡〔佐伯方へ借金〕 手島政資→手島兵次郎	明治25年11月2日(1892)	1枚・墨書	121
書簡〔龍に関する成句の書上げ〕 中井置平→手島兵次郎		1枚・墨書	17
書簡〔御足労願う〕 永尾司馬人→手島兵次郎	明治17年12月30日(1884)	1枚・墨書	139
書簡〔算術の件依頼〕 永尾司馬人→手島兵次郎	明治18年1月18日(1885)	1枚・墨書	140
書簡〔9月14日付津村書簡(仏蘭西学教示願ひ)送付〕 永尾司馬人→手島兵次郎	明治18年9月16日(1885)	2枚・墨書	149
書簡〔書物紛失〕 永尾司馬人→手島兵次郎	明治29年9月2日(1896)	1枚・墨書	136
書簡〔桑港・横浜間船賃、妻縁候補、津村より借金。8月7日付手島宛永尾書簡・10月24日付手島宛永尾書簡同封〕 永尾司馬人→手島兵次郎	明治30年10月24日(1897)	3枚・墨書	114
書簡〔遊覧約束〕 永尾司馬人→手島兵次郎	明治31年8月21日(1898)	1枚・墨書	138
書簡〔山香君転任の宴席にて同窓諸人会の氏名書上げ〕 永尾司馬人・頼弥三郎他→手島兵次郎	大正6年9月17日(1917)	1枚・墨書	26

手島兵次郎文書目録 / 個人 / 書簡

書簡〔赴任祝〕 中川一介→手島兵次郎	明治25年8月15日(1892)	1枚・墨書	134
書簡〔退職後の代言業務と手島転任の件〕 中川一介→手島兵次郎	明治26年5月5日(1893)	1枚・墨書	131
書簡〔横浜御転所希望の件〕 野崎啓造→手島兵次郎	明治26年5月10日(1893)	1枚・墨書	110
書簡〔見舞状〕 花井卓蔵→手島兵次郎	大正6年8月12日(1917)	1枚・墨書	15
書簡〔手島退官決定後の石井五郎らの横行と俸給に関する件〕 早川検察官→手島兵次郎	大正5年10月6日(1916)	1枚・墨書	3
書簡〔手島退官の件〕 早川弥三郎他→手島兵次郎	大正5年11月6日(1916)	1枚・墨書	4
書簡〔中身欠〕 覆審法院検察局→手島兵次郎	大正5年10月12日(1916)	1枚・墨書	11
書簡〔赴任挨拶〕 藤田高之→手島兵次郎	明治25年11月5日(1892)	1枚・墨書	145
書簡〔船越長男と山県有朋娘松子結婚式招待〕 船越衛→手島兵次郎	明治28年12月13日(1895)	1枚・墨書	155
書簡〔卒業後の授業料納付の件〕 法科大学→手島兵次郎	明治25年11月1日(1892)	1枚・ペン	122
書簡〔仙台転任祝〕 北条直方→手島兵次郎	明治26年7月7日(1893)	1枚・墨書	182
書簡〔近況報告〕 北条直方→手島兵次郎	明治28年3月28日(1895)	1枚・墨書	181
書簡〔帰仙につき相談〕 北条生→手島兵次郎	明治28年4月1日(1895)	1枚・墨書	128
書簡〔横浜裁判所欠員につき転勤相談〕 正木蔵之助→手島兵次郎	明治26年5月12日(1893)	1枚・墨書	144
書簡〔近況報告〕 正木蔵之助→手島兵次郎	明治26年7月20日(1893)	1枚・墨書	115
書簡〔舞鶴立ち寄りの件〕 松井茂→手島兵次郎	大正6年9月1日(1917)	1枚・墨書	14
書簡〔見舞状〕 松井茂→手島兵次郎	大正7年5月4日(1918)	1枚・墨書	27
書簡〔お見舞いおよび安東総督の心情承知〕 真鍋斌→手島兵次郎	大正5年10月18日(1916)	1枚・墨書	7
書簡〔身上の件ご安心を〕 向井巖→手島兵次郎	明治32年5月5日(1899)	1枚・墨書	126
書簡〔山口転任に感謝、関へ交渉〕 向井巖→手島兵次郎	7月11日	1枚・墨書	124
書簡〔見舞状〕 向井巖→手島兵次郎	11月16日	1枚・墨書	123
書簡〔退院祝〕 向井巖→手島兵次郎	11月30日	1枚・墨書	125
書簡〔佐藤検事正の取り残し分巡覧願う〕 向井検事正→手島兵次郎		1枚・墨書	186
書簡〔札入箱の礼状。2月10日付森島書簡同封〕 浅野家家扶森島権二→手島兵次郎	大正5年1月12日(1916)	2枚・墨書	641
書簡〔東京帝大法科大学書記川上博愛の在職30年慰勞の件〕 山田三良・上杉慎吉・中田薫→手島兵次郎	大正6年11月8日(1917)	1枚・謄写版	13
書簡〔試験合格通知〕 山田養吉→手島兵次郎・梶山延吉郎他2名	明治17年10月31日(1884)	1枚・墨書	151
書簡〔御悔状〕 山田養吉→手島兵次郎	明治22年12月31日(1889)	1枚・墨書	150
書簡〔頼氏取立の件〕 山田養吉→手島兵次郎	明治3□年1月7日	1枚・墨書	147

書簡〔祝状〕 山田養吉→手島兵次郎	11月29日	1枚・墨書	148
書簡〔赴任地について〕 湯川慎三郎→手島兵次郎	明治25年7月27日(1892)	1枚・墨書	132
書簡〔御赴任挨拶〕 湯川慎三郎→手島兵次郎	明治25年8月13日(1892)	1枚・墨書	137
書簡〔御栄転祈願〕 湯川慎三郎→手島兵次郎	明治28年3月30日(1895)	1枚・墨書	133
書簡〔見合いの勧め〕 湯河元臣(愛吉)→手島兵次郎	明治〔27年〕3月31日	1枚・墨書	158
書簡〔見合いの勧め〕 湯河元臣(愛吉)→手島兵次郎	明治〔27年〕4月20日	1枚・墨書	159
書簡〔見合いの勧め〕 湯河元臣(愛吉)→手島兵次郎	明治27年4月29日(1894)	1枚・墨書	157
書簡〔小生身上に付き内村氏より問い合わせの件〕 行森龍太→手島兵次郎	明治26年5月24日(1893)	1枚・墨書	180
書簡〔台湾赴任激励〕 横田国臣→手島兵次郎	明治〔44年〕9月10日(1911)	1枚・墨書	23
書簡〔同封漢詩斧正願い〕 頼弥次郎→手島兵次郎	1月6日	1枚・墨書	24
書簡〔ボードリー民法論綱代金、送料請求の件、大蔵省内の近況報告〕 若槻礼次郎→手島兵次郎	明治25年11月19日(1892)	1枚・墨書	163

Sub-Series No.2: 招待状類

招待状〔送別会〕 石塚英蔵→手島兵次郎	明治35年12月13日(1902)	1枚・活版	212
招待状〔晩餐会〕 後藤新平→手島兵次郎	明治35年12月17日(1902)	1枚・活版	214
招待状〔晩餐会〕 男爵児玉源太郎→手島兵次郎	明治36年2月9日(1903)	1枚・活版	213
招待状〔慈善市〕 日本赤十字社篤志看護婦人会台北支会副 長大島富子→手島兵次郎・同令夫人	明治36年3月1日(1903)	1枚・活版	322
招待状〔仮建築落成式〕 台湾銀行頭取柳生一義→手島兵 次郎	明治37年2月3日(1904)	1枚・活版	218
招待状〔晩餐会〕 後藤新平→手島兵次郎	明治37年9月12日(1904)	1枚・活版	383
招待状〔茶話会〕 波多野敬直→手島兵次郎	明治38年5月8日(1905)	1枚・活版	378
招待状〔夜会〕 後藤新平→手島令夫人	明治38年10月25日(1905)	1枚・活版	259
招待状〔陸軍凱旋式〕・凱旋観兵式場略図〔青山練兵場 付近〕・凱旋行軍順路図〔宮城付近〕 陸軍大臣寺内 毅→手島兵次郎	明治39年4月15日(1906)	3枚・活版・謄写 版	220
凱旋観兵式行幸御道筋略図		1枚・謄写版	395
凱旋祝賀会入場証・陸軍凱旋観兵式入場証・宴会次第 書・凱旋行軍順路図・凱旋観兵式場略図・凱旋観兵 式行幸御道筋略図		6枚・活版・謄写 版・タイプ	397
招待状〔本島始政記念日夜会〕 台湾総督子爵佐久間佐馬 太→手島兵次郎	明治39年6月10日(1906)	1枚・活版	391
招待状〔本島始政記念日夜会〕 子爵佐久間佐馬太→手島 令夫人	明治39年6月10日(1906)	1枚・活版	390
招待状〔晩餐会〕 子爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治39年9月2日(1906)	1枚・活版	216
招待状〔児玉前総督閣下寿像除幕式〕 児玉前総督閣下 寿像建設発起人総代→手島兵次郎	明治39年9月27日(1906)	1枚・活版	320

手島兵次郎文書目録 / 個人 / 招待状類

招待状〔夜会〕 台湾総督秘書官→手島令夫人	明治39年10月28日(1906)	1枚・活版	217
招待状〔第9回関西府県連合共進会〕 第九回関西府県連合共進会事務長有松英義→手島兵次郎	明治40年3月(1907)	1枚・活版	257
招待状〔晚餐会〕 宮本照明→手島兵次郎	明治40年4月9日(1907)	1枚・活版	422
招待状〔午餐会〕 松田正久→手島兵次郎	明治40年5月8日(1907)	1枚・活版	208
招待状〔台湾始政紀年日夜会〕 民政長官祝辰巳→手島兵次郎	明治40年6月10日(1907)	1枚・活版	258
招待状〔納涼会〕 伊藤政重→手島兵次郎	明治40年6月19日(1907)	1枚・活版	411
招待状〔晚餐会〕 子爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治40年9月4日(1907)	1枚・活版	215
招待状〔晚餐会〕 祝辰巳→手島兵次郎	明治40年10月11日(1907)	1枚・活版	272
招待状〔就任披露宴〕 加藤尚志→手島兵次郎	明治40年10月23日(1907)	1枚・活版	270
招待状〔聯隊軍旗拝受祝賀会〕 台湾歩兵第一連隊長岩田正吉→手島キン子	明治40年12月13日(1907)	1枚・活版	211
招待状〔晚餐会〕 大島久満次→手島兵次郎	明治41年1月14日(1908)	1枚・活版	247
招待状〔晚餐会〕 伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治41年1月18日(1908)	1枚・活版	209
招待状〔新築社屋落成式〕 台湾日日新報社守屋善兵衛→手島兵次郎	明治41年1月20日(1908)	1枚・活版	210
招待状〔晚餐会〕 伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治41年1月27日(1908)	1枚・活版	273
招待状〔中部台湾日報2000号祝賀会〕 中部台湾日報社長 山移定政→手島兵次郎	明治41年2月5日(1908)	1枚・活版	235
招待状〔晚餐会〕 伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治41年2月6日(1908)	1枚・活版	205
招待状〔園遊会〕 澤井組店主澤井市造→手島兵次郎	明治41年6月3日(1908)	1枚・活版	249
招待状〔台湾始政紀年日夜会〕 台湾総督秘書官→手島令夫人	明治41年6月10日(1908)	1枚・活版	207
招待状〔晚餐会〕 伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治41年9月15日(1908)	1枚・活版	274
招待状〔夜会〕 台湾総督伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治41年10月25日(1908)	1枚・活版	245
招待状〔夜会〕 台湾総督秘書官→手島令夫人	明治41年10月25日(1908)	1枚・活版	246
献立表	明治41年10月29日(1908)	1枚・活版	286
招待状〔新起街・大稻埕市場落成式〕 台北庁長 加藤尚志→手島兵次郎	明治41年12月17日(1908)	1枚・活版	263
招待状〔晚餐会〕 伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治42年1月9日(1909)	1枚・活版	396
招待状〔晚餐会〕 大島久満次→手島兵次郎	明治42年3月24日(1909)	1枚・活版	366
招待状〔晚餐会〕 大島久満次→手島兵次郎	明治42年3月24日(1909)	1枚・活版	367
招待状〔発明品博覧会開会式〕 発明品博覧会会長松平正直・総裁清浦奎吾→手島兵次郎	明治42年3月25日(1909)	1枚・活版	202
招待状〔紅葉館〕 中村竹蔵・国分三亥・渡辺暢・倉富勇三郎→手島兵次郎	明治42年4月16日(1909)	1枚・活版	369
招待状〔監獄協会総会〕 監獄協会総裁子爵清浦奎吾→手島兵次郎	明治42年4月22日(1909)	1枚・活版	368

招待状〔永田町官邸〕 侯爵桂太郎→手島兵次郎	明治42年4月22日(1909)	1枚・活版	370
招待状〔酒宴〕 香坂駒太郎→手島兵次郎	明治42年4月22日(1909)	1枚・活版	371
招待状〔晚餐会〕 大島久満次→手島兵次郎	明治42年5月19日(1909)	1枚・活版	204
招待状〔晚餐会〕 台湾総督伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治42年5月26日(1909)	1枚・活版	399
招待状〔晚餐会〕 大島久満次→手島兵次郎	明治42年6月5日(1909)	1枚・活版	266
招待状〔本島始政紀念日夜会〕 台湾総督伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治42年6月10日(1909)	1枚・活版	394
招待状〔本島始政紀年日夜会〕 台湾総督秘書官→手島令夫人	明治42年6月10日(1909)	1枚・活版	426
招待状〔午餐会〕 大島久満次→手島兵次郎	明治42年6月18日(1909)	1枚・活版	417
招待状〔晚餐会〕 大島久満次→手島兵次郎	明治42年7月9日(1909)	1枚・活版	199
招待状〔晚餐会〕 山田新一郎→手島兵次郎	明治42年8月12日(1909)	1枚・活版	363
招待状〔晚餐会〕 山田新一郎→手島兵次郎	明治42年8月23日(1909)	1枚・活版	192
招待状〔晚餐会〕 山田新一郎→手島兵次郎	明治42年9月10日(1909)	1枚・活版	268
招待状〔晚餐会〕 山田新一郎→手島兵次郎	明治42年9月20日(1909)	1枚・活版	269
招待状〔晚餐会〕 山田新一郎→手島兵次郎	明治42年10月9日(1909)	1枚・活版	239
招待状〔夜会〕 台湾総督伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治42年10月25日(1909)	1枚・活版	267
招待状〔夜会〕 台湾総督秘書官→手島令夫人	明治42年10月28日(1909)	1枚・活版	265
招待状〔酒宴〕 井村大吉→手島兵次郎	明治42年11月1日(1909)	1枚・活版	384
招待状〔晚餐会〕 伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治42年11月15日(1909)	1枚・活版	238
招待状〔林本源博愛醫院開院式〕 林彭寿他3名→手島兵次郎	明治42年11月15日(1909)	1枚・活版	382
招待状〔晚餐会〕 伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治42年11月16日(1909)	1枚・活版	240
招待状〔晚餐会〕 伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治42年11月18日(1909)	1枚・活版	237
招待状〔晚餐会〕 伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治42年11月19日(1909)	1枚・活版	381
招待状〔晚餐会〕 山田新一郎→手島兵次郎	明治42年11月22日(1909)	1枚・活版	236
招待状〔晚餐会〕 伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治42年12月3日(1909)	1枚・活版	194
招待状〔晚餐会〕 高島小金治→手島兵次郎	明治42年12月4日(1909)	1枚・活版	195
招待状〔晚餐会〕 伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治42年12月10日(1909)	1枚・活版	193
招待状〔晚餐会〕 伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治42年12月22日(1909)	1枚・活版	191
招待状〔午餐会〕 長岡外史→手島兵次郎	明治43年1月3日(1910)	1枚・活版	420
招待状〔晚餐会〕 Mr.E.C.Davis→手島兵次郎	明治43年2月1日(1910)	1枚・活版	336
招待状〔笠戸丸披露会〕 大阪商船株式会社基隆支店白莊司芳之助→手島兵次郎	明治43年4月11日(1910)	1枚・活版	393
笠戸丸案内 大阪商船株式会社		1枚・活版	325

手島兵次郎文書目録 / 個人 / 招待状類

招待状〔晩餐会〕 一瀬彗吉・瀧本美夫→手島兵次郎	明治43年4月25日(1910)	1枚・活版	392
招待状〔曹洞宗大本山別院本堂並祖師堂竣成式〕 曹洞宗管長代理山腰天鏡他→手島兵次郎	明治43年5月20日(1910)	1枚・活版	252
名刺 曹洞宗管長代理山腰天鏡		1枚・活版	410
招待状〔晩餐会〕 大島久満次→手島兵次郎	明治43年5月21日(1910)	1枚・活版	256
招待状〔晩餐会〕 愛国婦人会台湾支部長大島富→手島兵次郎	明治43年5月25日(1910)	1枚・活版	254
招待状〔晩餐会〕 台湾日日新報社長今井周三郎→手島兵次郎	明治43年5月25日(1910)	1枚・活版	255
招待状 斎藤吉十郎→手島兵次郎・同令夫人	明治43年5月27日(1910)	1枚・活版	248
招待状〔晩餐会〕 伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治43年5月28日(1910)	1枚・活版	251
招待状〔本島始政紀念日夜会〕 台湾総督伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治43年6月10日(1910)	1枚・活版	414
招待状〔本島始政紀年日夜会〕 台湾総督秘書官→手嶋令夫人	明治43年6月10日(1910)	1枚・活版	324
招待状〔晩餐会〕 大島久満次→手島兵次郎	明治43年6月19日(1910)	1枚・活版	421
招待状〔午餐会〕 宮本照明→手島兵次郎	明治43年7月25日(1910)	1枚・活版	250
招待状〔結婚披露宴〕 木村久太郎→手島兵次郎	明治42年7月28日(1910)	1枚・活版	260
〔晩餐のメニュー〕	明治43年9月16日(1910)	1枚・活版	241
招待状〔晩餐会〕 伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治43年9月26日(1910)	1枚・活版	242
招待状〔晩餐会〕 内田嘉吉→手島兵次郎	明治43年9月28日(1910)	1枚・活版	358
招待状〔晩餐会〕 伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治43年10月1日(1910)	1枚・活版	233
招待状〔留別会〕 長尾半平→手島兵次郎	明治43年10月6日(1910)	1枚・活版	234
MENU The Taiwan Railway Hotel	明治43年10月9日(1910)	1枚・活版	379
招待状〔晩餐会〕 伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治43年10月10日(1910)	1枚・活版	360
招待状〔夜会〕 台湾総督伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治43年10月28日(1910)	1枚・活版	261
招待状〔夜会〕 台湾総督秘書官→手嶋令夫人	明治43年10月28日(1910)	1枚・活版	203
献立表	明治43年11月5日(1910)	1枚・活版	294
招待状〔晩餐会〕 中川友次郎→手島兵次郎	明治43年11月28日(1910)	1枚・活版	359
招待状〔晩餐会〕 伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治43年11月30日(1910)	1枚・活版	225
招待状〔晩餐会〕 伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治43年12月6日(1910)	1枚・活版	243
招待状〔晩餐会〕 伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治43年12月6日(1910)	1枚・活版	244
招待状〔軍旗拝受記念日祝宴〕 台湾歩兵第一連隊長奥村信猛→手島兵次郎	明治43年12月8日(1910)	1枚・活版	262
招待状〔晩餐会〕 伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治43年12月24日(1910)	1枚・活版	412
招待状〔晩餐会〕 伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治44年1月1日(1911)	1枚・活版	314

招待状〔午餐会〕	内田嘉吉→手島兵次郎	明治44年1月8日(1911)	1枚・活版	317
招待状〔晚餐会〕	伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治44年1月9日(1911)	1枚・活版	316
招待状〔第1回台湾南部物産共進会〕	第一回台湾南部物産共進会協賛会会長松木茂俊→手島兵次郎	明治44年1月10日(1911)	1枚・活版	318
招待状〔晚餐会〕	伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治44年1月23日(1911)	1枚・活版	331
招待状〔晚餐会〕	関清英→手島兵次郎	明治44年1月30日(1911)	1枚・活版	330
挨拶状〔免官〕	谷信敬→手島兵次郎	明治44年1月(1911)	1枚・活版	332
招待状〔晚餐会〕	伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治44年1月25日(1911)	1枚・活版	319
招待状〔晚餐会〕	伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治44年3月23日(1911)	1枚・活版	328
招待状〔晚餐会〕	伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治44年2月21日(1911)	1枚・活版	306
招待状〔晚餐会〕	伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治44年2月22日(1911)	1枚・活版	305
招待状〔晚餐会〕	伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治44年2月22日(1911)	1枚・活版	308
招待状〔晚餐会〕	伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治44年2月23日(1911)	1枚・活版	303
招待状〔陸軍記念日催事〕	台北階行社幹事長野島忠孝→手島兵次郎	明治44年3月1日(1911)	1枚・活版	304
招待状〔晚餐会〕	高田元治郎→手島兵次郎	明治44年3月2日(1911)	1枚・活版	302
招待状〔晚餐会〕	伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治44年3月6日(1911)	1枚・活版	307
招待状〔晚餐会〕	高田元治郎→手島兵次郎	明治44年3月15日(1911)	1枚・活版	309
招待状〔晚餐会〕	龜山理平太→手島兵次郎	明治44年3月15日(1911)	1枚・活版	310
招待状〔食事会〕	斎藤吉十郎→手島兵次郎	明治44年3月23日(1911)	1枚・活版	300
招待状〔晚餐会〕	高田元治郎→手島兵次郎	明治44年3月27日(1911)	1枚・活版	299
招待状〔晚餐会〕	伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治44年3月30日(1911)	1枚・活版	297
招待状〔晚餐会〕	伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治44年4月1日(1911)	1枚・活版	298
招待状〔晚餐会〕	高田元治郎→手島兵次郎	明治44年4月4日(1911)	1枚・活版	311
招待状〔茶話会〕	第三艦隊司令官川島令次郎→手島兵次郎・同令夫人	明治44年4月5日(1911)	1枚・活版	312
招待状〔食事会〕	北港精糖株式会社取締役社長 小松楠彌→手島兵次郎	明治44年4月(1911)	1枚・活版	295
招待状〔食事会〕	塩水港製糖株式会社監査役岩崎総十郎	明治44年5月22日(1911)	1枚・活版	313
招待状〔結婚披露宴〕	木村増太郎・谷久子→手島兵次郎	明治44年8月25日(1911)	1枚・活版	329
招待状〔晚餐会〕	中川友次郎→手島兵次郎	明治44年9月2日(1911)	1枚・活版	327
招待状〔晚餐会〕	内田嘉吉→手島兵次郎	明治44年9月28日(1911)	1枚・活版	201
招待状〔晚餐会〕	龜山理平太→手島兵次郎	明治44年9月28日(1911)	1枚・活版	326
招待状〔晚餐会〕	内田嘉吉→手島兵次郎	明治44年10月4日(1911)	1枚・活版	428
招待状〔午餐会〕	台湾總督伯爵佐久間左馬太→手島兵次郎	明治44年10月28日(1911)	1枚・活版	427

手島兵次郎文書目録 / 個人 / 招待状類

招待状〔開業式〕・式次第 台湾瓦斯株式会社社長秋山義一 →手島兵次郎	明治44年11月20日(1911)	2枚・活版	224
招待状〔備後丸披露〕 日本郵船株式会社高柳敬勇→手島 兵次郎	明治44年11月25日(1911)	1枚・活版	222
招待状〔晩餐会〕 大津麟平→手島兵次郎	明治44年11月25日(1911)	1枚・活版	223
招待状〔晩餐会〕 国分三亥・渡邊暢	明治44年11月28日(1911)	1枚・活版	226
招待状〔晩餐会〕 伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治44年12月3日(1911)	1枚・活版	227
招待状〔晩餐会〕 宮本照明→手島兵次郎	明治44年12月4日(1911)	1枚・活版	377
招待状〔公試運転式〕 台北製糖株式会社社長木下新三郎 →手島兵次郎	明治44年12月10日(1911)	1枚・活版	409
招待状〔始業式〕 北港製糖株式会社→手島兵次郎	明治44年12月14日(1911)	1枚・活版	406
招待状〔晩餐会。献立同封〕 伯爵佐久間佐馬太→手島兵 次郎	明治44年12月27日(1911)	2枚・活版	405
招待状〔始業式〕 中央製糖株式会社社長関清英代理・常務取 締役近藤武義→手島兵次郎	明治44年12月(1911)	1枚・活版	408
招待状〔晩餐会〕 伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治45年1月1日(1912)	1枚・活版	404
招待状〔晩餐会〕 伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治45年1月4日(1912)	1枚・活版	403
招待状〔茶話会〕 内田嘉吉→手島兵次郎	明治45年1月6日(1912)	1枚・活版	400
招待状〔午餐会〕 伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治45年1月7日(1912)	1枚・活版	402
招待状〔新年会〕 台北サミユール商会支配人エッチ・テー・ ヒューム→手島兵次郎	明治45年1月9日(1912)	1枚・活版	229
招待状〔晩餐会〕 内田嘉吉→手島兵次郎	明治45年7月6日(1912)	1枚・活版	375
招待状〔晩餐会〕 伯爵佐久間佐馬太→手島兵次郎	明治45年7月9日(1912)	1枚・活版	376
招待状〔晩餐会〕 内田嘉吉→手島兵次郎	大正1年8月4日(1912)	1枚・活版	365
招待状〔晩餐会〕 内田嘉吉→手島兵次郎	大正1年8月20日(1912)	1枚・活版	190
招待状〔晩餐会〕 内田嘉吉→手島兵次郎	大正1年9月22日(1912)	1枚・活版	364
招待状〔晩餐会〕 内田嘉吉→手島兵次郎	大正1年10月4日(1912)	1枚・活版	198
招待状〔晩餐会〕 内田嘉吉→手島兵次郎	大正1年10月14日(1912)	1枚・活版	197
礼状〔退官記念品〕 山田巻耳	大正2年4月5日(1913)	1枚・活版	296
挨拶状〔大津地方裁判所検事正着任〕 藤岡大英	大正2年5月(1913)	1枚・活版	279
挨拶状〔満鉄入社〕 眇田熊右衛門→手島兵次郎	大正2年6月(1913)	1枚・活版	278
挨拶状〔退官帰京〕 曾禰吉彌→手島兵次郎	大正2年7月12日(1913)	1枚・活版	277
招待状〔晩餐会〕 松井四郎→手島兵次郎	大正2年8月1日(1913)	1枚・活版	292
招待状〔晩餐会〕 白山靖他→手島兵次郎	大正2年9月15日(1913)	1枚・活版	276
招待状〔台南新報15周年記念祝賀会〕 台南新報社長富 地近思→手島兵次郎	大正2年10月20日(1913)	1枚・活版	282
挨拶状〔辞職〕 花蓮港庁官舎中田直温	大正2年10月28日(1913)	1枚・活版	283

招待状〔台北出張所新築披露宴〕 星製菓株式会社星一 →手島兵次郎	大正2年10月31日(1913)	1枚・活版	280
挨拶状〔帰郷〕 西美波→手島兵次郎	大正2年11月3日(1913)	1枚・活版	281
招待状〔食事会〕 渡辺武良・瀧本美夫→手島兵次郎	大正2年11月22日(1913)	1枚・活版	287
招待状〔晩餐会〕 台北商工会長木下新三郎→手島兵次郎	大正2年11月28日(1913)	1枚・活版	288
招待状〔家屋改築祝賀会〕 台北市街改築祝賀会総代木下 新三郎→手島兵次郎	大正2年12月(1913)	1枚・活版	291
招待状〔午餐会。献立表同封〕 内田嘉吉→手島兵次郎	大正4年5月11日(1915)	2枚・活版	342
招待状〔晩餐会〕 内田嘉吉→手島兵次郎	大正4年5月14日(1915)	1枚・活版	357
招待状〔晩餐会〕 内田嘉吉→手島兵太郎	大正4年6月1日(1915)	1枚・活版	343
晩餐献立〔於台湾総督官邸〕	大正4年6月24日(1915)	1枚・活版	346
晩餐献立〔於台湾総督官邸〕	大正4年6月24日(1915)	1枚・活版	334
晩餐献立〔於台湾総督官邸〕	大正4年6月27日(1915)	1枚・活版	347
晩餐献立〔於台湾総督官邸〕	大正4年8月22日(1915)	1枚・活版	429
招待状〔晩餐会。献立表同封〕 男爵安東貞美→手島兵次 郎	大正4年9月7日(1915)	2枚・活版	335
招待状〔晩餐会。献立表同封〕 男爵安東貞美→手島檢察 官長	大正4年9月20日(1915)	2枚・活版	362
招待状〔始政5年記念朝鮮物産共進会開会式〕 始政五 年記念朝鮮物産共進会事務総長山県伊三郎→手島兵次郎	大正4年9月(1915)	1枚・活版	333
招待状〔食事会〕 立川連→手島兵次郎	大正4年10月16日(1915)	1枚・活版	284
招待状〔午餐会〕 台湾総督男爵安東貞美→手島兵次郎	大正4年10月22日(1915)	1枚・活版	419
招待状〔天長節夜会〕 台湾総督男爵安東貞美・安東家栄子 →手島兵次郎・同令夫人	大正4年10月22日(1915)	1枚・活版	413
招待状〔夜会〕 台湾総督男爵安東貞美・安東家栄子→手島 兵次郎・同令夫人	大正4年11月8日(1915)	1枚・活版	416
招待状〔晩餐会〕 下村宏→手島兵次郎	大正4年11月9日(1915)	1枚・活版	418
特別観艦式陪観券・汽車時刻表・横濱市内案内図・横 浜税関岸壁案内図 →手島兵次郎	大正4年12月4日(1915)	3枚・活版	423
招待状〔晩餐会〕 男爵安東貞美→手島兵次郎	大正5年1月5日(1916)	1枚・活版	389
招待状〔晩餐会〕 星一→手島兵次郎	大正5年1月5日(1916)	1枚・活版	387
招待状〔晩餐会〕 飯沼剛一・星野政敏→手島兵次郎	大正5年1月10日(1916)	1枚・活版	386
招待状〔新年会〕 台北商工会長木下新三郎→手島兵次郎	大正5年1月10日(1916)	1枚・活版	424
招待状〔晩餐会〕 加福豊次→手島兵次郎	大正5年3月6日(1916)	1枚・活版	352
招待状〔晩餐会〕 男爵安東貞美→手島兵次郎	大正5年3月10日(1916)	1枚・活版	353
招待状〔晩餐会〕 男爵安東貞美・同家栄→手島兵次郎・同令 夫人	大正5年3月10日(1916)	1枚・活版	354
晩餐献立〔於台湾総督官邸〕	大正5年3月16日(1916)	1枚・活版	430

手島兵次郎文書目録 / 個人 / 招待状類

招待状〔晩餐会〕	男爵安東貞美→手島兵次郎	大正5年3月14日(1916)	1枚・活版	355
招待状〔晩餐会〕	下村宏・同フミ子→手島兵次郎・同令夫人	大正5年3月20日(1916)	1枚・活版	351
招待状〔晩餐会。献立表同封〕	男爵安東貞美→手島兵次郎	大正5年3月22日(1916)	2枚・活版	350
招待状〔晩餐会〕	林熊徴→手島檢察官長	大正5年3月24日(1916)	1枚・活版	348
招待状〔晩餐会〕	男爵安東貞美・同家栄子→手島兵次郎・同令夫人	大正5年3月24日(1916)	1枚・活版	349
招待状〔晩餐会〕	原鶴次郎→手島兵次郎	大正5年3月27日(1916)	1枚・活版	344
招待状〔晩餐会〕	下村宏→手島兵次郎	大正5年3月30日(1916)	1枚・活版	340
招待状〔午餐会〕	下村宏→手島兵次郎	大正5年4月4日(1916)	1枚・活版	339
招待状〔晩餐会〕	下村宏→手島兵次郎	大正5年4月4日(1916)	1枚・活版	337
招待状〔晩餐会〕	安東貞美→手島兵次郎	大正5年4月7日(1916)	1枚・活版	341
招待状〔晩餐会〕	男爵安東貞美→手島兵次郎	大正5年4月13日(1916)	1枚・活版	374
招待状〔園遊会〕	櫻井鉄太郎→手島兵次郎	大正5年4月13日(1916)	1枚・活版	196
招待状〔閑院宮夫妻奉迎宴会〕	台湾総督男爵安東貞美・安東家栄子→手島兵次郎・同令夫人	大正5年4月15日(1916)	1枚・活版	415
招待状〔午餐会〕	日本赤十字社台湾支部長下村宏→商議員手島兵次郎	大正5年4月(1916)	1枚・活版	373
招待状〔第2回社員総会〕	日本赤十字社台湾支部長下村宏→商議員手島兵次郎	大正5年(1916)	1枚・活版	372
招待状〔彰化銀行開業10周年記念祝典〕	株式会社彰化銀行呉汝祥他1名→手島兵次郎	大正5年7月6日(1916)	1枚・活版	323
招待状〔晩餐会〕	佐田家年→手島兵次郎	1月5日	1枚・活版	388
招待状〔茶話会〕	男爵児玉源太郎→手島兵次郎	1月15日	1枚・活版	425
招待状〔晩餐会〕	柳生一義→手島兵次郎	1月24日	1枚・活版	253
招待状〔台北支部・台北連合分会発会式〕	帝国在郷華人会台北支部長野島忠孝→手島兵次郎	2月25日	1枚・活版	301
〔芳醸社増資の依頼〕	芳醸社藤本鉄治他3名→手島兵次郎	3月12日	1枚・活版	321
招待状〔晩餐会〕	櫻井鉄太郎→手島兵次郎	3月29日	1枚・活版	345
招待状〔晩餐会〕	木下新三郎・木下満寿子→手島兵次郎・手島令夫人	6月15日	1枚・活版	264
招待状〔戴冠祝賀会〕	英国領事館→手島兵次郎	6月22日	1枚・活版	315
招待状〔晩餐会〕	後藤新平→手島兵次郎	6月30日	1枚・活版	230
招待状〔新高製氷株式会社専務就任祝宴〕	樋山資之→手島兵次郎	7月4日	1枚・活版	385
招待状〔留別会〕	大島富→手島キン子	7月28日	1枚・活版	361
招待状〔晩餐会〕	柳生一義→手島兵次郎	8月5日	1枚・活版	221
招待状〔晩餐会〕	アメリカ領事	9月8日	1枚・活版	200

招待状〔園遊会〕 安井勝次夫妻・石井常英夫妻→手島兵次郎・同令夫人	9月19日	1枚・活版	271
招待状〔晩餐会〕 姉齒松平・中村啓次郎→手島兵次郎	10月19日	1枚・活版	380
招待状〔晩餐会〕 大島久満次→手島兵次郎	12月4日	1枚・活版	219
夕餐献立 台湾鉄道ホテル	12月5日	1枚・活版	407
招待状〔晩餐会〕 松岡富雄→手島兵次郎	12月7日	1枚・活版	290
招待状〔食事会〕 柳生一義→手島兵次郎	12月11日	1枚・活版	289
招待状〔晩餐会〕 柳生一義→手島兵次郎	12月22日	1枚・活版	206
式次第		1枚・活版	275
献立表		1枚・活版	293
名札〔手島閣下〕		1枚・墨書	338
絵葉書〔大島前民政長官送別紀年〕 株式会社台湾日日新報社		1枚・活版	356
名刺〔品物送付状〕 台湾総督府監獄監吏西沢栄太郎→手島兵次郎		1枚・活版・墨書	401
台湾縦貫鉄道全通式汽車発着時刻表	明治41年10月(1908)	1枚・活版	231
一等乗車券〔台北・基隆間〕 日本郵船株式会社基隆出張所	明治44年12月2日(1911)	1枚・活版	228
〔富士山と湖の図〕 →手島兵次郎		1枚・活版・墨書	285
包紙 山本幸太郎		1枚・墨書	398
〔台紙〕		2枚	232

Sub-Series No.3: 位記・勲記

位記〔叙正八位〕 宮内大臣→手島兵次郎	明治28年11月20日(1895)	1枚・墨書	91
位記〔叙従七位〕 宮内大臣→手島兵次郎	明治29年11月20日(1896)	1枚・墨書	90
位記〔叙正七位〕 宮内大臣→手島兵次郎	明治31年12月10日(1898)	1枚・墨書	82
位記〔叙従六位〕 宮内大臣→手島兵次郎	明治34年9月30日(1901)	1枚・墨書	59
位記〔叙正六位〕 宮内大臣→手島兵次郎	明治36年12月11日(1903)	1枚・墨書	65
位記〔叙従五位〕 宮内大臣→手島兵次郎	明治39年11月30日(1906)	1枚・墨書	69
位記〔叙正五位〕 宮内大臣→手島兵次郎	明治42年12月27日(1909)	1枚・墨書	73
位記〔叙従四位〕 宮内大臣→手島兵次郎	大正4年2月20日(1915)	1枚・墨書	77
位記〔叙正四位〕 宮内大臣波多野敬直→手島兵次郎	大正5年10月30日(1916)	1枚・墨書	597
位記〔特旨ヲ以テ位一級被進〕 宮内省→手島兵次郎	大正5年10月30日(1916)	1枚・墨書	599
勲記〔叙勲六等〕 賞勲局総裁大給恒→手島兵次郎	明治39年6月30日(1906)	1枚・墨書	656
勲記〔叙勲五等〕 賞勲局総裁正親町実正→手島兵次郎	明治43年6月24日(1910)	1枚・墨書	655

手島兵次郎文書目録 / 個人 / 位記・勲記

勲記(仮記)[叙勲五等授瑞宝章] 賞勲局→手島兵次郎	明治43年6月24日(1910)	1枚・墨書	596
領収証[勲六等瑞宝章還納] 賞勲局物品会計主務属平林吉利→手島兵次郎	明治43年11月11日(1910)	1枚・印刷・墨書	590
勲記[叙勲四等] 賞勲局総裁正親町実正→手島兵次郎	明治44年12月26日(1911)	1枚・墨書	654
勲記(仮記)[叙勲四等授瑞宝章] 賞勲局→手島兵次郎	明治44年12月26日(1911)	1枚・墨書	595
勲五等仮記及本勲章返戻証[中身欠]		1枚・墨書	592
領収証[勲五等瑞宝章還納] 賞勲局物品会計主務属平林吉利→手島兵次郎	明治45年3月18日(1912)	1枚・タイプ・墨書	593
勲章佩用心得 賞勲局		1冊・活版	594
勲四等仮記[中身欠]		1枚・墨書	588
勲章佩用心得 賞勲局		1冊・活版	589
[天皇御璽等印跡のある白紙一括]		12枚	591
大礼記念章之証 賞勲局総裁正親町実正→手島兵次郎	大正4年11月10日(1915)	1枚	671
勲記[叙勲三等] 賞勲局総裁正親町実正→手島兵次郎	大正5年2月28日(1916)	1枚・墨書	653

Sub-Series No.4: 賞状類

[三等功労章贈与証] 帝国海事協会総裁 威仁親王→手島兵次郎	明治40年12月20日(1907)	2枚・墨書・複製	670
功労章帯用者注意書 帝国海事協会	明治40年12月(1907)	2枚・活版・複製	667
功労章程		4枚・活版・複製	668
領票ノ写并領票記入ノ心得		2枚・タイプ	665
[義勇艦隊建設功労章贈与の件] 帝国義勇艦隊建設台湾委員部委員長 祝辰巳→手島兵次郎	明治41年2月12日(1909)	2枚・蒔莢版	666
推薦状[特別会員] 帝国在郷軍人会台北支部長野島忠孝→手島兵次郎	明治44年2月25日(1911)	1枚・墨書	539
[台北第三尋常高等小学校建築費として10円44銭寄付に付き木杯下賜] 台北庁長井村大吉→手島兵次郎	明治44年9月7日(1911)	1枚・墨書	583
[慈善事業基本金として180円寄付に付き木杯下賜] 賞勲局総裁正親町実正→手島兵次郎	明治44年12月28日(1911)	1枚・墨書	547
感謝状[青森市火災罹災者救恤として1円85銭寄付] 青森県知事武田千代三郎→手島兵次郎	大正1年10月1日(1912)	1枚・墨書	567
推薦状[名誉会員] 第二回台湾南部物産共進会協賛会→手島兵次郎	大正4年9月(1915)	1枚・墨書	573
[罹災窮民救恤として18円寄付に付き木杯下賜] 北海道庁長官俵孫一→手島兵次郎	大正5年2月10日(1916)	1枚・墨書	556
辞令書[日本赤十字社台湾支部商議員委嘱] 日本赤十字社長花房義質→手島兵次郎	大正5年2月25日(1916)	1枚・墨書	535
感謝状[日赤台湾支部囑託] 日本赤十字社長花房義質→手島兵次郎	大正5年11月25日(1916)	1枚・墨書	555

〔解囑謝状送付通知〕 日本赤十字社台湾支部主事古谷伝 →手島兵次郎	大正5年12月2日(1916)	1枚・墨書	566
--------------------------------------	-----------------	-------	-----

Sub-Series No.5: 写真・名簿・書類

アルバム〔台報月報・家族宛の欧州絵葉書通信〕 手島 兵次郎		3冊	647
写真〔手島政子・由井政義他七五三など〕	明治42年10月10日〔大 正4年〕(1909-1915年)	7枚	663
写真〔手島キン子葬儀・大礼服姿の手島兵次郎〕		9枚	664
人名録〔帝大同期などの官僚等〕		1冊・墨書	648
明治四十五年賀状発受控 手島	明治45年(1912)	1冊・墨書	610
大正三年度年賀状受控 手島	大正3年(1914)	1冊・墨書	611
外国へ贈品ニ関スル書類		8種・墨書	640
Receipt for a Parcel Received	大正2年5月19日(1913)	2枚・ペン	640-1
記〔書籍、絵画、図録の代金〕		1枚・墨書	640-2
Receipt for a Parcel Received	大正2年5月19日(1913)	1枚・ペン	640-3
Receipt for a Parcel Received	大正2年5月19日(1913)	1枚・ペン	640-4
領収証〔絵画等〕 審美書院→手島兵次郎	大正2年5月14日(1913)	1枚・タイプ・ペン	640-5
領収証〔絵画等〕 審美書院→手島兵次郎	大正2年5月15日(1913)	1枚・タイプ・ペン	640-6
外国差立小包及開封郵便料内訳		1枚・ペン	640-7
手島様ハカキ宛名		3枚・ペン	640-8
戸口・戸籍書届控		37種	639
戸籍〔手島政資他〕		1枚・墨書	639-1
寄留届 手島兵次郎→台北庁長井村大吉	明治42年12月5日	3枚・墨書	639-2
寄留退去届〔未記入〕		1枚	639-3
寄留届(案) 手島兵次郎→広島市戸籍吏	明治35年6月11日	1枚・墨書	639-4
寄留届 手島兵次郎→庁長加藤尚志	明治40年11月30日	1枚・墨書・ペン	639-5
出生届	明治40年3月1日	1枚・墨書	639-6
嫡出子出生届 手島兵次郎→広島市戸籍吏伴資健	明治35年6月11日	1枚・墨書	639-7
嫡出子出生届(写) 手島兵次郎→牛込区戸籍吏	明治30年3月22日	1枚・墨書	639-8
罫紙〔未記入〕		1枚	639-9
〔手島兵次郎寄留届の件〕 広島県広島市役所→愛知県 名古屋市役所	明治31年5月7日	1綴・墨書	639-10
嫡出子出生届 手島兵次郎→広島市戸籍吏高東康一		1枚・墨書	639-11

戸籍戸口諸届控 傭人の分 手島		1枚・墨書	639-12
寄留届 手島兵次郎→台北庁長井村大吉	明治45年7月	1枚・墨書	639-13
嫡出子出生届 手島兵次郎→広島市戸籍吏高東康一		1枚・墨書	639-14
戸籍 広島県広島市戸籍吏長長屋謙二	明治45年2月14日	1綴・ペン	639-15
戸籍 広島県広島市戸籍吏高東康一	明治39年11月22日	1綴・墨書	639-16
診断書 畠山吉三郎	明治32年12月14日	1枚・墨書	639-17
寄留届 手島兵次郎・杉浦為篤→戸太町町長代理助役及川透	明治29年9月	1枚・墨書	639-18
転寄留届 手島兵次郎→台北庁長菊池末太郎	明治36年6月30日	1枚・墨書	639-19
寄留退去届〔未記入〕		2枚	639-20
他管寄留届 手島兵次郎	明治36年7月2日	1枚・墨書	639-21
入学願〔未記入〕		1枚・謄写版	639-22
入学願 手島秀平→第三尋常高等小学校長玉井郷方	明治43年3月1日	1枚・墨書・謄写版	639-23
入寄留下案 手島兵次郎・川成進助→牛込区長	明治33年1月12日	1枚・墨書	639-24
寄留退去届 手島兵次郎→台北庁長井村大吉	明治45年6月	1綴・墨書	639-25
寄留届 手島兵次郎→台北庁長井村大吉		1枚・墨書	639-26
寄留届 手島兵次郎	明治43年7月4日	1枚・墨書	639-27
死亡届 手島兵次郎→広島市戸籍吏長長屋謙二	明治44年8月	1枚・墨書	639-28
死亡診断書 高田千賀太	明治44年8月6日	1枚・墨書	639-29
出生届 手島兵次郎→台北庁長佐藤友熊	明治40年3月1日	1枚・墨書	639-30
入寄留退去届 手島政資→名古屋市長志水直	明治32年8月	1枚・墨書	639-31
嫡出子出生届 手島兵次郎→牛込区戸籍吏	明治33年3月23日	1枚・墨書	639-32
入寄留退去届 手島政資→名古屋市長志水直	明治32年10月23日	1枚・墨書	639-33
寄留届 手島兵次郎→庁長加藤尚志	明治40年11月30日	1枚・墨書	639-34
嫡出子出生届 手島兵次郎→広島市戸籍吏伴資健		1枚・墨書	639-35
〔寄留届片〕 手島兵次郎→台北庁長井村大吉		1枚・墨書	639-36
罫紙〔未記入〕		6枚	639-37
出生届 手島兵次郎→広島市戸籍吏	明治43年12月2日(1910)	1枚・複製	669
祭文〔手島夫人死去〕 内田隣子	明治44年8月13日(1911)	1枚・墨書	643
手島夫人追憶談〔『台湾愛国婦人』34号の複写〕 石井実他		8枚・複製	612
日記〔後半部欠〕 手島キン子	明治34年5月1日-6月10日(1901)	1冊・墨書	609
木札〔家元門弟〕 →手島キン子		1枚・墨書	453

卷子箱	1個	650
卷子箱	1個	651
卷子箱	1個	652
罫紙〔未使用〕 台湾総督府罫紙	4枚	642

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

Series No.3: 手島家

Sub-Series No.1: 手島家 (近世)

和紙〔未使用〕			477
命令書〔代官手付被仰付〕 →手島七蔵	寛政5年8月15日(1793)	1枚・墨書	502
褒状〔銀15匁〕 →手島七蔵		1枚・墨書	503
褒状〔銀2匁〕 →手島七蔵		1枚・墨書	499
褒状〔銀15匁〕 →手島幸蔵	文化15年4月6日(1818)	1枚・墨書	500
褒状〔銀貳拾目・金百疋〕 →手島幸蔵		1枚・墨書	496
褒状〔銀20目〕 →手島幸蔵		1枚・墨書	497
命令書〔植木三郎衛門御預〕 →手島幸蔵		1枚・墨書	498
褒状〔銀3匁〕 →手島幸蔵		1枚・墨書	501
褒状〔銀20目〕 →手島幸蔵	文政6年12月31日(1823)	1枚・墨書	525
褒状〔銀3両〕 →手島幸蔵	文政6年8月(1823)	1枚・墨書	526
褒状〔銀3両〕 →手島幸蔵		1枚・墨書	515
褒状〔銀15匁〕 →手島幸蔵		1枚・墨書	516
褒状〔銀15匁〕 →手島幸蔵		1枚・墨書	519
褒状〔銀60目〕 →手島幸蔵		1枚・墨書	520
褒状〔銀50目〕 →手島幸蔵		1枚・墨書	521
命令書〔銀方算用〕 →手島幸蔵	文化7年(1810)	1枚・墨書	506
命令書〔5斗加増被仰付〕 →手島幸蔵	文政1年1月26日(1818)	1枚・墨書	507
命令書〔出会組被仰付〕 →手島幸蔵	文政5年1月27日(1822)	1枚・墨書	508
命令書〔1ヶ年銀400目の御勘定所支配足輕御雇被仰付〕 →手島幸蔵		1枚・墨書	504
命令書〔切米4石2人扶持の勘定所支配足輕被仰付〕 →手島幸蔵		1枚・墨書	505
命令書〔勘定所物書役並勘定所詰被仰付〕 →手島幸蔵		1枚・墨書	509
御奉書〔文政九戌年江戸御供二而罷越 翌十年御供出足前別紙二而頂戴〕 政寛	文政10年(1827)	1枚・墨書	489
褒状〔銀60目〕 →手島三郎右衛門		1枚・墨書	478
褒状〔金150疋〕 →手島三郎右衛門		1枚・墨書	479
褒状〔金200疋〕 →手島三郎右衛門		1枚・墨書	480
褒状〔金1両〕 →手島三郎右衛門		1枚・墨書	481

褒状〔金150疋〕 →手島三郎右衛門		5枚・墨書	488
褒状〔銀60目〕 →手島三郎右衛門		1枚・墨書	490
褒状〔銀60目〕 →手島三郎右衛門		1枚・墨書	491
褒状〔銀25匁〕 →手島三郎右衛門		1枚・墨書	492
褒状〔銀50目〕 →手島三郎右衛門		1枚・墨書	494
褒状〔銀45匁〕 →手島三郎右衛門		1枚・墨書	495
褒状〔銀30目・金100疋〕 →手島三郎右衛門		1枚・墨書	517
褒状〔銀20目〕 →手島三郎右衛門		1枚・墨書	518
命令書〔住居付被仰付〕 →手島三郎右衛門	天保6年3月15日 (1835)	1枚・墨書	511
命令書〔御勘定所物書役本役被仰付〕 →手島三郎右衛門	弘化4年12月28日 (1847)	1枚・墨書	493
命令書〔勘定所詰被仰付〕 →手島三郎右衛門		1枚・墨書	510
命令書〔加増1石被仰付〕 →手島三郎右衛門		1枚・墨書	512
貼紙〔文政六年未正月廿九日 本文之通り被仰付〕	文政6年1月29日 (1823)	1枚・墨書	514
貼紙〔天保四年巳十一月廿四日 本文之通帰役被仰付〕	天保4年11月24日 (1833)	1枚・墨書	513

Sub-Series No.2: 手島政資

命令書〔大御小姓頭物書被仰付〕 →手島重次郎		1枚・墨書	482
借用証書 手島政資→佐伯為三郎	明治25年11月1日-31年8月8日 (1892-1898)	1綴・墨書	470
〔畑地の反別・地価等を記したメモ〕		1枚・墨書	471
掲示〔「五教之目」「為学之序」などについて説いたもの〕	明治2年1月	1枚・木版	473
〔書簡下書〕		1枚・墨書	474
〔礼服着出頭の件〕 広島県→手島政資	明治6年8月14日 (1873)	1枚・墨書	475
〔土籍編入通知書〕 広島県→手島政資	明治6年8月20日 (1873)	1枚・墨書	483
〔中教院出頭の件〕 広島県→手島政資	明治7年4月30日 (1874)	1枚・墨書	484
〔家禄奉還に関する法令〕 広島県	明治7年5月3日 (1874)	1枚・活版	485
書簡〔秩禄充行の件〕	11月	1枚・墨書	486
〔広島藩禄制改革に関する書類〕		1枚・墨書	487
命令書〔広島藩の家丁輔時代から明治10年広島鎮台の会計部小使任命までの命令書貼合せ〕 →手島政資	明治10年1月16日 (1877)	1枚・墨書	523
命令書〔陸軍会計看囚〕 陸軍省第五局→手島政資	明治10年4月5日 (1877)	1枚・墨書	522

手島兵次郎文書目録 / 手島家 / 手島政資

命令書〔明治10年陸軍会計夫長任命から12年会計夫長差免までの命令書貼合せ〕 陸軍第五局等→手島政資	明治10年8月29日-12年9月30日 (1877-1879)	1枚・墨書	524
〔退役願〕 手島政資→広島鎮台	明治11年2月 (1878)	1綴・墨書	476
命令書〔官有地借用〕 広島市長佐藤正→手島政資	明治29年4月13日 (1896)	1綴・墨書・タイブ	527
奠儀到来物覚帳〔政資葬式〕	明治32年12月15日	1綴・墨書	638
弔慰人名簿〔手島政資葬儀〕	明治32年12月15日 (1899)	1冊・墨書	646
会葬者礼状発送住処氏名簿〔手島政資葬儀〕	明治32年12月17日 (1899)	1冊・墨書	644
印鑑〔手島政資〕 手島政資		2枚・墨書	472

Sub-Series No.3: 手島家 (戦後)

〔手島家墓地改装に関するクリアブック〕		26種	672
系図 手島政資	明治29年 (1896)	1枚・墨書	672-1
明治三十年祖先年限調	明治30年 (1897)	1枚・墨書	672-2
改式之節歴代ノ霊神号		1綴・墨書	672-3
年忌 明治三十年調	明治30年 (1897)	1枚・墨書	672-4
〔婦天日調〕		1枚・墨書	672-5
〔婦天日調〕		1枚・ペン	672-6
〔婦天日調〕		1枚・ペン	672-7
〔婦天日調〕		2枚・ペン	672-8
手島三五ノ墓ニ合併		1枚・墨書	672-9
証明証 帝国大学総長 渡辺洪基→手島兵次郎	明治23年1月13日 (1890)	1枚・墨書	672-10
履歴書〔手島政資〕 手島兵次郎	明治〔32年〕 (1899)	1綴・墨書	672-11
履歴書〔手島政資〕 手島兵次郎	明治〔32年〕 (1899)	1枚・複製	672-12
歴代之復歴		1綴・複製	672-13
系図(2) 手島一志	平成10年2月1日 (1998)	1枚・複製	672-14
系図(2) 手島一志	平成10年2月1日 (1998)	1枚・複製	672-15
手島家墓地(旧) 手島一志	平成10年2月1日 (1998)	1枚・複製	672-16
手島家・系図及墓所について 手島一志	平成10年2月1日 (1998)	1枚・ペン	672-17
手島家墓所について 手島一志	平成10年2月1日 (1998)	1枚・複製	672-18
手島家墓地改装について 手島一志	平成10年11月25日 (1998)	3枚・複製	672-19
手島兵次郎系図	平成10年1月10日 (1998)	1枚・ペン	672-20
家督相続人(戸主)経緯(戸籍謄本より)	平成10年2月1日 (1998)	1枚・ペン	672-21

履歴書 手島志郎		1枚・複製	672-22
戸籍		1枚・複製	672-23
戸籍 広島市長渡邊忠雄	昭和41年8月9日(1966)	1綴・ペン	672-24
[手島家墓所写真]		8枚	672-25
[台湾総督府役職者一覧(Webからプリントアウトしたもの)]		1綴・複製	672-26
[手島瑞亀墓碑銘文]		1枚・ペン	660
[手島瑞亀墓碑拓本]		5枚・複製	661
手島瑞亀墓碑銘文		1綴・墨書	662
交通調査依頼について回答[宮島線の延長・停留場の名称変更等] 広島電鉄株式会社計画課長 青木明吉→佐伯郡廿日市町々長	昭和41年3月12日(1966)	1枚・複製	613
書簡 青山会海→手島一志	平成11年1月8日(1999)	6枚・墨書	659
書簡 青山会海→手島一志	平成11年1月19日(1999)	4枚・墨書	658
書簡 小野泰→手島一志	平成11年2月3日(1999)	3枚・墨書	657
『台湾慣習大要 全』[戦後に古書店から購入] 手島兵次郎編→台湾月報発行所	大正2年12月17日(1913)	1冊・活版	636
川北家文書、手島氏関係[中身欠]		1枚・ペン	189
絵葉書[広島十六景]	昭和	14枚・活版	649

Sub-Series No.4: 川北家

[服忌令・御礼廻勤之定ほか書き取り一括 川北家関係カ]		15種・墨書	631
自明治四十三年至明治四十五年領収書入 →川北良太郎他	明治43年-45年(1910-1912)	3種・墨書	632
書簡[父の初月忌.No454「建物に関する権利についての律令案関係書類」に混入] 木村拓郎→川北良太郎	昭和12年10月20日(1937)	1枚・謄写版	454-5

山口重次文書目録

山口重次文書目録 本文細目次

Series No1: 公の活動（満洲）	99
Sub-Series No.1: 満鉄社員	99
Sub-Series No.2: 関東軍統治部交通課長	99
交通政策	99
鉄道建設・営業	102
呼海鐵路接收	103
松花江水運関係機関整理	103
個別政策	104
メモ・雑書類	105
Sub-Series No.3: 東北交通委員会秘書	106
Sub-Series No.4: 瀋海鐵路保安維持会監事長秘書	107
Sub-Series No.5: 齊克鐵路復興委員	107
Sub-Series No.6: 満洲国協和会中央事務局次長	107
創設関係	107
組織関係	108
北満特別工作	108
東辺道特別工作	109
精神工作	109
その他	110
Sub-Series No.7: 東亜産業協会理事長	111
事業関係	111
内蒙工作	112
Sub-Series No.8: 奉天市政公署参事官	112
Sub-Series No.9: 牡丹江省次長	112
Series No2: 個人	114
Sub-Series No.1: 書類	114
Sub-Series No.2: 書簡	115

山口重次文書目録 解題

(3.1.1) 資料記号：2009D

(3.1.2) 資料名称：山口重次文書：The Paper's of YAMAGUCHI, Jyuji

(3.1.3) 年代：1912（大正1）年－1955（昭和30）年

(3.1.5) 物的状態：408点（0.80m）

(3.2.4) 伝来：山口重次文書は、2009年度に古書店より購入したものである。また、整理番号 No.391 以降の書簡等および名刺帳は2010年度に同じ古書店から購入した。これらはもともと同一の出所であると思われるので、整理にあたって一括した。

山口は戦後に公刊した著書（『満州建国の歴史－満州国協和会史－』栄光出版社，1973年・『満洲建国－満洲事変正史－』行政通信社，1975年）において、本人の手許に残されていた満洲時代の文書のいくつかを紹介していた。しかし、死後長らくその存在は不明となり、30年を経て古書店を経由して当館所蔵となった。当館所蔵の山口重次文書には著作の中で引用されていた文書もいくつか含まれているが（特に協和会時代の特別工作関係）、確認できない文書も存在する。また、著書で使われていた多くの写真は一点も含まれていない。

(3.2.2) 履歴：山口重次は明治25年（1892）8月26日、千葉県君津郡根形村に生まれる。41年（1908）4月に木更津中学校中退、大正元年（1912）12月に第1師団第57聯隊入営し3年（1914）11月に帰休除隊。同年9月に朝鮮へ渡り朝鮮軍司令部臨時雇となる。4年に巡査採用試験に合格し警官となる。5年（1916）8月に普通文官試験に合格、その間、京城法政研究会（2年制の夜学）を卒業、8年（1919）12月に朝鮮総督府を退官して満洲へ渡り、9年（1920）2月に南満洲鉄道株式会社に入社、大連埠頭事務所に勤務する。昭和2年（1927）8月に鉄道部営業課へ転任。昭和3年（1928）3月に小沢開作らと結成した満洲青年聯盟の創設に関わり、6年（1931）2月に常任理事となる。その後、同年9月に満洲事変が勃発すると10月に関東軍司令部嘱託となり、11月に自治指導部創立委員、11月に関東軍第三課齊々哈爾派遣北満工作員として事変処理に関わる。その後、7年（1932）1月に関東軍統治部交通課長（翌月から特務部交通関係担当主任、7年3月まで。満鉄退社は7年3月）、またこの間、瀋海鐵路保安維持会監事長秘書（6年10月～7年3月）・東北交通委員会秘書（6年10月～7年3月）・齊克鐵路局復興委員（6年11月～7年3月）を兼任する。翌7年（1932）3月の満洲国建国により自治指導部が解散すると、満洲青年聯盟関係者らによって4月に満洲国協和党が結成され、山口は総務部長となる。その後、7月に協和党が協和会として正式発足すると中央事務局委員・審査処長となり、同

時に奉天事務所を統括、8年（1933）3月に中央事務局次長となる（9年9月まで）。辞任後の12月には中国視察旅行を行う。またその間、8年（1933）7月に設立された年東亜産業協会の理事長となる（次長辞任後も在籍）。10年（1935）9月に奉天市政公署参事官を経て参与官総務処長、12年（1937）7月に参与官を解任されて国务院総務庁参事官となり（実質的勤務無し）、中国視察を行う。13年（1938）1月に牡丹江省次長となり、同年9月に退官。退官後の14年（1939）1月から20年（1945）5月まで満洲林業監事を務め、退職後は奉天で農業に従事。東京出張中に敗戦となり、そのまま郷里で農業と執筆に専念。54年（1979）11月9日死没。

(3.3.1) 構造と内容：山口重次文書は、満鉄・満洲国協和会などで活動した山口重次の満洲時代の文書類が中心である。内容は（一）満洲事変後の鉄道を中心とした交通政策に関する書類、（二）宣撫工作など初期の満洲国協和会に関する書類、（三）奉天市政公署および牡丹江省時代の行政に関する書類、（四）山口宛の戦後を中心とした私的活動および書簡類から構成される。

本目録では、2つのSeries（No.1: 公的活動（満洲）・No.2: 個人）を設定し、その下に必要に応じてSub-Seriesを設定した。まず、本文書群の中核を占めるSeries No.1「公的活動（満洲）」については、9つのSub-Seriesを設定した。これらは山口の経歴に対応するものであり、列記すると以下の通りとなる。満洲に渡った山口が最初に勤務していた満鉄時代の文書から構成される「No.1: 満鉄社員」、満洲事変後に嘱託として関わった関東軍統治部交通課時代の文書から構成される「No.2: 関東軍統治部交通課長」、満洲事変後に満洲の鉄道管理機関として設置された東北交通委員会時代の文書から構成される「No.3: 東北交通委員会秘書」、瀋陽・海龍間の鉄道路線である瀋海鐵路時代の文書から構成される「No.4: 瀋海鐵路保安維持会監事長秘書」、齊々哈爾・克山間の鉄道路線である齊克鐵路時代の文書から構成される「No.5: 齊克鐵路復興委員」、満洲国協和会設立から中期の活動までの文書から構成される「No.6: 満洲国協和会中央事務局次長」、東亜産業協会時代の文書から構成される「No.7: 東亜産業協会理事長」、奉天市の行政機関である奉天市政公署時代の文書から構成される「No.8: 奉天市政公署参事官」、牡丹江省の行政機関である牡丹江省時代の文書から構成される「No.9: 牡丹江省次長」である。

次に、Series No.2「個人」については、戦後の私的活動などの文書から構成される「No.1: 書類」、山口宛を中心とした書簡から構成される「No.2: 書簡」、以上2つのSub-Seriesを設定した。以下、2つのSeriesおよびSub-Seriesについて解説を加える。

Series No.1「公的活動（満洲）」は、山口重次の生涯にわたる活動の大半を占め、本文書群の中核である。満洲事変期から満洲国建国初期の政策決定に関わる書類や山口が作成した草稿・メモが中心であり、9つのSub-Series（「満鉄社員」・「関東軍統治部交通課長」・「東北交通委員会秘書」・「瀋海鐵路保安維持会監事長秘書」・「齊克鐵路復興委員」・「満洲国協和会中央事務局次長」・「東亜産業協会理事長」・「奉天市政公署参事官」・「牡丹江省次長」）から構成される。

Sub-Series「No.1: 満鉄社員」は、山口が入社時から勤務していた大連埠頭業務に関わる業務文書が中心であり、点数は多くはない。なお、「会社予算執行ニ関スル件」（No.161/356）・「南満洲鉄道株式会社関係法令ニ依ル認可ヲ要スヘキ申請件名及摘要法令条項」（No.357/143/163）は本来、一つの文書であったと思われる。

また、満洲事変後の満鉄委任経営に関わる文書として作成されたものとも推測されるが、原秩序が崩壊しているため、ここに含めた。

Sub-Series 「No.2: 関東軍統治部交通課長」は、満洲事変後に関東軍嘱託となった山口が交通課長就任前後に関わった交通政策の業務文書などから構成される。また、このSub-Seriesの下には、3つのSub-Sub-Series（「交通政策」・「鉄道建設・営業」・「呼海鐵路接収」・「松花江水運関係機関整理」・「個別政策」・「メモ・雑書類」）を設定した。これらは類似のものをグループ分けした便宜的なものであって、Sub-Series内部の構造を完全に反映させたものではない。ただし、「呼海鐵路接収」および「松花江水運関係機関整理」に関しては山口の著書（『満州建国』）において交通課時代の具体的な活動として紹介されたものであり、一定のまとまりを持っている。

なお「メモ・雑書類」に含まれる山口によるメモ類は断片的なものが多く、交通課に関わるものか、それ以外の活動（東北交通委員会など）で作成されたものか明確ではない。山口は、交通課に籍を置きつつ、東北交通委員会など複数の同じような業種を兼任しているため、文書群内には明確な区分が不可能な文書が多く含まれている。なかでも、Sub-Series「No.2: 関東軍統治部交通課長」とSub-Series「No.3: 東北交通委員会秘書」は内容的にどちらにも当てはまる文書が多い。本目録では組織上、政策を決定し各機関に指示する立場にあった関東軍統治部交通課を中核とし、明確に区分できる文書のみを「東北交通委員会秘書」・「瀋海鐵路保安維持会監事長秘書」・「齊克鐵路復興委員」に含めた。

Sub-Series 「No.3: 東北交通委員会秘書」は、前述したようにSub-Series「No.2: 関東軍統治部交通課」と重なる部分が多く、設立関係の文書を中心に含めた。

Sub-Series 「No.4: 瀋海鐵路保安維持会監事長秘書」は、山口が1931年10月から翌年3月まで関わった瀋海鐵路保安維持会時代の文書である。ここには、Sub-Series「No.2: 関東軍統治部交通課」と重なる部分を除いて、明確に瀋海鐵路に関係する文書であるもののみ含めた。

Sub-Series 「No.5: 齊克鐵路復興委員」は、山口が1931年11月から翌年3月まで関わった齊克鐵路時代の文書である。分量は少なく2点しかない。

Sub-Series 「No.6: 満洲国協和会中央事務局次長」は、山口が1932年4月の満洲国協和会設立に関わってから、1934年9月に辞任するまでの満洲国協和会時代の文書から構成される。また、このSub-Seriesの下には、3つのSub-Sub-Series（「創設関係」・「組織関係」・「北満特別工作」・「東辺道特別工作」・「精神工作」・「その他」）を設定した。これらは類似のものをグループ分けした便宜的なものであって、Sub-Series内部の構造を完全に反映させたものではない。ただし、「北満特別工作」および「東辺道特別工作」に関しては山口の著書（『満州建国の歴史』）において協和会時代の具体的な活動として紹介されたものであり、一定のまとまりを持っている。

Sub-Series 「No.7: 東亜産業協会理事長」は、1933年7月に設立された東亜産業協会の理事時代の文書である。東亜産業協会は産業資源調査と貿易振興助成を表看板にしているが、内実は内蒙進出を目的として山口が関東軍参謀田中新一らと共に結成した満洲国社団法人である。このSub-Seriesには、2つのSub-Sub-Series（「事業関係」・「内蒙工作」）を設定した。「事業関係」は便宜的な区分であるが、「内蒙工作」は一定のまとまりを持っている。

Sub-Series 「No.8: 奉天市政公署参事官」は、1935年9月から1937年7月までの奉天市政公署時代に関わる文書である。山口は着任時は参事官であったが、離任時は参与官総務処長であった。文書は参事官時代を中心

にして3点しかない。なお、参与官退任後から牡丹江省次長に着任する間、國務院總務庁参事官を務めるが、実質的な勤務は無く、文書も残されていない。

Sub-Series「No.9: 牡丹江省次長」は、1938年1月から9月まで務めた牡丹江省次長時代の文書である。多くは退官時の挨拶名簿であるが、東満開発に関わる文書も含まれている。

Series No.2「個人」は、山口重次の個人的活動に関わる文書である。名簿・名刺帳・書簡などが中心であり、2つのSub-Series（「書類」・「書簡」）から構成される。

Sub-Series「No.1: 書類」は、公的活動を退いた後に山口が作成または収受した文書から構成されるが、戦後のものが中心である。また、名刺帳とSub-Series「No.2: 書簡」は、別の時期に同じ古書店から購入したものである。

Sub-Series「No.2: 書簡」は、公的活動に関わるものも多く含まれているが、一括したSub-Seriesを設定し、山口宛と第三者間の順番で発信者の五十音順に配列した。

(3.4.5) 形態と状態：山口重次文書は、書類のみから構成され、名刺帳を除くと写真・モノ資料は含まれない。古書店から購入した時点で原秩序は失われていたが、積み重ねられた文書の順番のまま整理番号を付与した。ただし、積まれている文書の順序もかなり異動があったと見られ、現状を復元できない文書が多い。また、大半が昭和戦中から戦後期にかけて作成された文書であるため、酸性化が進み紙質の劣化が激しい。現在、マイクロ撮影を予定しており、撮影後は紙焼き本での閲覧が望ましい。

(3.4.6) 検索手段：『史料目録 第95集』

(3.5.4) 関連資料の所在：国立国会図書館憲政資料室および鶴岡市郷土資料館所蔵の石原莞爾文書は、山口と関係の深かった石原莞爾の個人文書であり、満洲事変および満洲国協和会関係の文書が多く含まれる。その他、国立国会図書館憲政資料室の片倉衷文書にも満洲事変以降の関連文書が含まれている。

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

Series No1: 公的活動 (満洲)

Sub-Series No.1: 満鉄社員

〔埠頭構内に於ける衛生事項に関する意見〕 埠頭事務所貨物課倉庫係雇員山口重次→埠頭事務所長梅野実	大正1年7月2日(1912)	1綴・タイプ	64
仮置倉庫詰所ノ管掌業務ニ就テ(埠頭教科書編纂材料応募答案) 海運課上屋係雇員山口重次		1綴・ペン	65
本邦港湾荷役ニ関スル改善意見〔附:本邦港湾荷役一般調査〕 南満洲鉄道株式会社鉄道部長宇佐見寛爾→港湾協会会長水野鍊太郎		1綴・タイプ	66
〔埠頭貨物取扱規則に関する解説。表紙は「社会世相 露西亜・支那・蒙古」〕		1綴・タイプ	19
〔荷役作業管理方法・華工管理方法改善に関する意見原稿。表紙は「移民」〕 (山口重次)		12枚・ペン	75
倉庫ト野積トノ貨物保管経費比較〔55頁以降欠〕 鉄道部営業課貨物係		33枚・菊蕪版	77
自昭和元年十月至二年九月各駅月別一日平均在貨噸数表	昭和2年(1927)	1枚・菊蕪版	72
〔満蒙関連諸パンフレット抜粋 目次〔(一)満蒙ニ於ケル我が既得權益ノ蹂躪サレタル实例、(二)南満洲及東部蒙古ニ関スル条約並関係公文、(三)満洲ニ於ケル日支合弁事業ノ成績、(四)邦人鑛山経営ニ対スル圧迫問題、(五)満蒙ニ関スル日本ノ投資額、(六)満蒙ニ於ケル世界各国ノ投資額〕 南満洲鉄道株式会社用紙	昭和4年(1929)	1綴・タイプ	287
〔營口・鞍山・奉天・撫順、奉天-大石橋間各駅出張報告後半部欠〕 南満洲鉄道株式会社タイプ紙	昭和5年(1930)	1綴・タイプ	17
〔大連港に関するレポート〕 南満洲鉄道株式会社用紙	昭和7年(1932)	27枚・タイプ	63
会社予算執行ニ関スル件 内閣拓殖局長	大正15年5月(1926)	1枚・タイプ	161
会社予算執行ニ関スル件〔No.161と同文〕 内閣拓殖局	大正15年5月(1926)	1枚・タイプ	356
南満洲鉄道株式会社関係法令ニ依ル認可ヲ要スヘキ申請件名及摘要法令条項〔No.357と一綴カ〕		7枚・タイプ	357
南満洲鉄道株式会社関係法令ニ依ル認可ヲ要スヘキ申請件名及摘要法令条項〔No.143と同文〕		1綴・タイプ	143
南満洲鉄道株式会社関係法令ニ依ル認可ヲ要スヘキ申請件名及摘要法令条項〔No.143と同文〕		7枚・タイプ	163

Sub-Series No.2: 関東軍統治部交通課長

交通政策

〔軍司令官の要望に関するメモ〕 (山口重次)	10月	1枚・ペン	320
満鉄会社ニ対スル要望事項 関東軍司令部	昭和6年10月6日(1931)	2枚・謄写版	257

〔満鉄委任経営に関するメモ〕〔山口重次〕		1枚・ペン	323
軍司令官ト満鉄総裁間ノ協定	昭和7年3月(1932)	1枚・ペン	258
刊行物分与ニ関スル件 特務部→満鉄副総裁	昭和7年3月18日(1932)	1枚・ペン	134
関東軍命令〔附 関東軍特殊通信業務規定〕 関東軍司令官本庄繁	昭和7年2月22日(1932)	1綴・タイプ	280
覚書〔満洲国駐屯日本軍経費に関する協定〕		3部・タイプ	351
覚書〔満洲国駐屯日本軍経費に関する協定 No.351と同文〕		5枚・タイプ	354
地方金融並運輸研究会〔議事録〕	昭和6年12月(1931)	12枚・タイプ	79
第二回地方金融並運輸研究会	昭和6年12月8日(1931)	3枚・タイプ	114
統治部関係会議一覧	昭和6年12月24日(1931)	2枚・タイプ	135
統治部	昭和〔6年〕-7年(1931-32)	17種	49
交通通信ニ関スル条約案 添付第一号〔「交通通信管理機関組織案」(添付第二号)・「満蒙鉄道資本関係」(添付第三号)同綴〕		1綴・タイプ・ペン	32
統一運賃適用ニ依ル東北各鉄路収入予想〔添付第四号〕		1綴・タイプ・ペン	33
交通通信ニ日本人ヲ使用シ得ル見込数〔添付第五号〕		1綴・タイプ・ペン	34
新線工事所要土工数〔添付第六号〕		1綴・タイプ・ペン	35
〔東北交通委員会日本人職員に関する件〕		1綴・タイプ	36
満鉄編輯「満蒙ノ道路」抜粋		1綴・蒟蒻版	37
奉天省各県長途汽車公司及路程一覧表(東北年鑑抜粋)		1綴・蒟蒻版	38
日本内地公道ノ種別		1綴・蒟蒻版	39
清算業務ニ就テ〔其ノ一・其ノ二〕		1綴・タイプ	40
東北四省鉄道網計画 陸軍罫紙		1綴・ペン	41
自動車交通事業ノ統制方針		1綴・タイプ・ペン	42
交通政策ノ実行方法〔特務部作成「満蒙交通通信政策要項」同綴〕	昭和7年2月	1綴・タイプ・ペン	43
〔満洲事変後の満洲各鉄道の状況と、各鉄道に対する関東軍の援助に関する報告〕 陸軍罫紙		1綴・タイプ・ペン	44
鉄道其ノ他経営ニ関スル協定〔附：委任経営鉄道ノ経営監督官々制〕		1綴・ペン	45
道路網計画竝自動車交通事業ニ関スル協議事項		1綴・蒟蒻版	46
各鉄道ノ貨物輸送成績		1綴・タイプ	47
鉄道及之カ附帯営業ニ対スル時局ノ影響 山口重次	昭和6年11月(1931)	1綴・タイプ	48

統一運賃適用ニ依ル東北各鐵路収入予想		4枚・謄写版	157
統一運賃適用ニ依ル東北各鐵路収入予想〔No.157と同文〕		2枚・謄写版	364
〔統一運賃適用ニ依ル東北各鐵路収入予想〕		6枚・タイプ	158
〔統一運賃適用ニ依ル東北各鐵路収入予想 No.158と同文〕		2枚・タイプ	365
満蒙交通通信政策要綱〔No.281の草稿〕 陸軍野紙		1綴・ペン	329
満蒙交通通信政策要綱〔No.266の原稿〕 交通課案・陸軍野紙		1綴・ペン	281
満蒙交通通信政策要綱 交通課	昭和7年2月2日(1932)	5枚・タイプ	266
満蒙交通通信政策要綱〔No.266の修正版〕 特務部	昭和7年2月2日(1932)	1綴・タイプ	265
東北交通政策ノ要綱 第三課囑託 山口重次	昭和6年10月(1931)	54枚・タイプ	267
東北交通政策ノ要綱〔No.267と同文〕 第三課囑託 山口重次	昭和6年10月(1931)	1綴・タイプ	271
〔交通課・交通委員会員名簿〕		7枚・タイプ	268
交通ニ日本人ヲ使用シ得ル見込数〔No.139の原稿〕		3枚・ペン	138
交通ニ日本人ヲ使用シ得ル見込数		4枚・タイプ	139
交通政策実行方法〔No.333の原稿〕 〔山口重次〕		1枚・ペン・タイプ	312
〔交通政策実行方法草稿 No.312の別種〕 〔山口重次〕		1綴・ペン	313
満蒙開発経済政策要綱資料提出ノ件 東北交通委員会 主席顧問代理村上義一→関東軍参謀部第三課森主計正	昭和6年11月(1931)	4枚・タイプ	333
満蒙開発経済政策要綱資料提出ノ件〔通知文のみ〕 東北交通委員会主席顧問代理村上義一→関東軍参謀部第三課森主計正	昭和6年11月(1931)	3枚・タイプ	334
〔満蒙開発経済政策要綱資料 No.333と同文〕		1綴・タイプ	270
〔満蒙開発経済政策要綱資料 No.333と同文〕		1綴・タイプ	352
〔満蒙開発経済政策要綱資料後半部分修正〕		1枚・タイプ・ペン	338
〔流動資金借り入れに関する規定 No.338の加除部分〕		1枚・タイプ	326
〔流動資金借り入れに関する規定 No.326と同文〕		1枚・タイプ	368
交通管理局職制案〔No.269の原稿〕 陸軍野紙		1綴・ペン	277
交通管理局職制案		1綴・タイプ	269
交通通信ニ関スル条約〔No.272の原稿〕 〔山口重次〕		1綴・ペン	339
交通通信ニ関スル条約		1綴・タイプ	272
交通通信管理機関組織		1枚・ペン	274
鉄道並其他交通機関経営及建設権譲渡ニ関スル協約 陸軍野紙		1綴・ペン	317

〔交通の監督に関する取扱規程 第48-69条〕 陸軍野紙		1綴・ペン	319
鉄道及其ノ他ノ交通通信機関管理権委譲ニ関スル条約 陸軍野紙・南満洲鉄道株式会社野紙		1綴・ペン	278
〔交通部に関する規程草稿 前後半部欠〕 〔山口重次〕		1枚・ペン	289
〔交通省組織図〕		1枚・蒟蒻版	105
交通部官制形態ニ関スル件〔附：政府組織表〕 児玉常雄→交通部	昭和7年2月24日(1932)	2枚・ペン・タイプ	120
鉄道及之カ附帯営業ニ対スル時局ノ影響〔No.137の原稿〕 囑託山口重次	昭和6年11月13日(1931)	16枚・ペン	136
鉄道及之カ附帯営業ニ対スル時局ノ影響 囑託山口重次	昭和6年11月(1931)	13枚・タイプ	137

鉄道建設・営業

新設線営業予想表説明・各鉄道旅客貨物数量予想・各鉄道工事竣工予定		10枚・タイプ	369
新設線営業予想表説明		1綴・タイプ	355
新設線営業予想表説明〔No.355と同文〕		5枚・タイプ	162
新設線営業予想表		2枚・タイプ	375
新設線営業予想表〔No.375と同文〕		2枚・タイプ	363
新設線営業予想表〔No.375と同文〕		4枚・タイプ	376
新設線営業予想表〔No.375と同文〕		2枚・タイプ	159
新線工事所要土工数 陸軍野紙		3枚・ペン	119
〔東北諸線資金・評価額一覧表〕 陸軍野紙		1枚・ペン	314
満蒙鉄道資産関係 陸軍野紙		1枚・ペン	315
満蒙鉄道資本関係 陸軍野紙		3枚・ペン	316
〔新線建設費 No.132の原稿〕 陸軍野紙		1枚・ペン	131
〔新線建設費〕 陸軍野紙		1枚・タイプ	132
〔通信施設費〕		1綴・ペン	133
〔A.鉄道関係〕		5枚・タイプ	144
〔満鉄後背地出廻状況・附近地理聴取に関する経緯〕		6枚・タイプ	113
洮索鐵路工程局		1枚・蒟蒻版	378
四洮鐵路貸金及経営契約〔附：借款元利高〕 南満洲鉄道株式会社総裁内田康哉・四洮鐵路管理局局長闕鐸	昭和6年12月1日(1931)	4枚・タイプ・ペン	121
〔瀋海鐵路・吉海鐵路概要〕 〔山口重次〕		3枚・ペン	349
〔吉海鐵路に関するメモ〕 吉林大迫中佐→参長		1枚・ペン	127
〔吉敦・吉長鐵路に関するメモ〕		1枚・ペン	122

中東鐵路地方的等級		8枚・タイプ	166
〔中東鐵路他概要 No.200の原稿〕〔山口重次〕		15枚・ペン	350
〔中東鐵路他概要〕		1綴・タイプ	200
泰山鐵路關係		2枚・タイプ	111
北寧鐵路対英借款内容 陸軍罫紙	昭和7年(1932)	1枚・ペン	328
〔北寧鐵路概要〕		1綴・タイプ	199

呼海鐵路接收

呼海鐵路經營合同 黑竜江省政府省長張景恵・南滿洲鐵道總裁代理宇佐見寛爾	昭和7年1月8日(1932)	4枚・タイプ	147
呼海鐵路經營契約 南滿洲鐵道總裁代理・黑竜江省政府省長	昭和7年(1932)	5枚・タイプ	151
呼海線整理要綱 哈爾濱事務所原稿罫紙		6枚・ペン	115
呼海鐵路公司〔職員名簿〕		1枚・薊蕪版	276
黑竜江省官銀号復業資金借款合同 黑竜江省政府省長・南滿洲鐵道總裁代理	昭和7年(1932)	12枚・タイプ	148
黑竜江省官銀号復業資金貸借契約		10枚・タイプ	348

松花江水運關係機關整理

在松花江官有船舶ノ經營実行案	昭和7年2月29日(1932)	5枚・ペン	140
在松花江官有船舶經營ニ関スル件〔No.110の起案文〕 參謀長→哈爾濱特務機關長土肥原大佐	昭和7年3月1日(1932)	4枚・ペン	117
在松花江官有船舶經營ニ関スル件 関東軍參謀長三宅光治→哈爾濱特務機關長土肥原大佐	昭和7年3月2日(1932)	5枚・タイプ	110
在松花江官有船舶經營ニ関スル件〔No.110と同文〕 関東軍參謀長三宅光治→哈爾濱特務機關長土肥原大佐		1綴・タイプ	283
在松花江官有船舶ノ經營実行案〔No.141の草稿〕		6枚・ペン	142
〔在松花江官有船舶ノ經營実行案〕 関東軍參謀長三宅光治→哈爾濱特務機關長土肥原大佐	昭和7年3月2日(1932)	5枚・タイプ	141
松江航務部暫行章程 行政委員長		2枚・タイプ	164
松江航務部暫行章程〔No.164と同文〕 行政委員長		2枚・タイプ	337
暫行松江航務部章程〔No.164の草稿〕		5枚・ペン	116
松江航務部設立ノ件〔No.149の命令案草稿〕		2枚・ペン	118
松江航務部設立ノ件(交通總長ヨリ東北航務局等ニ対スル命令案)・暫行松江航務部章程		3枚・タイプ	149
松江航務部設立ノ件・暫行松江航務部章程〔No.149と同文〕		3枚・タイプ	383
松江航務部設立ノ件・暫行松江航務部章程〔No.150と同文〕		3枚・タイプ	335

山口重次文書目録 / 公的活動(満洲) / 関東軍統治部交通課長

松江航務部設立ノ件・暫行松江航務部章程〔No.151と 同文〕		3枚・タイプ	336
在松花江船舶系統 陸軍罫紙		1綴・ペン	273
〔松江航務部設立に関するメモ〕 関東軍特務部山口		1枚・ペン	130
満洲事変史「交通之部」ノ六 松江航務部編		1綴・ペン	275
〔在満鐵路概要・松黒烏諸河川の海軍江防と水上事業 関係の諸機関及系統に就て他〕		1綴・タイプ	282
〔河川事業関係組織化等に関する書類〕		1綴・タイプ	285
東北造船所一九二九年度収支決算表(大洋元)	昭和5年(1930)	2枚・タイプ	152
東北造船所未支払及未収金表(二月十九日現在)	2月19日	4枚・タイプ	153
東北造船所民国十八年度予算並十九年度予算比較表	民国18年(1929)	6枚・タイプ	155
東北商船学校経費		4枚・タイプ	150
東北水道局経費ノ一部(毎年支出)		2枚・タイプ	259
〔総務司・鉄道司・水運司職員名簿〕		1綴・タイプ	341
〔総務司・鉄道司・水運司職員名簿 No.341と同文〕 陸軍用紙		5枚・タイプ	347

個別政策

軍管理鉄道ノ営業代行ニ関スル件 国際運輸株式会社 用紙		1枚・タイプ・ペン	332
装甲自動車日程表 国際運輸株式会社罫紙		2枚・タイプ	128
敦化海林間自動車道路建設費予算		4枚・タイプ	160
東北聯合工務局総章程(草案)		15枚・タイプ	165
東北聯合工務局毛利中職員賞与分配表	昭和〔5年〕(1930)	3枚・タイプ	154
東北工務局董事会編制表		1綴・謄写版	264
一九三二年一―三月収支予算(一月十一日第三五次 董事会会議録)	昭和7年(1932)	4枚・タイプ	156
葫蘆島築港費花旗銀行ニ支払ノ件 特務部長→奉天省 最高顧問金井章次	昭和7年3月11日(1932)	1枚・ペン	126
経済連盟規約	昭和	1綴・タイプ	76
幣制及金融諮問事項		3枚・タイプ	384
〔満洲流通貨幣・幣制に関する会議メモ〕 陸軍罫紙		7枚・ペン	11
東北大学附属工場調査員派遣ノ件〔書込「次長ノ意見 ニ依り中止」〕 →満鉄総裁内田康哉 陸軍罫紙	昭和	1枚・ペン	318
東北大学附属工場経営ノ件 〔山口重次〕 陸軍罫紙		1枚・ペン	288
申請書〔満蒙無線電信事業許可申請書〕 満蒙無線電信 株式会社創立事務所創立委員長本多貞次郎→関東軍司令官 本庄繁	昭和6年12月26日(1931)	1綴・タイプ・ペン	8

〔満蒙無線電信株式会社趣旨書〕 満蒙無線電信株式会社創立事務所		1綴・タイプ	9
〔電話番号変更の件〕 東北交通委員会→関東軍統治部交通課	昭和〔7年〕1月21日(1932)	1枚・タイプ	145

メモ・雑書類

招待状〔出欠連絡に関するメモ同封〕 関東軍司令官本庄繁→山口重次	昭和7年1月25日(1932)	1枚・活版	70
〔営業課長より鉄道部長宛奉天派遣起案に関する下書〕〔山口重次〕 陸軍罫紙		1枚・ペン	299
〔交通課長より鉄道部気付後宮大佐宛協定書写送付ノ件起案下書〕〔山口重次〕 陸軍罫紙		1枚・ペン	300
〔重役人事等に関する意見 前半部欠〕		1枚・タイプ	104
〔数字メモ〕〔山口重次〕 陸軍罫紙		1枚・ペン	290
〔満洲駅間に関するメモ〕〔山口重次〕 陸軍罫紙		1枚・ペン	291
〔経費に関するメモ〕〔山口重次〕 陸軍罫紙		1枚・ペン	292
〔用兵・治安維持に関するメモ〕〔山口重次〕 陸軍罫紙		1枚・ペン	293
〔郵務局・水運局人員に関するメモ〕〔山口重次〕 陸軍罫紙		1枚・ペン	294
〔処理すべき事務に関するメモ〕〔山口重次〕 陸軍罫紙		1枚・ペン	295
〔株式原簿・営業状態・財産状態・人物考査に関するメモ〕〔山口重次〕 陸軍罫紙		1枚・ペン	296
〔金額に関するメモ〕〔山口重次〕 陸軍罫紙		1枚・ペン	297
〔人物考査に関するメモ〕〔山口重次〕 陸軍罫紙		1枚・ペン	298
〔満洲内鉄路局に関するメモ〕〔山口重次〕 陸軍罫紙		1枚・ペン	301
〔各鉄路局権利に関するメモ〕〔山口重次〕 陸軍罫紙		1枚・ペン	302
〔各鉄路局経営に関するメモ〕〔山口重次〕 陸軍罫紙		1枚・ペン	303
〔満洲国・関東軍・満鉄の権利に関するメモ〕〔山口重次〕 陸軍罫紙		1枚・ペン	304
〔特務部より顧問部宛奉山路貸付に関する起案下書〕〔山口重次〕 陸軍罫紙		1枚・ペン	305
〔鉄道権利に関するメモ〕〔山口重次〕 陸軍罫紙		1枚・ペン	306
〔鉄道局・総務司人員に関するメモ〕〔山口重次〕 陸軍罫紙		1枚・ペン	307
〔交通通信等部門大別に関するメモ〕〔山口重次〕 陸軍罫紙		1枚・ペン	309
〔吉敦延長線建造請負契約等に関するメモ〕〔山口重次〕 陸軍罫紙		1枚・ペン	310
〔俸給等に関するメモ〕〔山口重次〕 陸軍罫紙		1枚・ペン	311

山口重次文書目録 / 公的活動(満洲) / 関東軍統治部交通課長

〔池田耕一に関するメモ〕〔山口重次〕陸軍罫紙		1枚・ペン	321
〔奉天駅間に関するメモ〕〔山口重次〕陸軍罫紙		1枚・ペン	322
〔鉄道司人員に関するメモ〕〔山口重次〕陸軍罫紙		1枚・ペン	343
〔各鉄路局管理に関するメモ〕〔山口重次〕陸軍罫紙		1枚・ペン	344
〔鉄路局中国人名簿〕〔山口重次〕南満洲鉄道株式会社罫紙		1枚・ペン	345
〔吉海線他輸送量に関するメモ〕〔山口重次〕南満洲鉄道株式会社用箋		3枚・ペン	346
〔参謀部第二課和知参謀電信電話・自治指導部・青聯関係・特産関係等メモ〕〔山口重次〕		1枚・ペン	123
〔満洲各線の現状に関するメモ〕〔山口重次〕		1枚・ペン	124
〔鉄道警備に関するメモ〕陸軍罫紙		1枚・ペン	125
〔管理権に関するメモ〕陸軍罫紙		1枚・ペン	340
〔電話局従業員の採用について〕		1枚・タイプ	327
奉天 昭和六年十二月現在 空家調	昭和6年12月(1931)	2枚・謄写版	324
満洲事変解決ニ関スル対英政策建白書	昭和6年11月6日(1931)	5枚・タイプ	146

Sub-Series No.3: 東北交通委員会秘書

東北交通委員会設立総会	昭和6年10月23日(1931)	1綴・タイプ	371
東北交通委員会設立総会〔no.371にある議事欠〕	昭和6年10月23日(1931)	1枚・タイプ	366
第一回交通委員成立会	10月23日	1枚・タイプ	370
東北交通委員会章程		1綴・タイプ	372
東北交通委員会章程〔No.372と同文〕		2枚・タイプ	377
東北交通委員会章程〔1頁目のみ〕		1枚・タイプ	367
〔東北交通委員会章程 2頁目のみ〕		1枚・タイプ	373
東北交通委員会中国人従業員調		7枚・タイプ	331
東北交通委員会中国人従業員調〔No.331と同文〕		4部・タイプ	374
東北交通委員会中国人従業員調〔1頁目のみ〕		1枚・タイプ	381
東北交通委員会事務及什器引継方法打合		4枚・タイプ	382
東北交通委員会鉄道計画会議決定幹支線建設順序		1綴・タイプ	263
東北交通委員会ノ政策要綱 第三課囑託山口重次	昭和6年10月(1931)	1綴・タイプ	284
〔交通委員会設置に関する件〕 鉄道部長(部長ノ命ニ依リ 山口重次)→吉林公所長 南満洲鉄道株式会社罫紙	昭和6年10月25日(1931)	1枚・ペン	129
〔交通委員会開所式に関するメモ〕〔山口重次〕陸軍罫紙		1枚・ペン	308

〔交通委員会職員数に関するメモ〕〔山口重次〕陸軍 昇紙		1枚・ペン	325
東北鉄道網計画〔附 東北交通委員会鉄道網計画会 議決定幹支線表・全幹支線建設順序〕東北交通委員 会顧問オストラモフ建議 訳文責任者仲本囑託		1綴・タイプ	286
東北鉄路網計画 訳文 盧景貴案 訳文責任者仲本囑託		1綴・タイプ	279
顧問会議打合せ事項〔交通委員会山口出席〕	昭和6年11月17日(1931)	2枚・タイプ	112

Sub-Series No.4: 瀋海鉄路保安維持会監事長秘書

監事長就任訓辞要項 陸軍昇紙	昭和6年10月13日(1931)	1綴・ペン	30
〔監事長就任訓辞要項 中文〕瀋海鉄路公司処用紙	昭和6年10月(1931)	1綴・墨書	31
瀋海鉄路業務開始ニ関スル件 奉天市政公所長土肥原賢 二→関東軍司令官本庄繁	昭和6年10月(1931)	1綴・タイプ	20
瀋海鉄路業務開始ニ関スル件〔No.20と同文〕奉天市 政公所長土肥原賢二→関東軍司令官本庄繁	昭和6年10月(1931)	3枚・タイプ	23
瀋海鉄路公司整理ニ関スル経緯	昭和6年10月(1931)	32枚・タイプ	24
関統発第二六一号 業務連絡ニ関スル件通牒 関東 軍統治部長駒井徳三→瀋海鉄路主席顧問	昭和6年12月21日(1931)	1綴・タイプ	21
公用車車輛規則遵守ノ件 〔瀋海鉄路〕参事→〔瀋海鉄路〕 顧問	昭和6年12月26日(1931)	1綴・タイプ	22
瀋海鉄路保安維持会訓令第三号		1枚・タイプ	353

Sub-Series No.5: 齊克鉄路復興委員

齊克線整理第二報 山口重次・浜本一人	昭和6年11月24日(1931)	2枚・タイプ	358
第五章 設立準備事務開始〔満洲事变史「交通之部」 第3卷齊克鉄路編の表紙に綴込。「日本再建方策」 (戦後)の書き込みあり〕		7枚・タイプ	58

Sub-Series No.6: 満洲国協和会中央事務局次長

創設関係

〔満洲青年聯盟に関する原稿断片 前後半部欠〕〔山 口重次〕満洲帝国政府原稿用紙	昭和	1枚・ペン	230
自治指導部創設ノ思出 中西敏憲	昭和11年9月18日(1936)	1綴・タイプ	206
調査項目 自治指導部用紙		3枚・タイプ	103
満洲国協和青年党組織		1枚・謄写版	256
協和党設立ノ趣意		1枚・タイプ	238
協和党設立ノ趣意・宣言・綱領		5枚・タイプ	239
協和党設立ノ趣意・宣言・綱領・協和党規約・協和党設 立ノ趣意		1綴・タイプ	240

声明書ノ大意・協和党設立ノ趣意・宣言・綱領		1綴・タイプ	241
〔協和党規約・宣言〕		7枚・タイプ	217
〔協和党規約第21・22条〕		1枚・タイプ	242
〔政府・中央銀行・資本統制機関組織表〕〔山口重次〕 満洲協和党原稿用紙		1枚・ペン	342
許可指令案〔満洲国協和会設立〕		1綴・タイプ	198
許可指令案〔No.198と同文〕		2枚・タイプ	218

組織関係

満洲国協和会ノ概容 満洲国協和会用紙	大同1年(1932)	1枚・タイプ	236
〔満洲国協和会概要 No.236の続き〕		1綴・タイプ	203
満文 協和会指導要綱〔封筒〕		1枚・墨書	3
〔協和会指導要綱原稿〕 満洲帝国政府異紙		1部・ペン	2
〔協和会工作員用工作指導要領 No.5と内容若干相違〕		1綴・謄写版	4
〔協和会工作員用工作指導要領 No.4と内容若干相違〕		1綴・謄写版	5
協和会史資料集 第二輯 設立準備時代ノ諸資料 〔一部頁欠。表題と無関係の文書一部混入カ〕 満洲 帝国協和会中央本部	康德7年7月(1940)	1綴・タイプ・ペン	387
協和会史資料集 第四輯 中央事務局新京移転前後 満洲帝国協和会中央本部	康德8年8月(1941)	1綴・タイプ・ペン	388
思想方策並実施機構組織案		1綴・タイプ	60
思想方策並実施機構組織案〔No.60と同文〕		1綴・タイプ	192

北満特別工作

第四号 満洲協和会北満特別工作詳報 満洲協和会	大同1年6月4日(1932)	1枚・謄写版	50
〔満洲国協和会北満特別工作詳報 泰安鎮班〕 満洲 国協和会	大同1年6月7日(1932)	1綴・謄写版	56
第17号 満洲国協和会北満特別工作詳報〔拉哈班〕 満洲国協和会	大同1年6月8日(1932)	1綴・謄写版	54
〔満洲国協和会北満特別工作詳報 拉哈班・齊々哈爾 班〕 満洲国協和会	大同1年6月11日(1932)	1綴・謄写版	55
第32号 満洲国協和会北満特別工作詳報〔訥河班〕 満洲国協和会	大同1年7月2日(1932)	1綴・謄写版	51
第34号 満洲国協和会北満特別工作詳報〔克山班〕 満洲国協和会	大同1年7月2日(1932)	1綴・謄写版	52
第36号 満洲国協和会北満特別工作詳報〔昂々溪班〕 満洲国協和会	大同1年6月24日(1932)	1綴・謄写版	53
〔安達站より工作日誌〕	大同1年6月6日(1932)	1枚・タイプ	247

西部北満地方鎮撫並經濟復興実施案 満洲国協和会中央事務局	大同1年11月5日(1932)	12枚・タイプ	221
歩兵第三十聯隊配属宣撫員服務期日場所一覽表		1綴・ペン	202

東辺道特別工作

〔東辺道背面工作特派員報告通知〕 協和党用紙	6月2日	1枚・タイプ	210
東辺道背面工作情報 満洲協和会	大同1年6月2日(1932)	1枚・タイプ	235
東辺第壱号 東辺背面工作情報 満洲協和会	大同1年5月31日(1932)	11枚・謄写版	25
東辺第二号 東辺背面工作情報 満洲協和会	大同1年6月4日(1932)	24枚・謄写版	26
東辺第三号 東辺背面工作情報 満洲協和会	大同1年6月6日(1932)	7枚・謄写版	27
東辺道政治工作 奉天省公署	大同1年(1932)	1綴・タイプ	57
東辺道特殊工作方針		1枚・タイプ	262
第二次東辺道工作		1枚・ペン	260
東辺道内分社設置予定表 東辺商工日報社罫紙		2枚・ペン	219
〔治安肅正に関する昭和7年5月28日付山口宛マスタ電報・同年6月1日付山口宛ホリ電報〕 ホリ・マスタ→山口重次	昭和7年5月28日6月1日(1932)	3枚・タイプ	10
東辺救国義勇軍ニ関スル件 益田京三→満洲協和会設立委員会	大同1年6月1日(1932)	5枚・タイプ	213
鮮匪ノ動静ニ関スル件 益田京三→満洲協和会設立委員会	大同1年6月1日(1932)	2枚・タイプ	214
寛甸県ノ現状 益田京三→満洲協和会設立委員会	大同1年6月1日(1932)	2枚・タイプ	211
輯安県ノ情況 益田京三→満洲協和会設立委員会	大同1年6月1日(1932)	5枚・タイプ	212
辞令書〔東辺道工作員を命ず〕 中央事務局次長	大同1年10月4日(1932)	2枚・ペン	261
齊克沿線ノ大豆出回り予想 協和会委員山口重次・大羽時男	大同1年11月27日(1932)	7枚・ペン	228
訥河県要人トノ会見記 山口重次・大羽時男	大同1年11月27日(1932)	10枚・ペン	229
勞工進行会ニ関スル報告書送付ノ件 協和会中央事務局次長山口重次	大同2年7月12日(1933)	1綴・タイプ	216
聯合会總會決議概要報告ノ件〔後半部欠〕 齊克沿線各県維持經濟連合会	大同2年9月22日(1933)	2枚・タイプ	222
〔宣伝班報告綴〕		1綴・タイプ	207

精神工作

満洲国建国宣言 満洲国政府	大同1年3月1日(1932)	5枚・タイプ	204
満洲ヲ中心トシテ組織サルヘキ王道革新基本綱領		1綴・タイプ	224
王道革新体組織方策		1綴・ペン	201
宣伝標語		8枚・タイプ	28

宣伝ビラ		11枚・タイプ	29
満洲事変ノ意義ト満洲建国ノ理想		1綴・タイプ	193
〔満洲国協和会と執政宣言について〕		1枚・タイプ	237
建国テーゼノ展開 満洲国協和会用紙		1綴・タイプ	197
〔王道建設について〕 満洲国協和会用紙		1綴・タイプ	194
〔王道建設について No.194と 同文〕 満洲国協和会用紙		1綴・タイプ	195
〔王道建設について No.195と 同文〕 満洲国協和会用紙		3枚・タイプ	225
〔王道建設について No.196と 同文〕 満洲国協和会用紙		1綴・タイプ	226
〔民族協和・協和運動について 前後半部欠〕 満洲帝国協和会用紙		1綴・タイプ	220
〔民族協和の意義 後半部欠〕 満洲帝国協和会奉天省本部用箋		2枚・タイプ	243
〔協和運動の四要素 前半部欠〕 満洲帝国協和会奉天省本部用箋		4枚・タイプ	244
〔満洲建国前後の中国共産党について〕	昭和〔7年〕(1932)	1枚・ペン	71
旬報十月下旬第三号〔題目「北支研究旅行報告」〕	昭和〔8年〕(1933)	1綴・謄写版	59
第九講 群衆団体ハ統一的ナルヲ要ス 駐在中華民国満洲帝国通商代表部天津辦事処野紙		2枚・タイプ	233
〔民主化について〕〔山口重次〕 駐在中華民国満洲帝国通商代表部天津辦事処野紙		1枚・ペン	234
〔抗戦工作に關して〕 駐在中華民国満洲帝国通商代表部天津辦事処野紙		1綴・タイプ	18
宣伝ビラ写〔「蒋介石の真仮面具」・「華北民衆速求自決」・「覚醒!!覚醒!!」・「良心救国伝単」〕 満洲国協和会野紙		1綴・ペン	209
若シ極東戦ハバ?〔上海発刊の雑誌『自由言論』掲載論文〕		1綴・タイプ	361
支那革命外史 英独ノ元寇襲来〔北一輝『支那革命外史』第20章抜録〕		1綴・タイプ	85
その他			
委員会報告附議事項 満洲国協和会用紙	康德1年8月19日(1934)	3枚・タイプ・ペン	223
日満官民棉花問題座談會計画案 満洲国協和会奉天地方事務局	昭和8年(1933)	1綴・タイプ	61
協和会住宅新築工事手直シ経過報告並竣工調書		1綴・タイプ	205
特産物下落ニ対スル対策〔山口次長・奥村毅・大羽他座談会記録〕	10月17日	1綴・ペン	208
満洲国対欧宣伝外交策意見 満洲国協和会	大同1年10月17日(1932)	5枚・タイプ	215

満洲旗人ノ政治的生命 満洲国協和会用紙	大同2年2年(1933)	1綴・タイプ	95
〔日満戦時対策方案 前半部欠〕		11枚・タイプ	245
〔「革命後」と題する年表 後半欠〕		1枚・ペン	69
御前講演要旨 山口重次	康德1年(1934)	1綴・タイプ	16
御前講演要旨 満洲国協和会中央事務局次長山口重次	昭和9年(1934)	1綴・タイプ	74
〔溥儀の勅語 前半部欠〕	康德7年7月15日(1941)	1枚・タイプ	246
〔在満洲国日本人の横暴について 1-24頁欠〕		5枚・タイプ	88
〔協和会の現勢に就て他〕 満洲国協和会用紙	昭和9年(1934)	1綴・タイプ	62
〔断二生キル道〕骨子〔協和運動の今後〕	康德1年(1934)	3枚・タイプ	82
〔電報・書簡控〕 山口重次→軍政部多田〔駿〕少将・協和会小 沢開策・近藤・板垣〔征四郎〕・松田〔令輔〕・浅野・東宮〔鉄男〕・ 遠藤〔柳作〕・小林・高須	康德1年(1934)	37枚・ペン	12
〔依蘭問題について〕 山口→仙台歩兵第四聯隊石原莞爾	昭和	1綴・ペン	227
〔石原莞爾について〕 〔山口重次〕		1枚・ペン	231
〔韓雲階について戦後の回顧〕	昭和	1綴・ペン	196

Sub-Series No.7: 東亜産業協合理事長

事業関係

東亜産業協会事業部案 東亜産業協会	大同2年11月10日(1933)	1綴・タイプ	94
第六回理事打合会議事録 東亜産業協会	康德1年10月12日(1934)	1綴・タイプ	92
〔定款変更に関する件〕 東亜産業協会会長代理阪谷希一	康德2年1月10日(1935)	3枚・タイプ	100
東亜産業協会事業方針案	康德2年1月(1935)	1綴・タイプ	90
東亜産業協会定款変更案	康德2年1月(1935)	1綴・タイプ	93
〔東亜産業協会事業方針に関する件〕 石本憲治→阪谷 希一	昭和10年2月21日(1935)	1枚・タイプ	101
協会内部機構改革ニ関スル件 関東軍参謀部第三課長 原田熊吉→東亜産業協会会長代理阪谷希一	昭和10年3月29日(1935)	1綴・タイプ	86
東亜産業協会定款変更案	康德2年4月(1935)	1綴・タイプ	91
第九回理事打合会議事録 東亜産業協会	康德2年4月10日(1935)	1綴・タイプ	89
第七回評議員会議事録 東亜産業協会	康德2年12月26日(1935)	1綴・タイプ	87
総括予算〔前半部欠〕 東亜産業協会用紙		1枚・タイプ	99
〔列国ノ北支ニ於ケル現勢〕 東亜産業協会野紙	昭和9年11月11日(1934)	1綴・タイプ	1
産協経報号外 対英二千磅借款ノ真相 東亜産業協会 用紙	昭和10年5月20日(1935)	1綴・タイプ	102
満洲ヲ中心トシテ組織サルヘキ王道革新基本綱領 東亜産業協会野紙		4枚・タイプ	106

内蒙工作

察哈爾事情一般ニツイテ 東亜産業協会罫紙	大同2年9月28日(1933)	30枚・タイプ	108
内蒙自治ニ対シテ政府ノ為スヘキコト〔『大公報』彭立宇論述他〕 満洲国協和会罫紙	10月9日	1綴・タイプ	109
察哈爾王公連絡ニ関スル件 東亜産業協会罫紙	大同2年11月29日(1933)	2綴・タイプ	107
蒙古王公トノ座談会内容報告 東亜産業協会	大同2年12月20日(1933)	1枚・タイプ	84
第二次蒙古王公トノ座談会内容 東亜産業協会罫紙	大同2年12月(1933)	1綴・タイプ	97
蒙古国建設要領 正珠爾礼布		1綴・タイプ	96
察哈爾独立軍編成計画		1綴・タイプ	98

Sub-Series No.8: 奉天市政公署参事官

市政改革ニ関スル件 奉天市政公署参事官山口重次→奉天特務機関長土肥原少将	康德3年2月16日(1936)	2枚・タイプ	362
財団法人奉天市同前堂設立認可申請書 奉天市政公署奉天市長 王慶璋	昭和11年3月1日(1936)	1綴・タイプ	73
〔市公署人員減に関する請訓下書〕		1枚・ペン	232

Sub-Series No.9: 牡丹江省次長

東北満洲対裏日本交通革新要綱 関東軍司令部	昭和13年1月21日(1938)	1綴・タイプ	185
軍省連絡会議要旨	康德5年6月25日(1938)	1綴・タイプ	183
東満振興工作第二次計画会議議案 牡丹江省		1綴・タイプ	184
牡丹江省省政概要	昭和〔13年〕(1938)	9枚・タイプ・ペン	186
特殊行政概要〔東満開発〕		1綴・ペン	187
機構及人事関係 牡丹江省	康德5年6月20日(1938)	2枚・タイプ	188
篤志家ニ懇フ 牡丹江省山口重次		1綴・タイプ	190
牡丹江省公署青年隊庶務班名簿		1綴・タイプ	189
牡丹江省公署青年隊実業班名簿〔前半部欠〕		1枚・タイプ	330
〔牡丹江市人名メモ〕		5枚・ペン	68
山口・石田・内藤三氏歓迎懇談会主席者名	5月22日	1枚・タイプ	83
山口次長辞任挨拶名簿 庶務掛	康德5年(1938)	3枚・ペン	80
山口次長辞任挨拶順序 庶務掛	昭和〔13年〕(1938)	4枚・ペン	167
軍関係〔関係者名メモ〕	昭和〔13年〕(1938)	5枚・ペン	168
協和会〔関係者名メモ〕 奉天市政公署罫紙	昭和〔13年〕(1938)	2枚・ペン	169

中央銀行関係〔関係者名メモ〕	昭和〔13年〕(1938)	1枚・ペン	170
新京〔在住関係者名メモ〕 奉天市公署罫紙	昭和〔13年〕(1938)	2枚・ペン	171
新京政府〔関係者名メモ〕 奉天市公署罫紙	昭和〔13年〕(1938)	1枚・ペン	172
奉天〔在住関係者名メモ〕 奉天市公署罫紙	昭和〔13年〕(1938)	2枚・ペン	173
大連・旅順〔在住関係者名メモ〕 奉天市公署罫紙	昭和〔13年〕(1938)	2枚・ペン	174
吉林・安東〔在住関係者名メモ〕 奉天市公署罫紙	昭和〔13年〕(1938)	1枚・ペン	175
東京・横浜・千葉〔在住関係者名メモ〕 奉天市公署罫紙	昭和〔13年〕(1938)	1枚・ペン	176
朝鮮・大阪〔在住関係者名メモ〕 奉天市公署罫紙	昭和〔13年〕(1938)	1枚・ペン	177
内地〔在住関係者名メモ〕 奉天市公署罫紙	昭和〔13年〕(1938)	1枚・ペン	178
雑〔満洲・中国在住関係者名メモ〕 奉天市公署罫紙	昭和〔13年〕(1938)	2枚・ペン	179
〔未使用奉天市公署罫紙〕 奉天市公署罫紙	昭和〔13年〕(1938)	1枚・ペン	180
奉天省管下県本部〔協和会関係者名メモ〕 満洲帝国協和会奉天省本部原稿用紙	昭和〔13年〕(1938)	2枚・ペン	181
〔満鉄・協和会等関係者名メモ〕	昭和〔13年〕(1938)	2枚・ペン	182

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
Series No2: 個人			
Sub-Series No.1: 書類			
〔満州事変史編集協力依頼〕 山口重次→花谷中佐	昭和10年7月1日(1935)	1綴・タイプ	359
〔満州事変史編集協力依頼 No.359の宛名無し〕		1綴・タイプ	360
満洲事変史配布名簿		2枚・タイプ	380
講演資料〔東満ノ開発ト新潟港〕〔山口重次〕	昭和14年(1939)	22枚・ペン	15
最近十五ヶ年間ニ於ケル入離満労働者表	康德7年(1941)	1枚・ペン	379
奉天千葉県人名簿	昭和14年11月(1939)	1枚・タイプ	386
在奉天千葉県人会会則並ニ沿革概況	昭和〔16〕年(1941)	1枚・タイプ	385
〔文筆家・著述家の仮指定と異議申立について〕	昭和23年3月(1948)	2枚・タイプ	13
著述家の仮指定に対する異議申立の件 山口重次	昭和23年4月(1948)	1綴・タイプ	7
〔異議申立理由原稿〕 山口重次	昭和23年(1948)	8枚・ペン	6
著述家仮指定ニ対スル異議ノ申立 山口重次	昭和	2枚・ペン	67
日本経済の概観〔山口重次〕	昭和〔27年〕(1952)	1綴・ペン	78
陳述書(第二案)〔戦後作成された山口の履歴〕 山口重次		1枚・タイプ	81
Master Card〔山口の履歴メモ〕	昭和	17枚・ペン	14
財団法人国際親善協会華僑留学生後援会役員名簿	昭和〔30年〕(1955)	1枚・ペン	248
承諾書〔財団法人国際親善協会華僑留学生後援会役員就任〕 財団法人国際親善協会会長東久邇稔彦→華僑留学生後援会	昭和30年(1955)	1枚・ペン	249
承諾書〔財団法人国際親善協会華僑留学生後援会役員就任〕 財団法人国際親善協会理事長森昇三郎→財団法人国際親善協会華僑留学生後援会会長東久邇稔彦	昭和30年(1955)	1枚・タイプ・ペン	250
承諾書〔財団法人国際親善協会華僑留学生後援会役員就任〕 弟子丸泰雄→財団法人国際親善協会華僑留学生後援会会長東久邇稔彦	昭和30年(1955)	1枚・タイプ・ペン	251
承諾書〔財団法人国際親善協会華僑留学生後援会役員就任〕 福田篤泰→財団法人国際親善協会華僑留学生後援会会長東久邇稔彦	昭和30年(1955)	1枚・タイプ・ペン	252
承諾書〔財団法人国際親善協会華僑留学生後援会役員就任〕 松前重義→財団法人国際親善協会華僑留学生後援会会長東久邇稔彦	昭和30年(1955)	1枚・タイプ・ペン	253
承諾書〔財団法人国際親善協会華僑留学生後援会役員就任〕 山口重次→財団法人国際親善協会華僑留学生後援会会長東久邇稔彦	昭和30年(1955)	1枚・タイプ・ペン	254
承諾書〔財団法人国際親善協会華僑留学生後援会役員就任。未使用〕 →財団法人国際親善協会華僑留学生後援会会長東久邇稔彦	昭和30年(1955)	15枚・タイプ	255

名刺整理帳〔国会議員・大学関係・出版・銀行・企業・公安・その他に分類。植木庚子郎・秦郁彦・樋口清之・住江金之・笹川良一・後藤文夫他304名〕	1冊	389
名刺整理帳〔山口重次・東亜連盟・協和党・企画院・軍人・新聞社・駐日大使館・新民会・興亜院・南京・北京・齊南・上海・満鉄・官庁・大同学院・協和会・新京・大連・奉天・西安・治安・天津・熱河・復県・龍江省・間島・安東・鞍山・吉林・赤峰・張家口・撫順・熊岳城・牡丹江・ハルピンと分類。池田純久・片倉衷・彭金山他682名〕	1冊	390
封筒〔「山口重次様 原稿在中」中身欠〕 河出書房新社用封筒	1枚・ペン	191

Sub-Series No.2: 書簡

修県長全行打合報告書 池田惣一	大同1年7月14日(1932)	1通・墨書	400
書簡〔四平街出張困難〕 石原重高→山口重次	昭和6年10月9日(1931)	1通・ペン	392
書簡〔満洲建国精神の件〕 片倉衷→山口重次	昭和8年7月18日(1933)	1通・墨書	402
書簡〔波多野玄猷協和会就職斡旋。寄書同封〕 中西敏憲→山口重次	昭和〔7年〕7月10日(1932)	1通・墨書	391
書簡〔本文欠。波多野玄猷履歴書同封〕 中西敏憲→山口重次	昭和〔7年〕7月10日(1932)	1通・墨書	398
書簡〔近況報告。年月日不明山口宛新宮書簡および書類〔国際運輸ノ瀋海線進出希望条件〕同封〕 森田成之→山口重次	9月30日	1通・墨書	404
書簡〔近況報告〕 山口よし→山口重次	12月9日	1通・墨書	405
書簡〔見舞状。協和会全国連合および勲章授与のこと。昭和16年10月6日付『満洲新聞』切抜(山口重次「本年度全連の役割一 興亜運動との連携 北方拠点の要請に応ふ」)同封〕 山口よし→山口重次	昭和16年(1941)	1通・墨書	406
書簡〔近況報告、金円用途相談〕 山口重次→山口よし	大同1年12月16日(1932)	1通・墨書	397
書簡〔近況報告〕 山口重次→山口よし	昭和2月28日	1通・墨書	399
書簡〔本文欠。出納原簿同封〕 山口重次→竜江駅平野駅長	昭和〔7年〕1月3日(1932)	1通・墨書	403
書簡〔国際電話施設実現促進の件。名刺同封〕 安部十二造→駒井徳三	昭和1月9日	1通・墨書	401
書簡〔日滿無線電話実現促進の件草稿〕 関東軍統治部→土肥原特務機関長		1通・墨書	407
書簡〔面談・就職斡旋〕 斎藤寛→山本澄江		1通・墨書	408
書簡〔面会御礼〕 山本聖陽→飯沼守	昭和17年9月8日(1942)	1通・墨書	396
書簡〔来訪時間通知依頼〕 山本聖陽→飯沼守	昭和17年10月8日(1942)	1通・墨書	394
書簡〔来訪御礼〕 山本聖陽→飯沼守	昭和17年10月26日(1942)	1通・墨書	395
書簡〔近況報告〕 山本聖陽→飯沼守	昭和〔17年〕12月7日(1942)	1通・墨書	393

赤井春海文書目録

赤井春海文書目録 本文細目次

Series No1: 日記類	123
Series No2: 詩集・随想	124
Series No3: 書簡	125

赤井春海文書目録 解題

(3.1.1) 資料記号：2009N

(3.1.2) 資料名称：赤井春海文書：The Paper's of AKAI, Harumi

(3.1.3) 年代：1909（明治42）年－1945（昭和20）年

(3.1.5) 物的状態：75点（0.40m）

(3.2.4) 来歴：赤井春海文書は、2008年度に古書店より購入したものである。

(3.2.2) 履歴：赤井春海は明治6年（1873）6月に士族赤井潔の次男として千葉県に生まれた。陸軍幼年学校を経て30年（1897）11月に陸軍士官学校を卒業。31年（1898）6月に近衛歩兵第4連隊付となり、35年（1902）8月に陸軍大学校入学。日露開戦により37年（1904）2月陸大を中退、翌月近衛歩兵第4連隊中隊長として出征し戦傷を負う。38年（1905）5月に陸軍士官学校教官となり、翌39年（1906）3月に陸大復校。40年（1907）11月に陸大を卒業し参謀本部付、翌年4月に参謀本部員となる。43年（1910）5月に陸軍大学校教官を経て、翌44年（1911）12月よりドイツ駐在。大正2年（1913）2月に歩兵第10連隊大隊長となり、4年（1915）8月に名古屋連隊区司令官を経て6年（1917）8月に歩兵第64連隊長となる。翌7年（1918）8月に人事局恩賞課長となり、8年（1919）7月に参謀本部編成動員課長を経て、9年（1920）8月より参謀本部庶務課長となる。11年（1922）4月に歩兵第4旅団長を経て、12年（1913）8月より朝鮮軍参謀長となる。15年（1926）3月に運輸部長を経て、昭和2年（1927）7月に第2師団長（仙台）となり、5年（1930）12月に待命、翌6年（1931）1月に予備役となる。その後、帝国在郷軍人会・大日本武徳会に関わり、29年（1954）12月に死去。

(3.3.1) 構造と内容：赤井春海文書は、大正11年から15年までの日記、および大正13年から昭和20年までの詩集、ならびに書簡から構成される。本目録では、3つのSeries（No.1日記類、No.2詩集・随想、No.3書簡）を設定した。

Series No.1「日記類」は、赤井の陸軍時代に作成された業務関係の日記・日誌が中心である。ただし、毎日書き連ねられた日記は、歩兵第4旅団長時代（就任直後数ヶ月を除く）および朝鮮軍参謀長時代（就任直後数ヶ月のみ）をカバーする大正11年9月から12年12月までの日記2冊のみであり、その他7冊は日常的に記録されたものではなく、朝鮮軍参謀時代の視察時に記録されたものである。その内、謄写版のものが4冊

(No.6/7/9/10) があるが、これらは複数印刷（30-44部）され、朝鮮軍司令官鈴木莊六以下、朝鮮軍および軍関係者に配付された。なお、当館所蔵鈴木莊六文書には赤井から送られたこれらの記録は無い。その他、運輸部長時代の台湾視察記が1冊ある。赤井が業務に関わって作成した日記・視察記録はこれだけであり、他は不明である。この他、歩兵第4旅団司令部が作成した「北部兵团行動詳報」は、赤井本人が作成した日記類ではないが、日々の行動記録としてこのシリーズに含めた。

Series No.2「詩集・随想」は、大正13年から昭和20年までのあいだに赤井が作成した詩集「春海詩集」3冊が中心である。これらは赤井の私的活動として作成されたものであり、その他、「新不問語全」も私的活動に関わるものとしてこのシリーズに含めた。

Series No.3「書簡」は、書簡である。内容的には業務関係のものから私的なものまで含まれるが、1920年代から30年代にかけて陸軍関係者から送られてきた書簡が中心である。なお、掲載順序は五十音順に配列した。

(3.4.5) 形態と状態：赤井春海文書はすべて文書類であり、写真等は含まれない。ただし、日記に多くの写真が添付されている。書簡を除く文書類は製本されており、保存状態は良好である。ただし、古書店から購入したものであるため、原秩序は全く失われている。

(3.4.6) 検索手段：『史料目録 第95集』

(3.5.4) 関連資料の所在：当館所蔵「鈴木莊六文書」は、赤井が朝鮮軍参謀長時代の司令官であった鈴木莊六の個人文書である。

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
自大正十一年十月十六日 至大正十一年十月二十四日 北部兵团行動詳報〔「支那管理家屋並居住者状況要覧図」添付〕 歩兵第四旅団司令部	大正11年10月(1922年)	1冊・謄写版	1
自大正十一年九月一日至全十二年四月十日日記〔「歩兵第四旅団長トシテ西伯利駐屯ヨリ撤兵、弘前衛戍地勤務等」と表紙に記載〕 赤井春海	大正11年9月-12年4月(1922-23年)	1冊・ペン	2
大正十二年四月ヨリ十二月マデ日記 赤井春海	大正12年4-12月(1923年)	1冊・ペン	3
橈に乗りて鴨緑江を下るの記 赤井春海	大正13年2月(1924年)	1冊・ペン	4
豆満江沿岸及間島視察余録 赤井春海	大正13年9-11月(1924年)	1冊・ペン	5
平康龍岡演習場及平元街道視察余録 赤井春海	大正14年5月(1925年)	1冊・謄写版	6
満洲視察ト鮮奉会議余録 赤井春海	大正14年5-6月(1925年)	1冊・謄写版	7
鴨緑江筏下りト金剛山見物 赤井春海	大正14年9-11月(1925年)	1冊・ペン	8
浦項、慶州及蔚山視察余録〔「新羅旧都慶州古蹟案内」1点添付〕 赤井春海	大正14年12月(1925年)	1冊・謄写版	9
満洲駈けある記 赤井春海	大正15年1-2月(1926年)	1冊・謄写版	10
第二回台湾入り 赤井春海	大正15年7月(1926年)	1冊・ペン	11

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
春海詩集 自大正十三年 至昭和四年 卷之一 赤井春海	大正13年－昭和4年 (1924－29年)	1冊・墨書	13
春海詩集 自昭和五年 至同十五年 卷之二 赤井春海	昭和5年－15年(1930－40年)	1冊・墨書	14
春海詩集 自昭和十六年 至同二十年 卷之三 大尾 赤井春海	昭和16年－20年(1941－45年)	1冊・墨書	15
新不問語全〔昭和17年2月より長岡市日本互尊独報に赤井能足の名で掲載(33回)された時局随想を合綴。丁間資料「神前結婚式次第説明書」・「神前結婚式次第説明書」あり〕 赤井春海	昭和17年2月(1942年)	1冊・活版・ペン	12

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
書簡〔小生長男の先輩工藤明紹介〕 阿部信行→赤井春海	2月6日	1枚・墨書	16
書簡〔月出東山の書、軍人会館に掲示依頼〕 荒木貞夫→赤井春海	昭和9年6月27日(1934年)	4枚・墨書	17
書簡〔小松君の消息御配慮深謝〕 荒木貞夫→赤井春海	2月10日	1枚・墨書	18
書簡〔画帖揮毫送付〕 井上幾太郎→赤井春海	昭和11年11月7日(1936年)	1枚・墨書	19
書簡〔明後23日予定を副官へ伝言依頼〕 上原勇作→赤井春海	大正7年5月20日(1918年)	1枚・墨書	20
書簡〔病状報告、鈴木閣下へ御話を希望〕 上原勇作→赤井春海	大正12年1月24日(1923年)	1枚・墨書	21
書簡〔病状報告〕 上原勇作→赤井春海	昭和4月23日	1枚・墨書	22
書簡〔14日の出来事は南九州に甚大の衝動、善後処分が機宜に適えば心配無し〕 上原勇作→赤井春海	大正10年8月21日(1921年)	1枚・墨書	23
書簡〔副官・四元中佐の新聞への談判の件〕 上原勇作→赤井春海	大正7年5月29日(1918年)	1枚・墨書	24
書簡〔例の案文中の字句訂正の件〕 上原勇作→赤井春海	大正10年9月10日(1921年)	1枚・墨書	25
書簡〔渡鮮帰途の挨拶〕 上原勇作→赤井春海	7月2日	1枚・墨書	26
書簡〔栄転祝い〕 上原勇作→赤井春海	昭和2年8月1日(1927年)	1枚・墨書	27
書簡〔今般人事全般の関係から御勇退願う、後任は多門中將を予定〕 宇垣一成→赤井春海	昭和5年12月10日(1930年)	1枚・墨書	28
書簡〔依頼の書、別便にて郵送〕 内山小次郎→赤井春海	昭和9年2月2日(1934年)	1枚・墨書	29
書簡〔揮毫送付状〕 内山小次郎→赤井春海	昭和10年3月6日(1935年)	1枚・墨書	30
書簡〔軍人会館へ書額等寄附〕 大島健一→赤井春海	昭和9年3月19日(1934年)	1枚・墨書	31
書簡〔特別大演習成績良好、受領証落掌(同封別紙目録)〕 岡市之助→赤井春海	明治42年11月22日(1909年)	2枚・墨書	32
書簡〔松川建碑の件。故明石大將長男元長氏縁談取調依頼〕 尾野実信→赤井春海	3月6日	1枚・墨書	33
書簡〔遠路来駕、国防思想の普及に尽力御苦労〕 香椎浩平→赤井春海	昭和10年6月27日(1935年)	1枚・墨書	34
書簡〔赴任挨拶〕 菊池慎之助→赤井春海	大正10年5月8日(1921年)	1枚・墨書	35
書簡〔宇垣陸相・河合参謀総長と会合、朝鮮軍出兵迅速に感服。湯浅総監にも何れ面会したい〕 菊池慎之助→赤井春海	1月19日	1枚・墨書	36
書簡〔京城附近の水害、御心労を推察。幕僚一同からの見舞状お礼。〕 菊池慎之助→赤井春海	7月25日	1枚・墨書	37
書簡〔在郷軍人会長より太刀贈呈お礼〕 清浦奎吾→赤井春海	昭和10年9月17日(1935年)	1枚・墨書	38

赤井春海文書目録 / 書簡

書簡〔上杉家へ頂戴の時日、御教示お願い〕 黒井梯二郎→赤井春海	大正10年5月22日(1921年)	1枚・墨書	39
書簡〔現在の健康状態では今回の洋行賛成せず〕 児島惣次郎→赤井春海		1枚・墨書	40
書簡〔会津塗りお礼〕 白川義則→赤井春海	昭和3年3月17日(1928年)	1枚・墨書	41
書簡〔小生第12師団に転出の内命、後任は小磯中将に依嘱、鈴木会長に概要報告〕 杉山元→赤井春海	昭和2月26日	1枚・墨書	42
書簡〔淡路の政岡嘉三郎紹介〕 鈴木莊六→赤井春海	大正10年10月26日(1922年)	1枚・墨書	43
書簡〔三条在郷軍人会後援会功労者源川万吉・広川長人へ表彰を希望〕 鈴木莊六→赤井春海	昭和3年10月16日(1928年)	1枚・墨書	44
書簡〔陸海軍連合演習の件〕 鈴木莊六→赤井春海	昭和4年5月1日(1929年)	1枚・墨書	45
書簡〔勇退のねぎらい〕 鈴木莊六→赤井春海	昭和(5年)12月15日(1930年)	1枚・墨書	46
書簡〔招宴の誘い〕 鈴木莊六→赤井春海	10月13日	1枚・墨書	47
書簡〔当選挨拶〕 多田満長→赤井春海	昭和17年5月7日(1942年)	1枚・墨書	48
書簡〔昨日依頼の件〕 多田満長→赤井春海	2月14日	1枚・墨書	49
書簡〔揮毫のお礼〕 多田満長→赤井春海	12月18日	1枚・墨書	50
書簡〔退職雑感〕 立花小一郎→赤井春海	大正12年3月20日(1923年)	1枚・墨書	51
書簡〔謡曲のお礼〕 坪谷善四郎→赤井春海	昭和17年2月22日(1942年)	3枚・墨書	52
書簡〔南京陥落、対支軍事は大勢決すも之より時局本舞台に入る。近く新なる積極行動〕 土肥原賢二→赤井春海	昭和13年1月1日(1938年)	1枚・墨書	53
書簡〔翼賛選挙にて東北地方遊説大成果の由。往年の回顧。〕 土肥原賢二→赤井春海	昭和17年5月16日(1942年)	4枚・墨書	54
書簡〔山形市師管連合支部武術大会・講習会に出席お礼〕 中村孝太郎→赤井春海	昭和9年11月4日(1934年)	1枚・墨書	55
書簡〔知己の在郷将校の就職斡旋依頼〕 奈良武次→赤井春海	昭和8年8月26日(1933年)	1枚・墨書	56
書簡〔書簡に対するお礼〕 西尾寿造→赤井春海	昭和11月18日	1枚・墨書	57
書簡〔委任統治など国際聯盟脱退に関する所感〕 蜷川新→赤井春海	昭和7年11月17日(1932年)	1枚・墨書	58
書簡〔礼状〕 畑俊六→赤井春海	昭和10年7月3日(1935年)	1枚・墨書	59
書簡〔今野修三陸軍省恩給局採用の件。八田宛今野書簡同封〕 八田宗吉→赤井春海	昭和8年5月2日(1933年)	1枚・墨書	60
書簡〔藤中佐平癒、復職希望〕 福田雅太郎→赤井春海	大正(10年)7月18日(1921年)	1枚・墨書	61
書簡〔在郷軍人会より記念品贈与のお礼〕 藤田尚徳→赤井春海	昭和9年5月24日(1934年)	1枚・墨書	62
書簡〔大日本武徳会発展を期し東北六県巡視、宮城県のみ増募計画報告無し。中屋警察部長に面会を〕 本郷房太郎→赤井春海	昭和3年3月2日(1928年)	1枚・墨書	63
書簡〔中屋氏に依頼感謝。松川將軍危篤〕 本郷房太郎→赤井春海	昭和3年3月7日(1928年)	1枚・墨書	64

書簡〔里見中佐の件、求職者雲集のため貴本部内満蒙班にて採用願う。来満移民の件、特務部でも苦心、在来支那人に不安を与う、日本側でも声を大にせず充分の用意肝要〕 本庄繁→赤井春海	昭和7年4月20日(1932年)	4枚・墨書	65
書簡〔御申越の件、佐倉代表者より申込まれ承知。町民は神経過敏、小生未だ決定し居らず〕 真崎甚三郎→赤井春海	昭和5年4月3日(1930年)	1枚・墨書	66
書簡〔揮毫出来上がる〕 松尾伝蔵→赤井春海	昭和10年11月25日(1935年)	1枚・墨書	67
書簡〔第2師団長就任祝〕 三矢宮松→赤井春海	昭和2年8月29日(1927年)	1枚・墨書	68
書簡〔鈴木大将は京都武徳大会出席、安保海相より東郷元帥の御意見、会長辞任鈴木大将後任同意〕 南次郎→赤井春海	昭和6年7月22日(1931年)	1枚・墨書	69
書簡〔人事大異動の期も近く多忙を察す、小生は随時検閲終了〕 武藤信義→赤井春海	大正10年7月6日(1921年)	1枚・墨書	70
書簡〔例の統帥権問題、陸海軍共に従来の慣行変更の必要認めず。政府の処置は不可解、陸軍軍制改革問題も前途予測し難き。〕 武藤信義→赤井春海	昭和(5年)6月13日(1930年)	1枚・墨書	71
書簡〔第3師団へ転任挨拶〕 武藤信義→赤井春海	大正10年5月24日(1921年)	1枚・墨書	72
書簡〔赤井滞陣中の「シコトワ」は、小生22年前の浦潮要塞偵察中に苦心した地。軍縮実施、準備に忙殺〕 武藤信義→赤井春海	大正11年7月5日(1922年)	1枚・墨書	73
書簡〔陸軍大移動も一段落、野副の件、御尽力御礼〕 武藤信義→赤井春海	大正10年7月22日(1922年)	1枚・墨書	74
書簡〔星巖書売り出しの件〕 佐久間→浅野	7月18日	1枚・墨書	75

熊田保文書目録

熊田保文書目録 本文細目次

Series No1: 俘虜情報局 135

Series No2: 薩哈噠軍政部 142

熊田保文書目録 解題

(3.1.1) 資料記号：2009L

(3.1.2) 資料名称：熊田保文書：The Paper's of KUMADA, Tamotsu

(3.1.3) 年代：1910（大正11）年－1960（昭和35）年

(3.1.5) 物的状態：23点（0.40m）

(3.2.4) 来歴：熊田保文書は、2009年度に古書店より購入したものである。

(3.2.2) 履歴：熊田保は明治23年（1890）12月5日、東京に生まれた。44（1911）年9月岩倉鉄道学校卒。大正13年4月30日に陸軍属として薩哈噠軍政部付となる。その後、第2次世界大戦期には捕虜情報局に勤務した。昭和21（1946）年6月に俘虜情報局復員事務官となり、同局調査課長総理府事務官を経て、25（1950）年11月に同局長となる。

なお、俘虜情報局は、日露戦争・第一次世界大戦時に設置された前例があり、日米開戦後の昭和16年（1941）12月27日に勅令第1246号を以て俘虜情報局官制が公布されて発足した。陸軍大臣の管理の下、発足当初は長官以下25名の職員を抱えていた。主に俘虜の氏名・年齢・国籍・身分・階級・所属部隊・捕虜となった場所および年月日・収容所などの情報を集めて「俘虜銘々票」を作成し、中立国・機関を通じて相手国へ通報、または問い合わせへの回答、俘虜郵便・遺品の発受信といった業務を行った。敗戦後に第一復員省所管の下で人員を増加し（最大291名）、整理作業に当たったが、21年（1946）1月よりGHQの直接監理下に置かれ、27年（1952）4月のサンフランシスコ講和条約発効までGHQ派遣の管理官による監督下で戦犯裁判資料の調整提出業務と銘々票整備を中心とした俘虜業務に従事した。なおこの間、21年（1946）6月に第一復員省廃止に伴い内閣総理大臣の所管、23年（1948）1月には長は長官から局長となり、24年（1949）6月より総理府附属機関となった。その後、連合国への銘々票引き渡し完了（30年5月）したのを受け、32年（1957）8月1日に廃止された。

(3.3.1) 構造と内容：熊田保文書は、俘虜情報局および薩哈噠軍政部に関わる業務文書から構成され、私的な文書は含まれない。本目録では、2つのSeries（No.1 俘虜情報局・No.2 薩哈噠軍政部）を設定した。

Series No.1「俘虜情報局」は、熊田の俘虜情報局時代に作成された業務関係の文書17点である。第2次世

界大戦期に捕虜となった連合国軍兵士を管理した俘虜情報局が作成した文書であり、本来は行政文書と位置づけられるものである。なかでも中心となるのは庶務関係の文書を綴った簿冊形態のもの2点であり、これらについては利用の便宜を図るため件名を採録した。

Series No.2「薩哈噠軍政部」は、北樺太補償占領時に北樺太に設置された薩哈噠軍政部に関連する文書であり、熊田が業務上作成したものである。

(3.4.5) 形態と状態：熊田保文書はすべて文書類であり、写真・モノ資料は含まれない。文書の保存状態は大正期に作成された文書はおおむね良好であるが、1945年前後に作成された文書は紙質の酸性化が激しく、保存措置を図るためマイクロフィルム撮影を行った。現在は、紙焼き本での閲覧が望ましい。また、古書店から購入したものであり、購入時点において原秩序は全く失われていた。

(3.4.6) 検索手段：『史料目録 第95集』

(3.5.4) 関連資料の所在：俘虜情報局に関する文書が外務省外交史料館および国立公文書館に所蔵されている。この他、スウェーデン国立公文書館・スイス連邦公文書館および国際赤十字委員会アーカイブズにも俘虜情報局が提出した文書、および交渉に関する文書が保管されている。また、資料集としては、内海愛子・永井均編『東京裁判資料－俘虜情報局関係文書』（現代史料出版、1999年）、茶園義男編『俘虜情報局・俘虜取扱の記録』（不二出版、1992年）がある。

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
事務参考綴		1綴	1
収容所及軍管区名表トノ関係 俘虜情報局罫紙		1枚・ペン	1-1
陸軍用紙類ノ節約要領		1枚・タイプ	1-2
既設編成定員ニ対スル現員表	昭和20年6月20日(1945年)	1枚・タイプ	1-3
俘虜情報局及陸軍省俘虜管理部業務分担表	昭和20年7月11日(1945年)	1枚・タイプ	1-4
俘虜情報所本所所在地一覽表	昭和20年7月8日(1945年)	1枚・タイプ	1-5
俘虜収容所俘虜人員表(五月末) 俘虜情報局罫紙	5月	1枚・ペン	1-6
〔俘虜収容所俘虜人員表〕 俘虜情報局罫紙	昭和20年5月32日(1945年)	1枚・ペン	1-7
俘虜収容所俘虜人員表 俘虜情報局罫紙	昭和20年7月20日(1945年)	1枚・ペン	1-8
俘虜労務緊急轉換ニ依ル新配置表	昭和20年7月15日(1945年)	1枚・タイプ	1-9
俘虜労務緊急轉換ニ依ル俘虜使用取消一覽表	昭和20年7月15日(1945年)	1枚・タイプ	1-10
義勇兵役服務者ノ諸手續規則抜粋		3枚・タイプ	1-11
事務簡捷ニ関スル件陸軍一般へ通牒 美山要蔵	昭和20年6月11日(1945年)	1枚・ペン	1-12
褒賞ニ関スル内規設置要綱		2枚・タイプ	1-13
褒賞ニ関スル内規 俘虜情報局	昭和20年6月21日(1945年)	4枚・タイプ	1-14
俘虜情報局俘虜月報編纂改正要綱		9枚・タイプ	1-15
俘虜死亡・解放数ノ総数 俘虜情報局罫紙		1枚・ペン	1-16
俘虜収容所区分、所在地労務ニ関スル表	昭和20年7月15日(1945年)	1枚・タイプ	1-17
艦砲射撃ヲ受ケタルトキノ待避ニ付テ 控 熊田保		1枚・ペン	1-18
俘虜収容所区分、所在地労務ニ関スル表 俘虜情報局罫紙	昭和20年6月30日(1945年)	6枚・ペン	1-19
俘虜収容所一覽表 陸軍罫紙	昭和18年12月31日(1943年)	1枚・ペン	1-20
東京、大阪収容所ノ管内移動人員表 俘虜情報局罫紙		2枚・ペン	1-21
俘虜収容所調査表 陸軍罫紙		3枚・ペン	1-22
業務分担表 俘収会同	昭和20年10月3日(1945年)	1枚・タイプ	1-23
俘虜収容所長会同行事表	昭和20年10月3日(1945年)	1枚・タイプ	1-24
内地俘虜収容所監視員調査表 俘虜情報局罫紙	昭和19年6月1日(1944年)	7枚・ペン	1-25
俘虜月報調 俘虜情報局罫紙	昭和〔21年〕(1946年)	1枚・ペン	1-26
遭難船舶		1枚・タイプ	1-27

焼却書類目録 俘虜情報局罫紙		1枚・ペン	1-28
焼却書類目録(控) 陸軍罫紙		1枚・ペン	1-29
俘虜情報局ノ文書及記録焼却ニ関スル□報告 案内	昭和20年11月5日(1945年)	2枚・タイプ	1-30
葬儀委員編成		1枚・謄写版	1-31
[書類綴目録]		5枚・ペン	1-32
帝国俘虜概数一覧表	昭和20年8月末日(1945年)	1枚・タイプ	1-33
俘虜収容所開設年月日一覧表 [丁間資料:「収容所月日一覧表」]		1枚・タイプ	1-34
俘虜収容所長官氏名調査表		1枚・タイプ	1-35
俘虜情報局職員表(自開局至現在)	昭和20年12月2日(1945年)	1枚・タイプ	1-36
俘虜収容所開設年月日一覧表		1枚・タイプ	1-37
俘虜収容所長官氏名調査表 [丁間資料:「歴代所長」]		1枚・タイプ	1-38
囑託員・雇員・傭人俸給額表及局内内規 陸軍罫紙	昭和20年12月10日(1945年)	2枚・ペン・タイプ	1-39
Organisation of the GHQ		4枚・謄写版	1-40
一月、二月、三月休日出勤割表 俘虜情報局罫紙		1枚・ペン	1-41
出張経歴書 俘虜情報局罫紙	2月	1枚・謄写版	1-42
木炭配給ノ件 俘虜情報局罫紙→各課長	昭和21年2月8日(1946年)	1枚・タイプ	1-43
木炭価格表(農林省告示第五十号 昭和20年1月30日改正)	昭和20年1月29日(1945年)	1枚・謄写版	1-44
[メモ]		4枚・ペン	1-45
俘虜情報局職員(終戦前ニ於ケル) 俘虜情報局罫紙		1枚・ペン	1-46
長官訓示(職員組合ニ対シ回答ノ際)		1枚・謄写版	1-47
就解職及現住所調査表 俘虜情報局罫紙		1枚・ペン	1-48
自給農園実施計画	昭和20年13日(1945年)	2枚・タイプ	1-49
[メモ]		1枚・ペン	1-50
受領証 調査課→庶務課	昭和21年3月14日(1946年)	1枚・ペン	1-51
命令 俘虜情報局罫紙	3月15日	1枚・ペン	1-52
第一復員省職員表 大臣官房文書課	昭和21年2月(1946年)	1冊・謄写版	1-53
俘虜情報局人員表 俘虜情報局用紙	昭和21年3月10日(1946年)	1枚・タイプ	1-54
一人ニテ独立ノ生計ヲ営ム男子一ヶ月ノ経費 [同文1枚]		2枚・謄写版	1-55
俘虜情報局市ヶ谷連絡所業務分担表 俘虜情報局用紙	昭和21年3月18日(1946年)	1枚・タイプ	1-56

厚生年金ト恩給額比較表 俘虜情報局用紙		1枚・タイプ	1-58
連絡人員表〔裏面:在日本朝鮮人連盟中央総本部訪問記録〕 陸軍野紙	3月13日	1枚・ペン	1-59
〔在日本朝鮮人連盟中央総本部訪問記録 k-1-59の裏面と同文・×にて抹消〕 陸軍野紙		1枚・ペン	1-60
〔来診医師の氏名について〕 俘虜情報局野紙		1枚・ペン	1-61
〔裁判傍聴時の米・代金支給について 書込「俘虜関係調査部横浜連絡部森本」、標題部分切り取り〕		1枚・タイプ・ペン	1-62
宿泊申込書		1枚・タイプ	1-63
人往第477号 第一復員省業務局長		1枚・ペン	1-64
訓令案 陸軍野紙		1枚・ペン	1-65
恩賜財団同胞援護局 陸軍野紙		1枚・ペン	1-66
〔書簡・電文写〕 法務調査部第三科→俘虜情報局		1枚・ペン	1-67
〔メモ〕 陸軍野紙		1枚・ペン	1-68
一万人ニ対スル戦時ノ補給数量調書 俘虜情報局野紙		1枚・ペン	1-69
比島ニ対スル医薬品等補給ニ関スル件照会 小田島復員官→秋月復員官	昭和21年3月25日(1946年)	1枚・ペン	1-70
東京俘虜収容所大船分遣所 俘虜情報局野紙		1枚・謄写版	1-71
弁護資料一 俘虜ニ関スル国際条規トノ問題		1枚・タイプ	1-72
The first date of defence		2枚・タイプ	1-73
弁護資料第二 陸海軍部隊ニ派遣セラレタル俘虜ニ関スル責任関係		1枚・タイプ	1-74
週間定例会議(報)予定(案) 総務課		1枚・ペン	1-75
受領証 渋谷囑託→熊田保	4月8日	1枚・墨書	1-76
〔第一復員局人員表〕 陸軍野紙		1枚・ペン	1-77
戦争犯罪人関係住所調査表		1枚・ペン	1-78
復員庁及第一復員局職員表〔同文3部〕		3枚・謄写版	1-79
各官庁における文書の文体等に関する件	昭和21年4月18日(1946年)	1枚・タイプ	1-80
自四月五日至五月十二日留守中主要なる人事及其他報告 陸軍野紙		2枚・ペン	1-81
復員庁及第一復員局職員表	4月28日	1枚・謄写版	1-82
中部復員監部付トシテ勤務可能ノ件 俘虜情報局長官	昭和21年2月27日(1946年)	1枚・ペン	1-83
立替払請求書 熊田囑託→経理室	昭和21年6月17日(1946年)	1枚・ペン	1-84
〔メモ〕		1枚・ペン	1-85
復員留守業務規程 第一復員省	昭和21年4月15日(1946年)	1冊・活版	1-86

俘虜情報局人員表〔同文2部〕	昭和21年6月19日(1946年)	2枚・謄写版	1-87
購買輸送証明書 俘虜情報局長官	昭和20年12月28日(1945年)	1枚・ペン	1-88
〔メモ〕		1枚・ペン	1-89
業務用木炭請求書(納品書) 東京都燃料配給統制組合 支部→情報局	昭和21年2月7日(1946年)	1枚・ペン	1-90
領収書 東京都燃料配給統制組合 理事長広瀬興兵衛→ 情報局	昭和21年2月7日(1946年)	1枚・ペン	1-91
〔メモ〕		1枚・ペン	1-92
〔書簡控〕 熊田→小宅	9月23日	1枚・ペン	1-93
現住所ノ調〔丁間資料:松崎武治の住所〕 小宅	9月25日	1枚・ペン	1-94
秋季慰安旅行実施計画の件 俘虜情報局罫紙		1枚・ペン	1-95
書簡 大村屋商店→熊田保	昭和21年9月29日(1946年)	1枚・ペン	1-96
連絡所勤務書表 世話人会事務室	昭和21年10月1日(1946年)	1枚・ペン	1-97
各俘虜収容所長弁護資料(内地) 連絡所中川		2枚・ペン	1-98
〔俘虜収容所所在地〕		6枚・タイプ	1-99
内地俘虜収容所ニ於ケル俘虜取扱ニ関スル件調査 報告 俘虜関係調査中央委員会	昭和〔21年〕(1946年)	1綴・タイプ	1-100
〔書簡控〕 俘虜情報局罫紙		1枚・ペン	1-101
俘虜情報局親睦会々則	昭和22年4月18日(1947年)	1枚・タイプ	1-102
〔メモ〕		1枚・ペン	1-103
封鎖預金等支払許可申請書 熊田保→大蔵大臣石橋湛 山	昭和22年5月15日(1947年)	1枚・ペン	1-104
総理庁職員共済組合□□□ 昭和22年度版〔同 文2部〕	昭和21年度	2枚・謄写版	1-105
〔メモ〕		1枚・ペン	1-106
最終学歴調査表 俘情連絡所	昭和22年(1947年)	1枚・ペン	1-107
始末書 小田島董→戦災復興院東京建築出張所長	昭和22年8月10日(1947年)	2枚・印刷	1-108
交渉経過調	5月5日	1枚・ペン	1-109
最終学校及金属年数調 俘虜情報局罫紙	昭和22年(1947年)	1枚・ペン	1-110
〔メモ〕 俘虜情報局罫紙		1枚・ペン	1-111
身上明細帳〔未記入〕		1枚・タイプ	1-112
俘虜讓歩局職員住所録		1枚・タイプ	1-113
各俘虜収容所収容人員一覧表 俘虜情報局罫紙		1枚・タイプ	1-114
降山誠一氏に聞く巢鴨の近況	昭和〔22年〕(1947年)	1枚・ペン	1-115
昭和23年分所得税予定申告書〔未記入〕		1枚・活版	1-116
所得税確定申告注意書 東京財務局・税務署	昭和23年1月(1948年)	1枚・活版	1-117

〔メモ〕		1枚・ペン	1-118
〔メモ〕		1枚・ペン	1-119
〔給与明細〕		1枚・謄写版・ペン	1-120
官吏服務紀律		1枚・謄写版	1-121
日直・宿直欠勤調 連絡所→經理課	4月14日	1枚・謄写版	1-122
〔メモ〕		1枚・ペン	1-123
庁舎其他について依頼 俘虜情報局→復員局文書課	昭和〔22年〕4月22日(1947年)	1枚・ペン	1-124
わかは会「ハイキング」次第		1枚・タイプ	1-125
昭和二十年執務綴		1綴	2
庶務(庶務)内判任官以下業務分担表 庶務班	昭和20年12月15日(1945年)	1枚・謄写版	2-1
俘虜情報局移転実施計画〔附:市ヶ谷台東第二号庁舎俘虜情報局配室区分〕		2枚・タイプ・謄写版	2-2
俘虜情報局業務処理暫定規程案		1枚・謄写版	2-3
俘虜情報局業務分担表		1枚・謄写版	2-4
俘虜情報局移管ノ為メ収容建物容積予定		1枚・タイプ	2-5
市ヶ谷台東第二号庁舎俘虜情報局配室区分		1枚・謄写版	2-6
俘虜情報局ニ就テ →俘虜情報局	昭和20年11月6日(1945年)	1枚・謄写版	2-7
庶務班移転計画		1枚・ペン	2-8
庁舎移動細部計画 俘虜情報局罫紙		1枚・謄写版	2-9
俘虜情報局職員表		6枚・タイプ	2-10
副官ヨリ管理部長宛通牒	昭和17年11月22日(1942年)	1枚・タイプ	2-11
〔会食参集願〕 長官→小田島大佐ほか		1枚・ペン	2-12
庶務班業務分担表		1枚・謄写版	2-13
電話番号表 俘虜情報局	昭和20年12月27日(1945年)	1枚・タイプ	2-14
年末年始休暇出務人名表 俘虜情報局	昭和20年12月28日(1945年)	1枚・謄写版	2-15
業務処理暫定規定(案)第十条ニ基ク業務要報資料ヲ左ノ如ク記載セラレ度 総務班長	昭和20年12月25日(1945年)	1枚・謄写版	2-16
新聞配布表		1枚・謄写版	2-17
俘虜情報局業務処理暫定規程案		2枚・タイプ	2-18
書類整理ノ件 中村事務官	昭和21年1月14日(1946年)	1枚・ペン	2-19
第一復員省裁判関係横浜連絡所案内 俘虜情報局罫紙	昭和21年1月10日(1946年)	2枚・謄写版	2-20
俘虜収容所労務状況一覧表 俘虜情報局罫紙		1枚・ペン	2-21
俘虜収容所労務状況一覧表 俘虜情報局罫紙		1枚・ペン	2-22

軍用略語一覧表 第一復員省翻訳部	昭和21年1月16日(1946年)	7枚・タイプ	2-23
遅刻者取締ニ関スル件		1枚・タイプ	2-24
甘藷分配ニ関スル件 庶務課	昭和21年1月25日(1946年)	1枚・タイプ	2-25
巢鴨拘置所差入禁止品 終戦連絡中央事務局巢鴨分室		1枚・タイプ	2-26
近親者死亡の場合の弔慰金 俘虜情報局罫紙		1枚・ペン	2-27
高田囑託ヨリ電話(11月6日1630受信桃井中尉) 俘虜情報局罫紙		1枚・謄写版	2-28
〔日本電報通信社広告〕		1枚・活版	2-29
普通定期乗車券発行の登録手続き 東京鉄道局旅客課		1枚・活版	2-30
南方各地集結状況		1綴・謄写版	2-31
三月中休日分局高等官日直割当表 俘虜情報局罫紙		1枚・タイプ	2-32
忌引休務の件		1枚・タイプ	2-33
在支部隊邦人集結位置図	1月	1枚・活版	2-34
俘虜情報局(俘虜管理部)職員表 陸軍罫紙		1枚・ペン	2-35
雇員事務員等増給申立書		1枚・墨書	2-36
俘虜情報局事務官職員表	昭和21年6月13日(1946年)	3枚・ペン	2-37
通牒 俘虜情報局市ヶ谷連絡所	昭和21年3月18日(1946年)	1枚・タイプ	2-38
〔俘虜情報局宛伺先例〕		3枚・謄写版	2-39
被抑留亜米利加従軍記者ノ待遇ニ関スル件 〔写〕 外務次官→俘虜情報局長官	昭和18年1月26日(1943年)	1枚・謄写版	2-40
次官ヨリ外務次官へ回答案 〔写〕	昭和18年3月12日(1943年)	1枚・謄写版	2-41
復員庁及第一復員局職員表		1枚・謄写版	2-42
当用漢字表・現代かなづかい表 内閣・文部省		1枚・活版	2-43
〔東京俘虜収容所服務規程印刷について 附:俘虜業務ノ系統及任務ノ概要・俘虜情報局分課規定他〕 俘虜情報局調査課→熊田保		5枚・ペン・謄写版・タイプ	2-44
〔メモ〕		1枚・ペン	2-45
仙台第一・第二分所勤務者名簿 情報課	1月22日	2枚・タイプ	2-46
死亡俘虜遺骨引渡状況表 俘虜情報局	昭和26年9月(1951年)	1綴・タイプ	3
月別徴兵関係問答集 麻布連隊区司令部		1綴・ペン	4
俘虜情報局職員推薦状 熊田保		1通・タイプ	5
俘虜情報局の設置とその業績の概要 俘虜情報局	昭和28年2月28日	1綴・タイプ	6
〔俘虜情報局業務概要報告〕 俘虜情報局長→内閣官房長官	昭和28年3月30日	1綴・タイプ	7
俘虜情報局職員表 俘虜情報局罫紙	昭和28年12月24日	2枚・タイプ	8

各課業務分担表 俘虜情報局	昭和26年7月	1綴・タイプ	9
俘虜業務と現況説明 俘虜情報局長	昭和26年8月	1綴・タイプ	10
俘虜の労務者としての価値 俘虜情報局用紙	昭和24年12月20日	2綴・タイプ	11
〔俘虜情報局長兼俘虜情報局長官田村浩起訴状〕 俘虜情報局用紙	昭和23年	1綴・タイプ	12-1
履歴書〔田村浩〕	昭和〔26年〕	1綴・タイプ	12-2
昭和27年以降 税金関係綴	昭和27年 - 35年(1952 - 1960年)	1綴・活版・ペン	13
各抑留所沿革調	昭和24年6月	1綴・謄写版・ペン	15
俘虜ニ関スル諸法規類集 俘虜情報局	昭和21年12月	1冊・活版	16
1949年(ジュネーブに於て)捕虜の取扱に関する条約 俘虜情報局罫紙		1綴・活版	17

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

Series No2: 薩哈噠軍政部

〔兵役事務関係書類綴〕		1綴・タイプ・活版・ペン	18
薩哈噠軍政部職員名簿(兼職ヲ除ク) 軍政部官房	大正13年8月20日	1綴・謄写版	19
撤兵ニ関スル尼港方面各国人ノ感想		1綴・謄写版	20
嗚呼尼港	大正11年9月19日	1綴・謄写版	21
撤退業務詳報 熊田	大正11年10月5日	1綴・謄写版	22
招待状〔東京偕行社饗饌〕 一木喜徳郎→陸軍属 熊田保	昭和3年11月1日(1928年)	1通・活版	14

史料目録 第95集
近現代文書目録（その1）

印刷発行 平成24年3月31日
発行者 人間文化研究機構 国文学研究資料館
編集 調査収集事業部
〒190-0014
東京都立川市緑町10-3
電話番号 050-5533-2900（代）
印刷 三鈴印刷株式会社

©人間文化研究機構 禁無断複写
（本目録は国文学研究資料館史料館の『史料館所蔵史料目録』（第78集まで発行）を継続しています。）
（本文用紙は中性紙を使用しています。）

978-4-87592-159-2